

一、同北側町屋 東西百九間餘。但町内早稻田町入込有之、并往來道幅間數相除申<sub>レ</sub>。

一、同南北拾八間<sub>ヲ</sub>貳拾四間半迄。

一、右四隣 東之方早稻田町、西之方穴八幡放生寺、南之方馬場下横町、北之方

下戸塚村。○中

一、石橋 長壹間半餘。幅貳間餘。

右町目境穴八幡前<sub>ニ</sub>有之、下水<sub>ハ</sub>掛渡、駒之橋<sub>ヲ</sub>唱申<sub>レ</sub>。尤前<sub>ヲ</sub>御普請所<sub>ニ</sub>御座<sub>レ</sub>。

一、下水

右當町<sub>ニ</sub>有之<sub>レ</sub>、水元大久保村下水尾州様御屋鋪<sub>ニ</sub>入、夫<sub>ヲ</sub>流出、末<sub>ニ</sub>早稻田村下戸塚村<sub>ヲ</sub>江戸川<sub>ニ</sub>流落申<sub>レ</sub>。

一、下水 幅壹尺五寸。

右町内銘々店前<sub>ニ</sub>有之、尤雨落下水<sub>ニ</sub>御座<sub>レ</sub>。○中

一、濟松寺領高三百四十五石三斗餘、町内反別壹町五反三畝拾八步、内寺敷壹反六步正覺寺分。

一、野方領武州豐島郡濟松寺領<sub>ニ</sub>御座<sub>レ</sub>。尤往古之地頭所相分り不申、正保三戌年十二月中、同寺領<sub>ニ</sub>相成申<sub>レ</sub>。

正覺寺  
門前

正覺寺門前

右門前起立之儀<sub>ニ</sub>、往古牛込村之内<sub>ニ</sub>、當所草創名主今井縫殿助家屋鋪<sub>ニ</sub>有之<sub>レ</sub>處、武州忍正覺寺三代目之住持碧山<sub>ニ</sub>、右縫殿助弟<sub>ニ</sub>、北面之内<sub>ニ</sub>、旅庵營有之<sub>レ</sub>處、縫殿助願<sub>ニ</sub>依<sub>ル</sub>、寛永六巳年正覺寺起立仕、右寺地之内<sub>ニ</sub>、追々町家<sub>ニ</sub>相成<sub>レ</sub>付、牛込正覺寺門前<sub>ヲ</sub>相唱來<sub>レ</sub>。右起立願濟之年代并寺社御奉行所之儀<sub>ニ</sub>、書留燒失仕、相分り不申<sub>レ</sub>。其後寺社御奉行御支配<sub>ニ</sub>御座<sub>レ</sub>處、延享二丑年十一月中、町御奉行能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役中、町方御支配被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>。

一、町内 東西<sub>ニ</sub>間口十五間。裏幅同斷。南北裏行六間餘。但同寺門幅間數除之。

一、四隣 東之方牛込馬場下町、西之方同斷。南之方同寺境内。北之方牛込馬場下町。

一、町内之儀<sub>ニ</sub>、馬場下町續<sub>ニ</sub>付、里俗馬場下町<sub>ヲ</sub>相唱申<sub>レ</sub>。○中

一、町内反別 貳畝貳拾七步。



一、武州豊島郡野方領之内ニある、正保三戊年十二月三日濟松寺領ニ相成、今以同寺領年貢地ニ御座シ。

府内備考

十一月五日壬寅

○正保四年紀元二三〇七年〇壬寅三正綜覽

放鷹地ニ高札ヲ樹ツ。

○武家嚴制錄

鷹場高札  
鷹場高札事

鷹場高札 左ノ如シ。

御鷹場札

定

一、御鷹場ニおゐて脇鷹はうひ、其外諸事殺生いとほをの有之ハ、精を入無油斷可見出事。

一、御意之由ニある御鷹つうひ、又ハ何様之殺生致をの有之といふとも、見出次第改之、依其仁體、屋敷迄送届、其上松平伊豆守綱所迄可注進之。若又輕之

ニ於てハ、睨と住所を有之間敷ハ、間直ニ伊豆守所迄、可送届之。自然見のグシ聞通す、於てハ、其村中之をの御穿さくの上、可爲曲事哀。

一、夜中ニ殺生いとすをの可有之間、夜をいゝし可相改之、たとひ同類ありといふとも、申出ニ於てハ、其科をゆるし、其品ニより、御褒美として或金銀或ハ其身の田畑を可被下事。

正保四年十一月七日

奉行

武家嚴制錄

七日○正保四年十一月〇中略この日御放鷹の地に牌をたてらる。その文にいはいはく、鷹場

にをいて鷹をはふち、其外殺生するものあらば、心入見出すべし、上旨といつはり鷹をはふち、あるは何等の殺生する者有といへども、見及はゞ査檢して、其人に應じ、住所まで送りゆき、松平伊豆守信綱か第に來り訴ふべし、もし賤者ならんには、居所も詳なるまじければ、たゞちに伊豆守信綱か第に送り來るべし、もし見聞しながら通しやは曲事たるべし。夜陰に殺生する者あるべければ、巡夜すへし、たとひ同黨なりともうたへ出るに於ては、其科を免し褒賞として金銀あるは田圃を下さるへしとなり。——大猷院殿御實紀

十三日庚戌

○正保四年紀元二三〇七年〇庚戌三正綜覽

鹿兒島

○薩摩國

城主島津光久

○薩摩守犬

追物ヲ王子村

○武藏國豊島郡

ニ張行シテ、將軍

○徳川家光

ノ觀覽ニ供ス。諸侯皆

陪觀ス。

○公儀日記。正保錄。寛永小説。國朝舊章鑑。天享吾妻鑑。江戸紀聞。玉露叢

王子村犬追物

相傳フ、

○正保四年十一月十二日酉巳

天晴。卯刻地震。諸大名不殘登城。○中略明日犬追物上覽之儀有上意

市街恢弘時代

三一七

王子村犬追物

王子村犬追物事蹟



云々。光久(○鳥津)犬追物可備也。入御已後、國主及四品已上之輩、諸大夫已下者漏之。等、御普代家面々、官位、但不依。明十三日於王子犬追物上覽之間、見物可仕上意旨、讚岐守伊豆

守豐後守相傳之、各平伏退出。

○正保四年十一月十三日

天晴。於王子犬追物上覽也。辰刻御本丸出御、已刻至王子、著御。御棧敷左右乎張、水戸黃門○德川頼房尾張○德川光友尾張○德川光貞尾張○德川光圀并國主及四品以上、其外

御普代家面々、御近習輩、御旗本、諸物頭等、其並ニ座列。各兼定其席、皆着常肩衣袴。薩摩侍從

光久鳥津薩摩守并息又三郎久平、着長袴、各別伺候。犬追物依備上覽也。則父子御祝儀、獻御樽

肴。於爰始、犬追物、射手三拾六騎、十二騎、宛三組射之。上手七疋放之。中矢三。次手犬四。次依御所望、射手撰十二騎、又一組射之。犬十疋放之。中矢八。事畢、自御棧敷常之御茶亭

に渡御。此間諸大名賜饗應。薩摩守家來又賜饗應、云々。其後薩摩守父子依召御

茶亭に參上、賜御盃御肴、御脇指貞宗代付拜領。息又三郎同前、御腰物國行代付拜

領。又薩摩守御腰物、國綱、又三郎御脇指、光弘、進上之。自其御鷹狩有之、入夜御本

丸還御。今日大納言殿に薩摩守相折二合御橋三荷御肴一種、又三郎相折一合

御樽二荷御肴一種、進上之。王子依無渡御、御本丸に以使者進獻之。御留守御本丸御番、依上意、松平式

部大輔勤仕之。大手御門當番小笠原右近大夫、雖令勤仕、就爲弓法之家、依別仰、

鳥津光久筆蹟

原寸竪二尺一寸四分 横七寸七分

公爵鳥津家所藏

包紙ニ、寛陽院様あそはし候御詩四枚、拾物よこ物、壹枚ハ大たか詠草也。下有リ。撮影スル所ハ、所謂大たか詠草ナル者也。

庭柿 左中將源光久朝臣

霜壓喬枝熟顆連。紅星累累燿庭前。全知晏子江南橘。嘗識金衣甘露鮮。



云々。光久○鳥津大追物可備也。入御已後、國主及四品已上之輩、諸大夫已等、御普代家面々、但、不依、明十三日於王子大追物上覽之間、見物可仕上意旨、讚岐守伊豆守豐後守相傳之、各平伏退出。

十三日庚戌天晴於王子大追物上覽也。辰刻御本丸出御、已刻至王子、著御、御棧敷左右乎張、水戸黃門○德川頼房尾張○德川光友尾張○德川光貞尾張○德川光圀并國主及四品以上、其外

御普代家面々、御近習輩、御旗本、諸物頭等、其並二座列。各兼定其席、皆着常肩衣袴。薩摩侍從

光久鳥津薩摩守并息又三郎久平、着長袴、各別伺候。大追物依上覽也。則父子御祝儀、獻御樽

肴、於爰始、犬追物、射手三拾六騎、十二騎宛三組射之。上手七正放之。中矢三。次手犬

四。次依御所望、射手撰十二騎、又一組射之。犬十正放之。中矢八。事畢、自御棧敷常之御茶亭

に渡御。此間諸大名賜饗應。薩摩守家來又賜饗應、云々。其後薩摩守父子依召御

茶亭に參上、賜御盃御肴、御脇指貞宗代付拜領。息又三郎同前、御腰物國行代付拜

領。又薩摩守御腰物、國綱、又三郎御脇指、光弘、進上之。自其御鷹狩有之、入夜御本

丸還御。今日大納言殿に薩摩守相折二合御橋三荷御肴一種、又三郎相折一合

御樽二荷御肴一種、進上之。王子依無渡御、御本丸に以使者進獻之。御留守御本丸御番、依上意、松平式

部大輔勤仕之。大手御門當番小笠原右近大夫雖令勤仕、就爲弓法之家、依別仰、

島津光久筆蹟

原寸竪二尺一寸四分、横七寸七分

公爵島津家所藏

包紙ニ、寛陽院様あそはし候御詩四枚。拾物よこ物、壹枚ハ大たか詠草也。下有リ。撮影スル所ハ、所謂大たか詠草ナル者也。

庭柿 左中將源光久朝臣

霜壓喬枝、熟顆連。紅星累累、覆庭前。全知晏子江南橘。嘗識金衣甘露鮮。



庭柿

全如晏子江南橘

嘗識金衣甘露鮮

此物... 庭柿... 晏子... 江南橘... 金衣甘露鮮... 嘗識... 庭柿... 晏子... 江南橘... 金衣甘露鮮... 嘗識... 庭柿... 晏子... 江南橘... 金衣甘露鮮... 嘗識...



庭柿

左中將源光久朝臣

霜壓喬枝熟顆連

紅星纍纍燦庭前

全如晏子江南橘

嘗識金衣甘露鮮



俄供奉。其替松平越中守勤之。内櫻田御門内藤帶刀、西之丸松原丹波守、各就當番勤仕之。内御宮大番稻葉美濃守、紅葉山火番水野監物、同所御佛殿火番松平若狹守、右面之依守其所之、王子不供奉。

今日申刻有火、其所名スガモ云々。依御留主、江戸中雖騒動、頓多相靜畢。

十五日壬子終日雨下。諸人出仕如例。無御目見。去十三日犬追物令見物諸大名、

忝旨御禮。松平伊豆守阿部豐後守等以面謁畢。

十六日癸丑天晴。薩摩侍從光久及嫡男島津又三郎久平出仕。去十三日依犬追

物上覽之儀也。於白書院御禮。將軍家以銀子貳百枚、吳服三十御太刀、定利御馬

栗毛。置鞍。薩摩守進上之。同銀子百枚、狸々皮拾間、御太刀、御馬、又三郎進上之。薩摩守

家老及今度犬追物役人不殘、依召登城有御目見。家老及弟老自御廊下出御前、

其余輩老、御次間並居、明間之御障子、一同御目見。其後各吳服拜領有差。其人數、

島津圖書家老。新納右衛門上。同島津安藝弟。光久。同市正上。同源助上。同鎌田又七郎上。伊

勢兵部上。各吳服。福田源左衛門旅家。町田勘ケ由又三郎守。島津上野同中務同彌

一郎同四郎右衛門同諸右衛門同十郎左衛門入道芳庵入來院石見肝付半兵

衛山田彌九郎本多六左衛門吉田長四郎村上内記菊地太右衛門、各吳服。二新



納刑部奉射手伊藤仁右衛門上島津長門同縫殿同又右衛門同又次郎同左太夫  
同源右衛門同七兵衛村上左京仁禮左近柏原彌太右衛門平田兵十郎本多甚  
兵衛同休左衛門同右衛門上井采女種ヶ島次郎右衛門同伊兵衛福屋伊賀同

助左衛門吉田久兵衛稅所彌吉福崎新三郎各吳服三宛

○正保四年十二月  
二日辰戌天晴風厲於二丸大納言殿德川家綱薩摩侍從光久及嫡男又三郎有

御禮今度犬追物依上覽之儀也光久御太刀長光御馬置鞍銀子百枚狸々皮拾  
間進上之。又三郎御太刀馬代黃金拾兩吳服十進上之。大納言殿御手光久賜熨  
斗頂戴時御腰物則光拜領則退多御脇指長光進上之。又三郎如前賜熨斗御脇  
差兼光拜領則御脇指安吉進獻之。其後光久家老弟及犬追物役人等御目見。次  
第去月十六日如御本丸各御服拜領。或二襲或三領或有差。

公儀日記

十月廿九日正保四年

一、於王子犬追物上覽之御殿御普請爲見分老中在遣之。

九月十六日正保四年

一、於王子犬追物上覽御殿御作事奉行眞田長兵衛多賀左近被仰付依之彼地

爲見分村越七郎左衛門差添被遣之云々。

十一月十一日正保四年

一、明十三日於王子犬追物上覽ニ付多場所爲見分大目付三人并拾人之御目  
付被遣之。

十一月十二日正保四年

一、明日王子に相越犬追物可有見物之旨松平肥前守に被仰遣之上使御使番  
之。

十一月十三日正保四年

一、松平薩摩守興行之犬追物爲上覽辰后刻出御即刻王子筋着御直御棧敷御  
上段御着座。

但御棧敷縁通不殘御幕有之。

一、犬追物爲見物依仰御先に供奉之面々所謂

水戸黃門

尾張宰相

紀伊宰相

水戸中將

尾張亞相雖爲在江戶依病痾無之。



松平越後守  
 松平長門守  
 毛利甲斐守  
 松平出羽守  
 松平土佐守  
 鍋島信濃守  
 細川肥後守  
 松平淡路守  
 立花右近將監  
 黒田右衛門佐  
 頼伊達遠江守  
 井伊掃部頭  
 井伊靱負尉  
 本多内記  
 内藤帶刀  
 松平万千代  
 松平新太郎  
 松平相模守  
 松平阿波守  
 松平安藝守  
 藤堂大學頭  
 森内記  
 織田出雲守  
 有馬中務大輔  
 京極山城守  
 頼京極丹後守  
 松平右近大夫  
 御本丸御留守居  
 松平式部大輔  
 奥平美作守  
 松平丹波守

大久保加賀守  
 松平周防守  
 松平市正  
 諏訪出雲守  
 井伊兵部少輔  
 小笠原主膳  
 板倉主水正  
 戸田主膳  
 井伊左馬助  
 井伊玄蕃頭  
 石川彈正忠  
 本多縫殿助  
 高力左近  
 奥平大膳  
 松平又七郎  
 水野出羽守  
 松平山城守  
紅葉山火之番  
 松平若狹守  
 鳥居主膳正  
 植村出羽守  
 三宅大膳亮  
 森川半彌  
 小堀大膳  
 牧野内膳  
 戸田采女正  
 岡部内膳  
 内藤攝津守  
 小笠原大和守  
 松平伯耆守  
 本多うらの助



松平下總守  
松平越中守  
松平遠江守  
土岐山城守  
本多越前守  
本多八郎兵衛  
松平太郎八

右七人、或之病氣、或之幼少、差合ニ付、不相越。

酒井讚岐守  
酒井河内守  
阿部豐後守  
永井信濃守  
松平出雲守  
小笠原壹岐守  
秋元越中守  
酒井修理亮  
松平甲斐守  
内藤飛驒守  
吉良若狹守  
太田左馬助

今川刑部大輔  
品川内膳正  
大澤兵部大輔  
大岡美濃守

會根源右衛門

馬場三郎左衛門

在所御暇

大坂に御暇

堀田加賀守

阿部對馬守

火之番

火之番

稻葉美濃守

野監物

煩

日光へ御使

松平宮内少

大澤右京亮

煩

煩

松平右衛門大夫

伊丹播磨入道順齋

右八人、供奉無之。

一、御棧敷中段御着座。御肩衣御半袴。水戸黃門尾紀兩宰相水戸中將下段に御出  
御、御對顔退去之後、松平薩摩守長袴御目見。此時折三合御樽肴獻之。

次

島津又三郎長袴御目見、折二合御樽肴獻之。

各以目錄酒井河内守披露之、則退座之。

一、右過る供奉之國持大名并御譜代大名棧敷伺公、一同ニ御目見。  
但、薩摩守又三郎御目見之内、伺公之面々列座之間、屏風ヲ立、兩人退去以後、



屏風取之云々。

一、上檀入御以後、間之戶立之。水戸殿兩宰相殿中將殿御次之間に出席之。  
一、犬追物可相始之旨、薩摩守に被仰之。此時小笠原右近大夫御前に被召出之、御縁蹲踞也。

一、犬追物上覽之間、御前之前置貳十人、犬御番拾人宛勤之。左右之前置猪子左太夫組之御徒衆有之。

御棧敷并埒之圖畧之。

一、兒二人白緋肩着。犬追物日記執筆壹人着烏帽子。素袍袴三人、一同日記所に出。

一、次檢見嶋津十郎左衛門入道赤頭巾、素袍、行騰。粧髮立之馬淺黃大綱、鞆掛之。舍人壹人烏帽子、素袍袴。

召具之埒之中大帽子際迄馬上こゝ出、則下馬、行騰ヲ敷、向御前拜禮。終る射手小屋に寄、立退畢。

但馬之舍人率入之。

一、犬追物射手三組都合三拾六騎、各烏帽子素袍弓籠手美指之、行騰粧之、小刀帶之、黑塗之弓藤在之持之、負、犬射墓目馬掛紅之大綱鞆鞭持之、舍人壹人宛烏帽子黑素袍袴召具之。此舍人、取役勤之。拾二騎宛馬上こゝ三方之矢臺之前、壹番南之

方、貳番東之方、三番西之方、順々ニ先列馬。其後上手南之方拾貳騎、坊之内に入、如前馬立並之、又次手東之方拾二騎、次下手西之方拾二騎、順々矢臺前之次第ニ埒之内に入、列馬也。

一、檢見島津十郎左衛門入道島津又左衛門尉、喚次島津源右衛門、島津左大夫、貳人宛兩度ニ相替テ出、或頭巾、或烏帽子、素袍、行騰。粧之鞭掛之、髮立之馬。

但、檢見老淺黃之大綱鞆鞭、喚次之紅之大綱鞭、犬追物次第中日記、從薩摩守注出所謂。

三真犬追物手組組圖次第正保四丁亥年十一月十三日

上手

島津諸右衛門 壹疋、 鎌田又七郎

本多甚兵衛 上井采女

島津彌一郎 吉田長四郎

島津又右衛門 本多久左衛門

一福屋助左衛門 壹疋 肝付半兵衛

島津四郎左衛門 四一 種子島爲兵衛 壹疋

市街恢弘時代



檢見

喚次

島津十郎左衛門入道

島津源右衛門

南之方有之拾二騎、俾際に乘寄之時、其跡に東之方ニ有之次手十二騎馬立替之、上手十二騎犬壹疋放之、四人宛三度ニ射、終る最前次手有之東之埒際列馬組右之檢見喚次を歩立ニる射手小屋に退馬を舍人率入之、其後檢見喚次替る出。

三真犬追物手組組鬮次第年號月日右同

次手

島津市正

一 二島津源介 二疋

島津七兵衛

島津作左衛門

本多六左衛門

一 一村上内記 二疋

仁禮左近

入來院石見

島津長門

村上左京

島津中務

山田彌九郎

檢見

喚次

島津又左衛門

島津左太夫

右之拾二騎俾子際に乘寄之時、其跡に西之方ニ有之下手拾貳人入替、次第前ニ同。次手拾貳人犬壹疋宛放之、四人宛ニる射、終る最前之下手十貳人有之四方ニ埒際に列馬。

三真犬追物手組組鬮次第年號月日右同。

下手

一 島津安藝 壹疋

島津主計

平田兵十郎

柏原彌太右衛門

種子島次郎右衛門 二疋

島津助六郎

島津縫殿 壹疋

本多右衛門

島津又次郎

菊池太右衛門

島津上野

伊勢兵部

檢見

喚次

島津又左衛門

島津左太夫

右拾貳騎犬壹疋宛放之、四人宛三度ニ射、終る最前有之南之方ニ列馬、右三拾



六騎三番射終る不殘一同ニ下馬列歩退畢る馬を舍人率入之。  
一、右過る御所替之由薩摩守に依被仰出重る手組拾貳騎南之方ニ列馬并檢見喚次二人を役所有之所謂、

三、犬追物手組之事年號月日右同。

二、島津市正 一疋 伊勢兵部 一疋

二、種子崎次郎右衛門同 二、種子島爲兵衛 同

二、島津又右衛門 同 二、島津七兵衛

二、島津主斗 二疋 島津上野

村上左京 村上内記

島津安藝 二、福屋助左衛門 一疋

檢見 喚次

島津又左衛門 吉田久兵衛

右之面々如前射終る御茶屋に入御御肩衣御半袴。

松平薩摩守 島津又三郎

御前に被召出隔敷居父子着座犬追物上覽御機嫌不斜旨蒙嚴命其後

塗御盃 御三方

御吸物 牧野佐渡守

薩摩守に又三郎 吸物出 齋藤攝津守

御酒 塗間鍋 御酌 小出越中守 岡田淡路守

御肴 攝津守

被召上御盃御酌手ニのせ薩摩守頂戴此時御肴被下之次脇差貞宗代百枚拜領之酒井河内守御次之間に盃持退之從薩摩守御腰物國總獻之河内守披露之重る薩摩守御禮次別之御盃被召上御酌手ニのせ又三郎頂戴御肴被下之次御腰物國行代三十五枚拜領御次之間盃持退之其後御脇差光包又三郎獻之河内守披露之重る又三郎御禮申上之則父子退座其以後御銚子御吸物等引之。

但薩摩守又三郎を着長袴御給仕之面々を半袴之。

一、御茶屋入御之後水戸殿兩宰相殿中將殿其外國持并御譜代大名御振舞被下之。

一、御連枝之 座敷奉行 饗應奉行

市街恢弘時代

松平出雲守 酒井作右衛門



一、國持大名 座敷奉行

安藤右京進

井上河内守

池田帶刀

石川播磨守

一、御譜代大名 座敷奉行

水野下總守

安藤伊賀守

本多美作守

岡部丹波守

一、右兩響應奉行

石野八兵衛

組共勤之。

渡邊八郎右衛門

右之給仕 御連枝と中奥之面々役之。入交役之。

一、御近習之詰宿番頭物頭之面々折出之奉行板倉市正組共組給仕之御廣間坊主貳拾人。

一、同響應奉行

三宅半七郎

渡邊孫介

一、射手小屋振舞奉行

多賀右近

眞田長兵衛

一、同給仕

間宮所左衛門

一、所々御番 御持筒弓其外御鐵弓炮頭勤仕之番所注繪圖御目付中有之。

井上筑後守

松平孫太夫

一、御棧敷中見廻之。

宮城越前守

喜多見久太夫

一、西之外廻見分之。

兼松彌五左衛門

村越七郎左衛門

一、東之外廻見廻。

矢部藤九郎

一、御徒目付等所々見廻之云々。

一、御棧敷に御先相越面々鬘斗目肩着之、江城出御之御供之御鷹狩如供奉羽織着之。



一、未刻從御茶屋爲御鷹狩渡御、以後諸大名之外供奉之面々本道筋歸參。

一、申上刻板橋筋村之民家より火事出來、類火數ヶ軒災云々。

十一月十六日○正保四年

一、御白書院出御、松平薩摩守御禮、白銀二百枚、綿衣三十、御太刀一腰、貞俊進上之、酒井河内守披露之。

次

又三郎御禮、猩々皮拾間、太刀、目錄、白銀百枚進上之披露、右過る家老九人御縁、頰一同出座有る御目見、右過る間之襖障子明之、讚岐守河内守今度犬追物射、手其外役人御次之間ニ並居、一同ニ御目見退出之後、於柳之間右之面々吳服、五四或三宛被下之、阿部豊後守列座、御奏者番之物渡之。

——正保錄

一、十三日○正保四年十一月兼日島津薩摩守光久ニ犬追物可被遊、御上覽ノ由被仰出。依之内々其用意シ、已今日ニ日限定リシカハ、先頃ヨリ於武州王子村、新ニ棧敷ヲ構ヘ、馬場ヲ令築、此所、金城去ルコト二里程、平原廣野ノ地、元來御放鷹ノ御狩場、御殿等依有之、此所ヲ被撰、御棧敷ハ御茶亭ノ南ニアリ、東西四十六間、南北四十一間、南面ノ中央ニ構ヘ上壇御座所トス、棧敷ノ南隔十二間有馬場、其

廣サ東西四十二間、南北四十間、四方皆以竹結埒、埒ノ高サ四尺五寸、但地ノ高下ニ依五尺モ有之、埒ノ中央四方十八間ニ砂ヲ蒔、馬ヲ立處トス、是ヲ勝示ト云、其廻リヲ勝示際ト云、其中央ニ長十八尋餘ノ繩ヲ以テ、方四五間計ノ圍ヲナス、是ヲ大繩ト云、其圍ノ中央ニ、長五尋餘ノ繩ヲ以テ、方一間計ノ圍ヲナス、是ヲ小繩ト云、其内ニ砂ヲ入、砂ノ滿ルコト繩ト等シ、埒ノ方ニ戸有、是ヲ犬塚ノ口ト云、巽ノ方ニ戸有、是ヲ物陰ノ口ト云、皆轅門ニ象也、亦南東西三方ノ埒ノ上ニ粧カサリ墓目ノ矢ヲ夾ム、一方ニ十桁アリ、一桁コトニ四ツ結イニメ、四所ニ掛レハ十六筋也、十二桁ニハ合テ百九十二筋也、三方合テ矢數五百七十六筋也、是三手犬追物ノ矢數ト也、三手ノ内ニ上手次手下手ノ名アリ、又埒ノ外良ノ方ニ副テ假役所ヲ構、日記ノ者ノ座トス、右大將家ノ舊禮ハ御座ノ次ノ席ニテ日記ヲ沙汰スルコト古法也ト云、此度ハ御座近ヲ憚リテ光久新タニ此役所ヲ構タリ、役所ノ内ニ器物一對ヲ並置、金銀ノ箔ヲ以濃カム、其上ニ青黃赤白黒ノ餅ヲ二重ニ高ク盛、一重コトニ幾等モ包重ヲテ作り花ヲ指ハサム、其下ニ五色ノ柰ヲ備フ、其器ノ緣金紙ヲ以テ粧タリ、又木ヲ以テ瓶子一雙ヲ作り設ケ、是モ金銀ノ薄ヲ以テ濃松ト鶴トヲ畫ケリ、蝶花形ヲ以其口ヲ包、但酒ヲ



盛ニ不及。此外硯紙并幣等モ兼テ此内ニ納置ケルトナリ。此役所ノ前ニメ勝示ノ埒ニ又一ノ戸アリ。是ハ貴人出入ノ爲ニ設ル口也。今日ハ開ニ不及。又埒ノ外西南ノ方ニ假屋ヲ構フ。是ハ射手裝束ヲ調ル所也。已刻公方様著御棧敷ノ上壇ニ入御。中根壹岐守正盛、牧野佐渡守親成、久世大和守廣之已下、近習并小臣等伺候ス。御座ノ次ノ西ノ間ニ、水戸中納言頼房卿、尾張宰相光義卿、紀伊宰相光貞卿、水戸中將光圀卿ノ座トス。其次ニ彦根中將直孝井伊掃部頭、若狹少將忠勝酒井讚岐守、高松侍從頼重松平右京大夫、厩橋侍從忠清酒井雅樂頭、河越侍從信綱松平伊豆守、從四位下豐後守忠秋、永井信濃守尙政、朽木民部少輔植綱等列座ス。其次ハ井伊親負、佐直シヅカ、小笠原右近大夫忠真、奥平美作守忠昌、本多内記政勝、其外御譜代ノ御家人衆列參ス。西ノ方南ノ端ノ棧敷ニハ、越後少將光長松平越後守、長門少將秀就毛利長門守、備前少將光政松平新太郎、毛利宰相秀元毛利甲斐守、越前侍從光通松平越前守、因幡侍從光仲松平相模守、出雲侍從直政松平出雲守、阿波侍從忠英蜂須賀阿波守、土佐侍從忠義松平土佐守、肥前侍從勝成鍋島信濃守、安藝侍從光晟松平安藝守、伊賀侍從尙次藤堂大學頭、肥後侍從光尙細川肥後守、美作侍從長繼森内記、松平刑部大輔頼元、同播磨守頼安、松平淡路守利長、織田出雲守信友、毛利和泉守光廣、立花左近將監忠茂、京極山城守高國。

有馬中務大輔忠卿、黒田右衛門佐光之等、諸大名列座ス。薩摩守ハ其座ノ簀子ニ蹲踞ス。御座ノ東ノ方ハ旗本ノ歴々、其外諸役人等充滿ス。庭上ハ大番衆并御步行衆各警固ス。依仰掃部頭讚岐守雅樂頭、伊豆守豐後守等ノ老臣御前ニ參リ、御座ノ西ノ障子ヲ開ク。水戸尾張紀伊四卿有御禮、次ニ薩摩守ヲ召ス。今日快晴、年來ノ本望相叶、可爲満足ト被仰出。薩摩守拜伏シ、畏テ御禮申テ曰、御樽五、荷杉重三重、鮮魚平イ五尾、折櫃物十合、進上之。息又三郎久平同御目見、御樽三、荷杉重二組、鯉魚五、喉進献ス。厩橋侍從披露ス。犬追物可始ト被仰出。薩摩守奉テ本座ニ歸ル。次諸大名并御譜代ノ御家人等已下、有御目見、則障子ヲサス。依仰小笠原右近大夫ヲ御前ニ召ス。河越侍從奉テ召連、自東方縁出御前。是ハ累代弓馬ノ古實相傳ノ家ナレハ、御見物ノ間御話可被爲成ノ爲成ヘシ。近臣進テ御前ノ御簾ヲ揚、阿部五郎三郎正義役御腰物、日記ノ役者福屋伊賀、烏帽子素袍ヲ著、短刀ヲ指テ、埒ノ外ノ南ヨリ東ヘ廻リ、良ノ役所ヘ登ル。其次ニ白綾ノ衣服ノ上ニ童直衣水干ニ似タリヲ著シ、末廣ノ扇ヲ持、其髪ヲ垂レサケ、金薄ノ子本結ヲ以結之、薄假粧ニ齒黒ク、眉作タル童子二人、福崎新三郎、稅所彌吉相從フ。是等ハ幣振ノ役人也。幣振先例ハ同朋ヲ用、又一人モ二人モ。射手奉行二人、新納刑部伊東仁右衛門、烏帽子素袍短刀



ニテ埒西南ノ戶外ニ徘徊ス。卒士四人、同シ裝束ニテ二人宛相別レ、巽ト坤ノ戸ノ邊ニ立居ル。歩卒一人ツ、袴ニ上衣著テ相從フ。竹杖突タル者八人、烏帽子小素袍短刀ニテ二人宛埒ノ間<sub>内</sub>也。四方ノ隅ニ分レ居ル。是ヲ犬掛ノ者ト云。此外同也。裝束ニテ五人坤ノ戸ノ内ニ居ル。是ヲ伏放シノ者ト云。但、此五人ハ、小素袍ノ袖ヲ手燧ニ掛、背中ニテ狹結フ。又綾ノ筋織タル衣服ニ<sub>上斗目素袍ノ袖取テ、カミシモ</sub>ナリ。小袴著タル者二人、坤ノ戸ノ外ニ居ル。大下知ノ者ト云。輕卒八人、半服ニ袴著相從フ。是ヲ犬牽ノ者ト云。扱埒ノ外西南ノ方ノ假屋ヨリ、三手ノ射手三十六騎、靜々ト進出、其裝束烏帽子ヲ被リ、染物ノ下襲ノ上ニ素袍ヲ著シ、短刀ヲ指、左ノ肩脱、弓小手ヲ付、弓ヲ持、墓目ノ矢一筋ヲ取副、又腰ニモ是ヲ指ス。或ハ二筋或ハ三筋也。右ノ手ニ竹ノ根ノ鞭ヲ緒ヲ付腕ニ掛持、左右ノ股ニ鹿皮ノ行騰ヲシ、其緒ヲ腰ニ結ヒ、足ニ沓ヲ履、或ハ行騰ノ左右ヘ總角ヲ付タルモアリ、又不付モアリ。弓ハ滋藤三所藤矢ハ鷲ノ羽或ハ鷹ノ羽、其藝ノ工拙ニ依テ差アリト云リ。馬ノ毛モ差々アリ。皆鬣ニテ紅ノ大總ヲ掛タリ。或ハ金絲ヲ夾ヘタルモ有。是ハ皆島津カ一族タリ。郎等ハ皆小總ノ鞞ヲ掛タリ。思々ノ鞍ヲ置キ、手總ハ定タル古法ノ尺有。<sub>傳口</sub>。射手ノ短刀ハ御前ヲ憚

テ外ノ拵ヘ柄鞞<sub>凡</sub>ニ如常ニメ、身ハ木ヲ以テ作ル。其餘ノ役人ノ短刀モ皆然リ。卅六騎ノ者<sub>凡</sub>、十二騎宛南ト西ト東トノ埒ノ外ニ並ヒ立。此外檢見一人、喚次壹人、騎馬ニテ相加ル。檢見ハ法師武者、赤頭巾ヲ被ル。或ハ又燕尾帽子ヲモ用。但有髮ノ者ハ各別ナレハ、素袍ヲ著シ、短刀ヲ帶、末廣ヲ狹ミ、黒塗ノ鞭ヲ指、淺黄ノ厚總ノ鞞ヲ掛、喚次ハ烏帽子素袍ヲ著シ、短刀ヲ差シ、竹ノ鞭ヲ持、兩人<sub>凡</sub>ニ弓矢ヲ不帶、檢見埒ノ外ニ下馬、徒步ニテ巽ノ戸ヨリ埒ノ内ニ入、榜示際ニ至リ北面シテ跪キ、御前ニ向テ禮拜ス。此時埒ノ外ノ卅六騎、喚次モ皆下馬ス。檢見埒ノ外ヘ出テ馬ニ乘、卅六騎并喚次モ騎馬ニ巽ト坤トノ二ノ戸ヨリ十八騎宛相分レ、埒ノ内ニ入テ十二騎宛南ト東ト西トニ相分レ立、南ヲ上手トシ、東ヲ下手トス。檢見喚次巽ノ戸ヨリ入。凡一騎毎ニ矢取ノ介副一人宛烏帽子小素袍短刀ニテ相從フ。檢見喚次ニハ、櫛一人宛有之、裝束同前、檢見馬ヲ進ム、南ノ方ノ上手十二騎相從。其馬立ノ次第、一番二番ヲ相手トス。大繩ノ廻リ南ノ端ニ立、五番六番ヲ相手トス。一番二番ノ南ニアリ。七番八番ヲ相手トメ、三番四番ノ北ニ立、九番十番ヲ相手トス。一三五七九十一番ノ六騎ハ馬ノ頭ヲ西ニ向フ。二四六八十十二ノ六騎ハ、馬ノ頭ヲ東ニ向フテ、皆大繩ノ廻リ



ニ並立ツ。喚次ハ馬ヲ日記ノ役所ノ東ニ控タリ。檢見ハ勝示際ニテ誰レカ有ト喚、口付ノ者ハト答テ、馬ノ口ヲ取。檢見下馬シ、小繩ノ際ニテ北面シ、呪文ヲ唱。此時十二騎并東西ニ立廿四騎皆下馬ス。檢見立歸リ馬ニ乘リ、大繩ノ内ヘ入、十二騎并廿四騎皆乘馬ス。此時犬下知ノ者兼テ相圖シ、犬牽ノ輕卒埒ノ外ヨリ犬共繩ヲ付縊リ、坤ノ戸ノ邊ニ置。檢見馬上ニテ鞭ヲ拔キ持、御犬ヤ有ト云。犬放ノ者ハト答。時ニ十二騎馬ノ頭ヲ立直シ、大繩ニ副ヒ矢ヲ番フ。檢見御犬引入ヨト云。犬放ノ者ハト答テ、犬一匹ヲ小繩ノ内ヘ引入、御犬逃ハト三返唱フ。檢見早放シハト云。犬放ノ者鎌ヲ以索ヲ切り犬ヲ放ツ。此犬ハ射ルニ不及、是逃シ出ス、故實也トソ。射手皆矢ヲ迦ス。檢見重テ御犬ヤ有ト云。犬放ノ者ハト答。射手皆矢ヲ番フ。檢見御犬牽入ヨト云。犬放ノ者犬一匹ヲ小繩ノ内ニ牽入。毎度ニ皆然リ。又嚮ノ如ク御犬逃ハト三返唱フ。檢見早ヤ放セト云。時ニ則索ヲ切犬ヲ放ツ。十二騎ノ者矢比次第ニ矢ヲ放テ射之。其矢中タル者馬ヲ步セ出ス作法アリ。檢見モ亦馬ヲ步セ出シ、矢答ヘアリ。射手如元馬ヲ大繩ノ際ニ立ツ。檢見馬ヲ進メ勝示際ニ出レハ、喚次ノ者馳來、檢見ニ其射手ノ姓名ヲ告ケ、喚次役所ノ前ニ至リ馬ヨリ下リ、其氏名ヲ喚フ。童子應諾之、幣ヲ

振ル。幣ハ一本ヲ以テ兩童替々勤之也。執筆ノ者則記之。書記スル法故實有之。喚次馬ニ乘、元ノ所ヘ皈ル。檢見如元大繩ノ内ニ馬ヲ立、又御犬ヤ有ト云。時ニ他ノ犬ヲ牽テ來、如前ニ犬ヲ放ツ。十二騎矢皆次第ヲ追テ射之。其作法同前。中ル時ハ檢見又喚次ニ告テ聞シム。第二度ヨリ以後ハ、喚次下馬ニ不及、役所ノ前ニ向ヒ、弓ヲ扣ヘ、皆潜テ其射手ノ名ヲ唱ヘ、筆記サセシム。但、初度ノ時、重テハ下知ス。其次ノ犬ヲモ如前射之。其儀式無異。第三度ノ犬追ハ勝示ノ内ニテ射之中リテモ犬外ヘ出レハ不及。第四度ヨリ犬ヲ外ノ犬ト號テ勝示ノ内ニテ矢中ルト云。凡勝示ノ外ヘ追出ルヲ檢見射手置クト云。四騎皆替々馳テ射之。毎度八騎ハ、犬繩ノ廻リニ並立テ、其馬左右ヘ前却シ、四騎ノ來路ヲ避、東西ニ相向ヒ立、次手下手廿四騎若其邊ヘ馳來レハ、其心得有ト云。檢見毎度馳廻リ、犬ハ矢比ヲ逃ント或時ハ四隅ニ踟、或時ハ埒ノ竹ニ寄添フ。或ハ又馬ノ腹ノ下ヘ逃入、犬掛ノ者竹枝ヲ以テ追之、埒ノ内ヲ四方豎横ニ追テ射之。介副各步行ニテ相從ヒ、落ル矢ヲ取テ投ケ、其矢所繩際マテ弓手妻手月影ノ矢押戻リ等射様ノ名有之。外ノ犬ニナレハ弓手番妻手横物袖返等ノ名アリ。檢見其矢答ニ付其實否ヲ定ム。矢中ルト云。凡檢見ノ心不叶ハ、射手置ケト唱ヘ、又



追廻リ數反ニ及ンテ不中、犬疲時ハ、檢見犬捨ヨト云テ不令射之。其射畢テ犬  
凡ハ犬掛ノ者巽ノ戸ヨリ外へ出ス。又別ノ犬ヲ呼テ射之。矢所能中リ檢見  
ノ心ニ叶フ時ハ、喚次ニ告テ其名ヲ記サシム。若檢見ノ見所射手ノ心ニ不同  
時ハ、問難ニ及フコアリ。都テ七度ニ及ンテ終ル。此七度ノ内ニ落馬スル者二  
人有之。其儘起立テ沓ヲ脱、手ニ掛ケ相揖メ後又同ク馬ニ乘。是落馬ノ禮法ナリ。上手組  
犬七疋放之。中矢其手組ハ闔取ニ定ム。

嶋津諸右衛門 一匹。 嶋津四郎左衛門

鎌田又七郎 種子嶋爲兵衛 一匹。

本田甚兵衛 福屋助左衛門

上井采女 肝付半兵衛

嶋津彌一郎 嶋津又右衛門

吉田長四郎 本田久左衛門

檢見嶋津十郎左衛門入道 喚次嶋津源右衛門

最前上手ノ十二騎南ヨリ進テ大繩ノ邊ノ廻リニ趣ク時、西ノ方ノ十二騎次  
手タルニヨリ坤ノ方ヨリ南へ移リ、東方ノ十二騎下手タルニヨリ、巽方ニ向

ヒ南ニ立ル次手ノ後ヲ通り西ニ廻ル。於此上手ノ十二騎射終レハ東方へ移  
リ立、檢見喚次ハ巽ノ戸ヨリ退出ス。扱次手ノ十二騎、南方ヨリ馬ヲ進メ、檢見  
相共ニ大繩ノ際ニ並立。其相手ノ次第如前。喚次モ如前、日記ノ役所ノ東ニ馬  
ヲ扣へ、此度ハ檢見喚次別人替リテ勤之。其裝束同前。但有髮タルニ依テ頭巾  
ヲ著烏帽子ヲ著タリ。如前檢見御犬ヤ有ト唱へテ犬ヲ一疋宛呼出シ、放テ射  
ル。檢見呼次並ニ日記ノ法式皆上手ト同前。但此度ハ第二度迄之犬ヲ勝示際  
ニテ十二騎矢比次第ニ射之。第三度ヨリハ外ノ犬トノ外へ追出シテ四騎替  
ル。射ル。又七度ニ及テ終ル。次手組犬七疋放之也。中矢其組ハ闔取定之。

嶋津市正 嶋津中務

嶋津源助 山田彌九郎

嶋津七兵衛 嶋津長門

本田六左衛門 仁禮左近

嶋津作左衛門 村上左京

入來院石見 村上内記 一匹。

檢見嶋津又左衛門 喚次嶋津左太夫



前方次手十二騎、南ヨリ大繩ノ廻リへ進ム時ニ、西ニ立ル下手十二騎、坤方ニ向ヒ南へ廻リ、東ノ上手十二騎、巽ニ向ヒ南ノ下手ノ後ヲ通り西へ移リ、至此テ次第ノ十二騎、檢見相共ニ南ヨリ馬ヲ進メ、犬繩ノ際ニ並立、其相手ノ次第、上手次手ト異変ナシ。但第一度計ヲ勝示際ニテ射、第二度下手組犬七疋放之。中矢其手組ハ闔置定。

島津安藝 一疋。 島津上野

島津主計 伊勢兵部

平田兵十郎 嶋津又次郎

柏原彌太右衛門 菊池太右衛門

檢見種子島次郎右衛門二疋。島津縫殿助 一疋。

喚次嶋津又左衛門 島津左太夫

前方下手ノ十二騎ハ、南ヨリ大繩ノ邊へ進時ニ、西ノ方ノ上手十二騎、坤ノ方ヲ通り南へ移リ、東ノ方ノ次手十二騎、巽ノ方ヨリ上手ノ後ロヲ通り西ニ廻リ並フ。至此テ下手十二騎、射手畢テ、東ノ方ニ立、三手ニ皆如初、檢見勝示際ニ於テ御前ニ向ヒ退ク。巽ノ戸ノ邊ニ下馬シ、三方ニ立ッ。廿六騎モ其弓ヲ

杖ニ突キ下馬シ、脊ヲ脱右ノ手ニ持ナカラ行騰ヲ引返シ、脊ヲ取添持之、左行騰ハ弓ニ取副持之也。喚次モ同ク下馬ス。東ノ十二騎並檢見喚次、巽ノ戸ヨリ退出シ、西ノ十二騎ハ坤ノ戸ヨリ退出シ、南ノ十二騎、六騎ハ坤ノ戸ヨリ、六騎巽ノ戸ヨリ相分レ出、皆其初入シ時ノ如式。介副繼等馬ヲ牽二ツノ戸ヨリ同ヒ出、已上三手ノ犬追物也。於是御簾ヲ下ス。小笠原右近大夫御次ノ間ニ退。其後薩摩守ヲ召テ今一手組射サセヨト有御所望、畏テ歸本座、御簾ヲ揚、又西南ノ方ノ假屋ヨリ十二騎進出、喚次檢見相加ル。其裝束皆同前。南ノ埒ノ外ニ暫馬ヲ立双、其内六騎ト檢見喚次トハ巽ノ戸ヨリ埒ノ内ニ入、六騎ハ坤ノ戸ヨリ入、各南ノ方ニ並立。檢見馬ヲ勝示際ニ進メ扣へ、十二騎馬ヲ靜々ト歩マセ、次第ニ大繩ノ廻リニ進寄、相手ノ次第同前。喚次ハ日記ノ役所ノ東ニアリ。其後犬ヲ喚出シ、馳追テ射之。其儀式初三組ノ如シ。但十度ニ及ヒ終ル。其上第一度ヨリヲ外ノ犬トス。四騎替々射之。初ノ三組ノ間ハ、御前ヲ憚リ、御座ノ前場近所ヲ過ル時ハ、矢比ニ及ンテモ矢ヲ不放ノ射ヲ無リシ。此度ハ依御所望蒙御免、御目通計ヲ恐テ其外ハ矢比次第放射。射手ヲモ撰ミケル故ニヨリ矢多シ。馬ノ馳様犬追物足鹿子足ノ故實、馬上ニノ様々ノ様體目ヲ驚ス。射畢テ各



下馬之禮如前、六騎ト檢見喚次巽ノ戸ヨリ退出ス。殘ル六騎ハ坤ノ戸ヨリ退出ス。其儀式皆如初。射手組犬十匹ヲ放ツ。中矢其手組ハ鬪取定之。

島津市正 一疋 伊勢兵部

種子島次郎右衛門 種子島爲兵衛一疋。

島津上野 島津主計 二疋。

村内記 村上左京

福屋助左衛門 一疋 島津安藝

檢見 島津又左衛門 喚次 吉田久兵衛

事畢テ日記ノ役人并幣振ノ童子退出ス。已ニ申ノ刻ニ及フ。近臣御簾ヲ下ス。御座ノ西ノ方障子ヲ開ク。水戸尾張紀伊ノ四卿ニ御面謁。今日ノ見物ノ儀ヲ皆謝シ被仰、大名等御譜代、御家人不殘拜伏ス。其後御茶亭へ渡御有テ、御膳ヲ被聞召。此間棧敷ニテ饗應有。水戸尾張紀伊四卿一座、松平出雲守勝隆奉行ス。諸大名一座、安藤右京進重長井上河内守正利奉行ス。御譜代衆一座、御番頭等是ヲ奉行ス。其外飲食スル者甚多シ。饗應過テ御茶亭へ薩摩守父子ヲ召ス。彦根少將若狹少將前橋侍從河越侍從豐後守等伺候ス。薩摩守ニ御盃ヲ被下、頂

戴御肴給ル時、前橋侍從奉テ、御脇指貞宗薩摩守拜領ス。退テ御腰物國總献上、前橋侍從取テ御前ニ献ス。次ニ御盃ヲ又三郎ニ被下、頂戴御肴賜時、御腰物平國拜領、前橋侍從取テ授之。拜受シテ退時ニ御脇指光包進上、前橋侍從取テ御前へ奉ル。父子共ニ拜謝シテ退出ス。誠ニ家ノ面目ト可謂。暫有テ還御。阿部四郎五郎正之カ番所エ至ラシメ、正之及其子左衛門次郎政繼ニ御弓ノ一被仰付故成ヘシ。其後諸大名以下供奉ノ輩モ各飯宅ス。此時所々今日御棧敷ノ警固弓鐵炮ノ物頭等、役所ヲ構へ、嚴重勤番也。

今日御留守之間御番衆

一、御本丸ハ 榊原式部大輔忠次。

一、大手御門 松平越中守定綱。

一、櫻田御門 内藤帶刀忠興。

一、西之御丸 松平丹波守光重。

一、二ノ丸東照宮 稻葉美濃守正則。

一、紅葉山東照宮 水野監物忠善、松平若狹守康信。

右ノ外御門口々兼日ヨリ警固ノ大名自身人數ヲ引卒シ警固ス。老中ハ皆



供奉セラル。

十四日○正保四年十一月島津薩摩守息又三郎其外一族家人隨召登城ス。公方様御白書院ニ出御上壇ニ著座大老執事近臣等伺公ス。薩摩守御禮御太刀献上定則作。并御馬置鞍。白銀二百枚吳服三十領太刀折紙雅樂頭披露ス。犬追物備上覽恐悦ニ奉存ノ由讚岐守被言上。有御會釋退出。次ニ息又三郎御禮白銀百枚猩々緋十間ヲ献上ス。太刀折紙ハ雅樂頭披露ス。讚岐守御禮ノ義言上退出ス。次ニ島津家人御目見被仰付輩。

家老

島津圖書久通

同斷

新納右衛門久詮

薩摩守舍弟

島津安藝久雄

同斷

同 市正忠弘

同斷

同 源助久立

同斷

鎌田又七郎政由

同斷

伊勢兵部貞照

又三郎家老

町田勘解由久則

薩摩守家人

鎌田源左衛門政有

右九人一同ニ闕ノ外ニ御目見申上退ク。次ニ障子ヲ開下壇ニ出御此度ノ射手役者共ニ四十一人御次ノ間ニ並居一列ニ御目見。於是入御。其後伊豆守豊後守柳ノ間ニ出テ著座奏者番等相從之時ニ薩摩守家老并舍弟其外射手役人凡五十人悉呼出之。吳服令頂戴。或ハ六領、或四領、或ハ三領、其人ニ依テ差アリ。其後皆退出ス。

天享吾妻鑑

犬追物御覽記

正保四年丁亥十一月十三日將軍家武州王子村へ渡御ありて犬追物を御覽せらる。是は松平薩摩守光久本氏其家ニ傳習ハ由緒有ヨリ上覽ニ備ヘ奉らんと連々執事之者を以望申ければ御許容ありて此村に新ニ棧敷をかまへ馬場を築しむ。幾程ふく土木の功終りければ今日出御有へきニ定ニ諸大名并御譜代の御家人各供奉をへしと被仰出旗本近習以下の輩も各豫參ニ此所ハ江戸城を去る事二里計平原曠野の地ニて元より放鷹の御狩場ふれハ御茶亭も有之ニより其所を擇それけるニや。棧敷ハ御茶亭の南ニニり。東西四十六間南北十一間南面の中央ニ上壇を構て御座所とニ棧敷の南



十二間、茨隔て馬場あり。其廣さ東西四十二間、南北十間あり。四方皆竹を以て埒を結ふ。埒の高さ四尺五寸、地の高下ニよりて五尺も有けるとなん。埒の中央四方十八間に色の砂を蒔て馬を立る所と爲。是を勝示と云。其廻りを勝示際と云。其中央ニ長さ十八尋餘の繩を以て、方四五間計の圍をふす。是を大繩と云。其圍の中央に長さ五尋餘の繩を以て、方一間計の圍をふす。是を小繩と申す。其内ニ砂を入滿る。芟繩とむとし。埒の坤の方ニ戸あり、是を犬塚の口と云。巽の方に戸有、是をも此のけり口と云。皆轅門ニあるとる成べし。又南と東と西との埒の上ニ、あるさり此墓目の矢を狭む。一方に十二桁也。一桁毎に四ツ結よして四所にうくれ、十六筋あり。十二桁に合て百九十二筋成へし。三方合て矢五百七十六筋あり。是三手の犬追物の矢數とふん。三手此内に、上手、次手、下手の名有。又埒の外の良の方に添て、假の役所を構へて日記の座と爲。舊例にハ御座の次の席よて日記を沙汰はる由ふれど、此度ハ御座ニ近付ん事を憚りておく侍るとなん。此役所の内に器物一對を並へ置、金銀の箔を以是を疊し、其上ハ青黄赤白黒の餅を二重ニ高くおり、一重毎にいくらも積重て作り花を挟む。其下にハ五色の桑を備ふ。其器の縁を金帛を以飾る。又木

を以瓶子一双を作り設く。是も金銀の薄よて疊し、松と鶴とを畫き、蝶花形を以其口を包む。但酒をもるよ及ハ。此外硯紙并幣等をも兼て此内に納置けるとなん。此役所の前の傍の埒よ、又一ツの戸有、是ハ貴人出入の爲よ設くる事也。今日ハ開くよ及ハ。又埒の外の西南の方に假屋を構ふ。是ハ射手装束を調ふ處なり。已刻將軍家着御有て、棧敷の上壇に入らせ給ふ。中根壹岐守正盛、牧野佐渡守親成、久世大和守廣之等以下、近習并小臣等伺候せ。御座の次の間よハ、水戸中納言頼房、卿尾張宰相光義、卿紀伊宰相光貞、卿水戸三位中將光圀、卿の座と爲。其次ハ彦根中將直孝、若狹少將忠勝、高松侍從頼重、前橋侍從忠清、川越侍從信綱、阿部豊後守忠秋、永井信濃守尙政、朽木民部少輔植綱等、濟々列居。其次の座よハ、井伊靱負、佐直滋、小笠原右近大夫忠真、奥平美作守忠昌、本多内記政勝等、御譜代御家人等列參せ。西の方南の端ハ棧敷ニハ、越後少將光長、長門少將秀就、備前少將光政、毛利甲斐守秀元、越前侍從某、因幡侍從光仲、出雲侍從直政、阿波侍從忠英、土佐侍從忠義、肥前侍從勝茂、安藝侍從光晟、伊賀侍從高次、肥後侍從光尙、美作侍從長繼、松平刑部大輔頼元、同播磨守頼安、松平淡路守利次、織田出雲守信友、毛利和泉守光廣、立花左近將監忠茂、有馬



中務少輔忠郷京極山城守高國黒田右衛門佐長之等之諸大名列座。薩摩守  
老其座之前之簀子ニ蹲踞。御座の東の方より旗本の歴々其外諸役人等充  
満。庭上には大番衆並歩卒衆各警衛せり。仰によりて彦根中將若狭少將前  
橋侍從河越侍從豊後守等御前へ参り御座此西の御障子を開て水戸尾張紀  
伊の四卿御目見有。次て薩摩守を召て今日天氣快晴年來の本望相叶可爲満  
足と被仰出。薩摩守伏拜し畏を申。御樽五荷杉重三組平魚五尾折櫃物十合  
進。子息又三郎久平同御目見御樽三荷杉重二組鯉魚五喉を進献。皆前橋  
侍從これを披露。犬追物始へしと被仰出。薩摩守奉て本の座にゐへる。次に  
諸大名並御旗本譜代此御家人等以下御目見有。即御障子をさ。仰よりて  
小笠原右近大夫を召す。河越侍從奉て是を携て東の方此縁より御前へ出つ。  
是を累代弓馬の法相傳の家なれば御見物の間御挨拶の爲成へし。近臣等進  
て御簾を上て阿部五郎三郎正義御腰物を役せ。既にして烏帽子素袍着て短  
刀をさしたる男一人福屋伊賀某と號せ。埒の外の南より東へ廻。良の役所へ此ほる。  
是日記の執筆なり。其次に熨斗目の衣服の上より水干より似たる物を着し、俗に  
衣と云。末廣扇を持其髪を垂かけて金薄のき元結を以結薄化粧ニ鐵黒眉

作。たる童子二人相従ふ。一人は福崎新三郎と云。是幣を振役人ふ。先例にハ  
人ハ同朋を用たる也。有。射手の奉行兩人、新納刑部某。伊東仁左衛門某。烏帽子素袍短刀にて  
或ハ一人、或二人不定也。埒の西南の外徘徊侍四人同装束。二人宛相別れ、巽と坤との邊立て居。埒  
足輕一人宛羽織袴にて相従ふ。竹杖突ある者八人、烏帽子に素袍短刀にて二  
人つゝ埒の内四方の隅ニ分居。是を犬かけの者と云。此外同装束にて五人、  
坤戸内居。是を犬放しの者と云。但五人ニ素袍袖襷に掛けて背にて挟み結ふ。  
又肩衣袴を着し熨斗目の衣服にて二人、坤戸の外居。是を犬下知の者と云。  
足輕八人羽折袴にて相従ふ。是を犬牽此者と云。此時埒外西南の方の假屋よ  
り三手の射手三十六騎、静々と進。出つ。其装束ハ烏帽子をふり、染物の下  
襲の上に素袍を着し、短刀を指し、左の肩ぬき弓籠手を掛け、弓を持、墓目の矢  
一筋を取添、また腰より指。或ハ二筋三筋有。右の手にハ竹根の鞭に緒を付、  
腕に掛けて持つ。左右の股には鹿皮の行纏をつけ、其緒を腰にて結ひ、足に沓を  
履、或ハ行纏の左右へ總角を付たるも有、付さるも有。弓を滋藤三所藤、矢ハ鷲  
羽鷹羽、其藝の工拙によりて差あり。馬の毛色も差々あり。皆鬘にて紅の大總  
を掛あり。此内薩摩守舍弟五人は、總て金糸を交へ組たり。思ひくゝの鞍を掛、



今日を晴と出立たり。手繩ハ定れる尺有となん。其短刀ハ、御前を憚て鞆の装束ハ常の如く拵て、身をは木にて作る。其餘役人等の短刀も皆然り。三十六騎此者共、十二騎つゝ南と西と東との埒此外に並立つ。此外の檢見一人、呼次一人、騎馬よて相加る。檢見は赤頭巾をあぶま、或ハ燕尾帽を用。素袍を着し、短刀を指し、末廣を挟む。黒漆の鞭を腰よさし、馬よ淺黄の大總を掛たり。呼次ハ烏帽子素袍を着し、短刀を指し、竹根の鞭を持て、兩人ともよ弓矢を帶せ。埒見埒の外にて下馬し、徒歩よて巽の戸より埒の内へいま、勝示の際ニ到り、北面し、跪て御前に向て拜禮。此時埒の外の三十六騎呼次も、皆下馬す。檢見埒の外出て馬に乗る。三十六騎呼次も騎馬し、巽と坤と此二ツ戸より十八騎つゝ相分れて埒の内へ入て、十二騎つゝ南と東と西とよ相分れて立つ。南を上手とし、西を次手とし、東を下手と云。檢見呼次ハ巽の戸より入る。凡一騎毎よ矢取の介副一人つゝ烏帽子よ素袍短刀にて相從ふ。檢見喚次にい、櫛一人は、有。其装束同前。檢見馬を進む。南の上手十二騎相從ふ。其馬建の次第ハ、一番二番を相手と。大繩の廻ま北の端ニ有。三番四番を相手と。大繩の廻ま南此端よ立つ。五番六番を相手と。一番二番南に有。七番八番を相手と。三番四

番の北にあつ、九番十番を相手と。五番六番の南ニ有。十一番十二番を相手と。七番八番の北ニ立つ。一番三番五番七番九番十一番此六騎ハ馬此頭を西に向ふ。二番四番六番八番十番十二番此六騎ハ馬の頭を東ニ向ふて、皆大繩の廻まよ並立つ。呼次ハ日記の役所の東に馬を控とり。檢見勝示際よて誰う有ととぶ。櫛の者いと答へ、馬此口を取る。檢見下馬し、小繩の際にて北面し呪文を唱。此時十二騎並西東ニあてる二十四騎も皆下馬す。檢見立歸ま馬ニ乗り、大繩此内に入る。十二騎並二十四騎皆騎馬。此時犬下知此者兼て差圖して、犬牽此足輕埒の外より犬共を索にてくひり、坤の戸より五人此犬放しの者に渡は。是を請取て埒の内へ入。坤此戸邊に置。檢見馬上にて鞭を抜持て、御犬や有といふ。犬放し此者候と答る時、十二騎馬此頭を立直し、大繩にそひ矢をつあふ。檢見御犬牽入よといふ。犬放しの者候と答て、犬一疋を小繩此内へ牽入て、御犬にていと三反唱ふ。檢見はや矢をと云。犬放しの者鎌よて索を切り犬を放つ。此犬をハ射よ不及して逃し出ま。是例ふりとなん。射手皆矢をはつは。檢見重て御犬やあると呼ふ。犬放しの者候と答ふ。射手矢をつあふ。檢見御犬牽入よといふ。犬放しの者犬一疋を小繩の内へ牽入る。毎度皆然ま。又前



のことく御犬逃ゆと三反唱ふ。檢見はや放てと云時、則索を切て犬を放つ。十  
 二騎の者矢比次第に矢を放て是を射る。其時ありてある者馬をゆませ出せ  
 作法有。檢見を馬をゆませ出て、矢ことへあり。射手元此ことく馬を大繩際  
 より立つ。檢見馬を進て勝示の際へ出れば、呼次の者馳來る。檢見其射手此姓名  
 をつく。呼次役所の前に至り馬より下り、某氏某名と呼ふ。童子應諾の幣を振  
 ふ。幣ハ兩童替々是を勤む。但一本也。執筆の者則是を記す。其記せる法古實あるにや。呼次馬に乗  
 て元の所へ歸る。檢見元のことく大繩此内に馬を立て、又御犬や有と呼ふ。即  
 他の犬を牽來る。前此如く次第有て、犬を放つ。廿二騎矢比次第射る。其作法同  
 前。中る時は檢見又呼次ニ告聞しむ。第二度より以後ハ、呼次下馬より不及、役所  
 此前ニ向ひ、馬を扣、背く、まゝりて其射手の名を唱て筆記せしむ。但、初度の時重  
 ありとふん。其次の犬をも又ささ此ことく射る。其儀異ふる。其儀異ふる。第三度の  
 犬迄は勝示の内にて是を射る。中りても中らされとも外へ出れば追に不及。  
 第四度よりの犬をハ外の犬と名付て、勝示の矢中里といへども、勝示の外へ  
 追出し、檢見射ておけと云。四射代る、馳て射る。毎度八騎ハ大繩の廻りニ  
 並立て、其馬を左右し、前却して四騎の來路をさく。東西に相向ひ去る。次手下

手の二十四騎も、若其邊へ馳來れば、其心得有と見へたり。檢見ハ毎度馳廻る。  
 犬ハ矢比を遁れんとて、或時ハ四隅へせく、まゝり、或時ハ埒の竹ニ寄そひ、或  
 時は馬の腹の下へ逃入を、犬あけの者竹杖を以て是をある。埒の内を四方堅  
 横に追て射る。介副各徒歩にて相從ひ、落る矢を取て授く。其矢取に付て、繩際  
 にて弓手妻手日あけの矢をまもしり等の名有とかや。外の犬に成て、弓  
 手すうひ妻手よこふを此袖うへし等此名有とふん。檢見其矢こたへに付、其  
 實否を定む。矢中といへとも檢見の心と叶されは射ておけと唱て、又追廻る。  
 數度ニ及中らそして犬つある、時を、檢見犬捨よと云是を射さしめ。其射  
 畢犬共をハ、犬うけの者巽の戸より是を外へ出しめ、別の犬を呼ひ射、矢坪よ  
 く中を檢見此心ハ叶時ハ、喚吹に告て其名を記さしむ。若檢見の心と同じ  
 らされ、問難に及夏も有。惣て七度ニ及て終る。此七度の内に落馬はるもの  
 二人有。其人下り立て杵を脱手に持捧て謝す。其相手も又馬より下り杵を脱  
 し手よて捧て相揖して、後同く馬に騎る。是落馬の禮式となん。  
 上手組犬七疋放之。中矢三ッ。其手組ハ圍取定之。

島津諸右衛門 一疋。 島津四郎左衛門



鎌田又七郎 種子島爲兵衛 一疋。  
 本田甚兵衛 福屋助左衛門 一疋。  
 上井采女 肝付半兵衛  
 島津彌市郎 島津又右衛門  
 吉田長四郎 本田久右衛門  
 島津十郎左衛門入道 島津源右衛門

最前上手此十二騎南より進みて大繩の廻ニ趣時、西の方此十二騎次手より南へ移り、東の方此十二騎下手たるに依て、巽の方へ向ひ南に立る。次手後ろを通り西より廻る。爰ニ於て上手十二騎射終れ、東の方へ移り立て、檢見呼次ハ巽の戸より退出せ、扱次手の十二騎南の方より馬を進め、檢見相とも大繩の際ニ並立つ。其相手此次第前のことく、呼次も如前。日記の役所の東ニ馬を扣ゆ。此度ハ檢見呼次別人替りて是を勤む。其裝來同前。但し有髪たるによりて頭巾を着さば、烏帽子を着たり。如前の檢見御犬やゐると唱ふて、犬を一疋づゝ呼出し、放つて射る。檢見呼次並日記の法式、皆上手組と同前。但此度ハ、第二度迄の犬をハ、勝示の際にて十二騎矢ころ次第に

是を射る。第三度より外の犬とし、外へ追出して四騎代るゝ射る。又七度ニ及て終る。

次手組 犬七疋放之。中矢三ツ。其手組ハ圍取ニ定之。

島津市正 島津中務  
 島津源助 二疋。 山田彌九郎  
 島津七兵衛 島津長門  
 本田六左衛門 仁禮左近  
 島津作左衛門 村上左京  
 入来院石見 村上内記  
 島津又左衛門 島津佐太夫

前方次手十二騎南より大繩のまはりへ進む時、西より立る下手十二騎坤の方より向ひ南へ廻り、東の上手十二騎巽に向ひ、南の下手の後ろを通り西へ移る。こゝより到て、次手の十二騎射終りて東ニ立つ。是によりて下手の十二騎檢見相俱に南より馬を進め、大繩の際ニ並ひ立つ。其相手の次第同前。此度ハ檢見呼次同前にて勤之。其次第上手と異成衰ふし。但第一度ハあり勝示際にて射



て第二度より外の犬とほ。又七度に及て終る。

下手組 犬七疋放之。中矢四ツ。其手組ハ圍取ニ定之。

島津 安藝 一疋。 島津 上野

島津 主計 伊勢 兵部

平田 兵十郎 島津 又次郎

柏原 彌太右衛門 菊地 太右衛門

種子 島次郎右衛門 二疋。 島津 縫殿 一疋。

島津 助六 本田 右衛門

島津 又左衛門 島津 左太夫

前方下手の十二騎南より大繩の邊へ進む時、西方の上手十二騎坤の方を通り南へ移、東の方の次手十二騎巽の方より南の上手の後ろを通り西へ並ぶ。爰に到て下手十二騎射終りて東の方より立、三手とも皆初のことし。檢見勝示の際にて御前に向ひ退て巽此凡の邊にて下馬はれ、三方に立る三十六騎皆弓を杖に突下馬し、杵を脱右の手ニ持ふるら行纏を引退し、杵に取添持、左の行纏ハ弓に取添持、の呼次も同下馬は。東の十二騎并檢見呼次ハ巽の戸より退出し、西の十二騎ハ坤の戸より退出し、南此十二騎、六騎ハ坤の戸より、六騎ハ巽の戸より、相分れて退出は。其初入し時のことくとふく、介副櫛等各馬を引て二つの戸より同く從ひ出つ。以上三手の犬追物也。爰に於て御簾を下は。小笠原右近大夫御次の間へ退く。其後薩摩守を召て今一手組射さしめよと被仰出。畏て本の座ニ歸る。御簾を上ぐ。又西南の方の假屋より十二騎進み出つ。檢見呼次相加る。其装束皆同前。南の埒の外にて暫馬を立並へ、其内六騎と檢見呼次とは巽此戸より埒の内へ入る。六騎ハ坤の戸より入、各南北方立並。檢見勝示際ニ馬を進め扣、十二騎静々馬をゆませ、次第ハ大繩の廻りに進みよる。相手此次第同前。呼次ハ日記の役所の東より有。其後犬呼出し馳追て射る。其儀式皆初の三組の如し。但十度ニ及て終る。其上第一度より外の犬として四騎代る。射る。初の三組の間ハ、御前を憚りて御座の前場近き所過る時ハ、矢比ハ及とも矢を放つ哀ふし。此度も御所望たるニよりにて御免を蒙りて、御目通り計を恐れ、其外ハ矢比次第ハ放ち射る。射手をも選りけるにや。其中の矢數多し。射終りて各下馬の禮前の如し。六騎と檢見呼次ハ、巽の戸より退出し、六騎ハ坤の戸より退出を、其式皆初のことし。



射手組 大十疋放之。中矢八ッ。其手組ハ圍取ニ定之。

島津市正 一疋。伊勢兵部

種子島次郎右衛門 一疋。種子島爲兵衛 一疋。

島津又右衛門 一疋。島村七兵衛 一疋。

島津上野 島津主計 二疋。

村上内記 村上左京

福屋助左衛門 一疋。島津安藝

檢見 島津又左衛門 喚次 吉田久兵衛

事終りぬれど、日記の役者并幣振の童子退出。日既未の刻ニ過たり、近臣等御簾を下し、御座の西の方の障子を開て、水戸尾張紀伊の四卿御目見、今日此見物を謝し申さる。諸大名御譜代御家人も同御目見有。其後御茶亭へ渡御有て、御膳を聞きめさる。此間棧敷ニて饗應有。水戸尾張紀伊四卿、松平出雲守勝隆奉行し、諸大名一座、安藤右京進重長、井上河内守正利是を奉行し、御普代衆一座、大番頭等是を奉行し、其外飲食するもの甚多し。饗應過て、御茶亭へ薩摩守父子を召し、彦根中將若狹少將前橋侍從、河越侍從、豊後守等伺候し、御盃を

薩摩守は被下、頂戴し、御肴を給る時、前橋侍從奉りて御脇指貞宗を薩摩守ニ与へらる。拜戴して退く。御腰物國繩を進上し、前橋侍從とりて御前へ献じ。次ニ御盃を又三郎に被下、頂戴し、御肴を給り、御腰の物國行を拜領し、前橋侍從取て授く。拜受して退く時、御腰物光包を献じ、前橋侍從取て御前へ奉る。父子とも拜謝して退出。誠に家の面目と云つへし。暫有て還御有。阿部四郎五郎正之の番所にて、正之を召て犬追物之事被仰出旨あり。是ハ正之及其子右衛門次郎政繼に御弓之事被仰付故成へし。其後諸大名以下供奉の輩も各歸宅し、此村所々今日御棧敷の周廻に弓鐵炮の物頭等役所を構、守番の儀制いと嚴重也。松平式部大輔忠次をハ本丸御留守居に被仰付、殿中ニ殘し給ふ。松平越中守定國をハ本丸の大手番所に与らしめ、内藤帶刀忠久をハ櫻田の門ニ与らしめ、松平丹波守光重を西丸へ被遣、稻葉美濃守正則ハ二丸東照宮を守らしめ、水野監物忠善、松平若狹守康信をハ紅葉山の東照宮と御佛殿ニ備しむ。其餘定れる御留守の役人、并所々當番の面々ハ、如常。誠ニ一人出給ふ。夏たやそからざる故成へし。同十六日薩摩守登城し、將軍家白書院へ出御あり、上壇に着座。元老執事近臣等伺公也。薩摩守御禮申し、御太刀、定利御馬置



鞍白銀二百枚御服三十領進上。太刀折昏をへ前橋侍從披露。犬追物上覽  
 二備へ置由を若狹少將言上せらる。御會釋有。薩摩守退出。次に子息又三郎御  
 禮。白銀百枚狸々皮十間進上。太刀折紙披露。同前若狹少將挨拶申て退りし  
 む。次島津圖書久通新納右衛門久詮薩摩守家老。島津安藝久雄。同市正忠弘。同源助  
 久立。鎌田又七郎政由。伊勢兵部貞脇此五人薩摩守舍弟。町田勘解由久則又三郎。鎌田源  
 左衛門政有薩摩守家人。九人、一同に闕の外にて御目見申て退く。次に御障子を開  
 く。下壇へ出御あり。此度の射手役人四十一人。次の間並居て一列。御目見。爰  
 におゐて入御し給ふ。其後河越侍從。豊後守。柳之間へ出て着座。奏者番等相  
 從ふ。薩摩守家老并舍弟其外射手役人凡五十人を悉く呼出し、御服を頂戴せ  
 しむ。或六領或ハ四領或ハ三領其人ニよりて差別有とそ聞へし。十二月二日  
 大納言二の丸の御殿へ出御有て、上壇に御着座有。彦根中將若狹少將前橋侍  
 從。河越侍從。松平和泉守乘壽。酒井日向守忠能以下伺公。薩摩守出仕御禮申  
 御太刀長光御馬置鞍白銀百枚狸々皮十間進上。太刀折紙をへ日向守披露  
 後。今度犬追物を將軍家の台覽に備へ奉り、辱よしを老臣等言上。薩摩守退  
 る御次の間にあり。又三郎御禮。御太刀馬代黄金一枚御服十領進上。太刀折

昏披露同前。老臣等挨拶して退しむ。次ニ薩摩守を召て、御手自熨斗を被下。頂  
 戴の時御腰物則光を拜戴。日向守是を取次く。拜受して退く。御脇差吉光を  
 進上。日向守持て御前へ奉る。薩摩守退く。次に又三郎を召て御手自のしを  
 被下。戴て退く時、御脇指兼光を被下。日向守取て授く。拜戴して退く。御脇差安  
 吉を献。日向守請取て御前ニ置く。又三郎退出。次ニ御障子をひらく。下壇へ  
 下させ給ふ。薩摩守家老舍弟等九人、闕の外にて一列に御目見。射手役等四十  
 一人も並居て、同御目見。申の刻入御。次ニ薩摩守家老舍弟以下五十人に御服  
 拜領之事あり。或ハ二襲或ハ三領或ハ二領差あり。和泉守等是を沙汰。其終  
 りて各罷。兩御所へ御禮相濟て、大營故障ふく調へ。ぬと、彼家の歡喜不  
 斜とふん。夫犬追物ハ、神功皇后三韓を平定し時より、三浦介上總介  
 う那須野の狐を狩しも其例とふん申傳たり。騎射練習の業ふれハ、鎌倉の柳  
 營、京都の幕府より興行せらる。三管領四職を初として、武家の家々執行  
 ハそといふ。衰なし。信長秀吉此時より其沙汰ハ止ぬ。其法ハ殘て弓馬の  
 家に有。今四海無事の御代にありて、此藝を再興し給ふ。太平講武の一端成  
 へし。彌々祝ひ益あぶめ奉。目出たうりける。衰ともふり。



江戸紀聞

一、松平大隅守犬追物被仰付、王子にて新に小屋掛上覽也。其節御譜代衆何も御供、前々より將軍家を簾下し、以ての見物付、如何可仕之由相窺ひ處、代々乃將軍ハ簾下し、以て見物ハ共、我等ハ簾上、以て上覽に入、以て上意也。御白衣に、御譜代衆御目見被仰付、於御前御酒被下、其内に犬追物相濟、幸是より御鷹野可被爲成、以て間御跡、以て何も酒盛仕、以て上意に、出御。此節冬にて、犬追物興行之内、風上より出火夥敷焼失、以て共、始終火事の儀曾て御とんちやく不被遊、

寛永小説

同年○正保四年十一月十三日、武州江府ニ於テ松平薩摩守光久、將軍家ノ仰ヲ承テ犬追物ヲ興行ス。依テ在府ノ大小名群參ス。

玉露叢

一、同○正保四年丁亥十一月十三日、于武州王子村、犬追物上覽。松平薩摩守光久○鳥津家來勤之。

國朝舊章錄

〔參考〕 島津光久

島津中將光久ハ、弓馬槍劍ハ勿論、水練及ビ詩歌書畫算術謠曲等ニ至ル迄、衆ニ勝レシ人也。或時近習ノ士ニ問テ、其方共望ミアラバ銘々ニ申ベシト

云。近士等銘々ニ望ミ事ヲ云。其中ニ一人何モ云ハザル士アリ。光久問テ、汝望ミハナキカト云。其士某ガ望ミハ衆人ト違ヒ、朝夕ノ食事ニ一汁三菜、又常ニ薄茶ヲ飲度ク、又毎日兩度伽羅ヲタキ度ク、以テ云。光久ヨキ望ミ也、誰モ左様ナル境界コソ望ムラメト賞美セラレシ。又泡盛酒ハ、薩州ニテモ造レド、盃ニ盛り上リ、又板ノ上ヘコボセバ、其板ヲ貫キ通スナドハ、琉球製ニハ及ズ。此泡盛貞享年中ヨリ公儀ヘ献上、并ニ諸役人ヘ進上物ニ成リケレバ、琉球製ノ物ハ残りナク、家中ノ者迄行届カザレバ、薩州製ヲマゼテ配當セント掛リノ人々評定シケルニ、光久聞テ、ソハ然ルベカラズ、此泡盛ハ會宴ノ用ニハ非ズ、藥用ノ物ナレバ、將軍家始諸家ニテ重寶セララル、也、然ルニ功能薄キ物ヲ取リマゼテ送ル事詮ナキ事也、品ヲ減シテ少ク宛配當スルモ、功能ウスキヲ交テ配當スル事ナカレト云レケルト也。此光久一家一門ヲ惠ミ、家士ヲ愛シ、撫育スル事ヲ好ミ、金銀合力セラル、事毎度、是島津ノ家風ナリト雖、就中此光久能行届シ由、或時老中稻葉美濃守正則ヨリ御内書渡シニ付、幾日何時罷出ベキ由觸有リ、島津家留守居役伊勢重兵衛其日罷出シガ、刻限遅刻シケル、稻葉待居ラレテ御内書ヲ渡シ、サテ申サレケ



ルハ、前日ヨリ達シ置ケルニ遅刻セシハ如何ト叱ラレケル。伊勢一言モ發セズ恐入テ退キ、其事終テ後右ノ子細ヲ申達シ、切腹仕ルトテ檢使ヲ乞フ。コレニ依テ家老ヨリ光久へ言上セシ所、光久早々伊勢ヲ召出シ、其方ガ所存尤也、シカシ諸大名登城遅刻シテ將軍家ノ御目見エニハヅル、事ヤ、有ル事也、心配ニ及ズ、相變ラズ留守居役勤メ居ルベシトテ事濟ケル。他家ナラバ輕クテ留守居取上ゲラルベキニ、光久ソレ敷ノ事ニハ一向懸念ナシ。又先年立花飛驒守忠義酒井忠世ト縁組整ヒ、婚禮ノ日、島津光久ト加賀利常ノ家士大手前ノ酒井家ヨリ淺草ノ立花家マデノ途中素袍着タル者一間ニ一人宛立テ固メケル。又延寶八年將軍宣下有シ時、島津薩摩守綱貴未ダ嫡子ニテ侍從ニ在ケレバ揚輿ヲ用ル事決定シ難ク、幸ヒ加賀仙臺兩家共在江戸ナレバ此兩家へ問合セケルニ、嫡子ノ揚輿兩家ニテモ決定シ難キニヤ、シカトシタル返答モナカリシカバ、綱貴云ケルハ、我今嫡子ノ身ニテ未ダ家督ハセザレドモ、家ニ用ヒ來リシ揚輿ヲ用フルニ豈遠慮スベケンヤ、先例ノ通り用意スベシトテ、慶長年中ノ通りニ布衣素袍等ヲ調ヘケル。且先例ハ龍ノ口ノ酒井家へ裝束長袖ナド遣ハシ置キ、其所へ立寄り

支度シケルヲ、今度ハ押テ揚輿ヲ用ルカラハ、他家へ勞ヲ懸ベカラズ、吾家ヨリ乘テ登城スベシトテ、居屋敷ヨリ輿ニテ乘リ出ケル。又天和年中江戸大火度々ニ付、諸侯方へ火消シ仰付ラレシ時、芝邊ハ島津家へ命ゼラル。光久在國故嫡子綱貴下知シテ、島津中務ヲ大將トシ、雜兵三千人火消人數トシ、十二組ニ分ケ、一組ニ物頭ヲ一人宛立テ、持場内ヲ晝夜一時代リニ一組宛廻ル。其嚴重ナル事軍陣ニ異ナラズ。且中務ノ出馬スル時ハ、太鼓ヲ打テ人數ヲ下知シ、旗ヲ以テ水ノ手ヲ下知シ、士以上ノ者へハ采ヲ以テ下知ス。渾テ進退ハ島津家ノ軍法也トカヤ。其後増上寺ノ火消ヲ仰付ラレシ時、一山ノ寺中へ觸テ、衣類調度ヲ殘ラズ大帳へ記シ、又觸ケルハ、失火ノ節ハ各經文ト本尊ヲ持テ立退ベシ、其餘ノ物ハ悉皆捨置ベシ、若シ燒失セバ堂塔衣類調度共殘ラズコシラへ遣ハスベシ、是ハ一山ノ僧徒并ニ吾人數ニモ怪我サセヌ爲メ也。又島津家ノ例トテ、女子ニテモ十五六歳ニナレバ馬術ナギナタ甲冑ノ着様ヲ教ヘル事家風也トカヤ。婚姻ノ時具足櫃ヲ持スル事、諸侯ノ中島津家ナリ。島津家ノ武備右ノ一事ヲ聞テモ萬事思ヒヤルベシ。



山内氏藏屋

是年元正保四年(紀)高知土佐國城主山内忠義土佐守南八町堀京橋區ニ藏屋

土岐氏賜地

鋪ヲ購求ス。御當家上山前國城主土岐頼行山城守高輪濟海寺境内一

部及預地芝區等ヲ賜フ。内備府

山内氏藏屋

御當家年代畧記ニ、

正保四丁亥

江戸南八町堀ニテ御藏屋鋪御買入。

土岐氏賜地

土岐氏賜地 續府内備考、

京都知恩院末  
周光山長壽院濟海寺

○上高輪  
○中略。

往古ハ境内ニ龜塚山ヲ號シ塚有之、右之分御除地ニ當寺ハ御領地ニ御座  
ル處、正保四亥年右塚之地所并拜領地之内五拾六坪相濟、土岐山城守殿ハ御  
預地ニ罷成シニ付、右屋敷ハ圍込ニ相成、尤拜領地五十六坪ハ、替地被仰付  
得共、龜塚之地ハ境内之外ニ罷成シ、依之當時モ山城守殿屋敷内ニ右龜塚ヲ  
號シ、塚有之由及承シ、尤由來之儀相知不申シ。  
古來ハ當海上方入津之船夜中爲目當、右龜塚之邊ニ常夜燈有之、其頃ハ廻船

之者共々當寺ハ油等奉納も有之ハ由申傳シ、尤何之頃ハ相止シ哉、當時ハ無  
御座シ。

ト傳フ。土岐頼行内膳山城守。從五  
位下。田羽上山城主。  
濟海寺境内五十六坪ハ、其一部ナリシニ非サル歟。然ラサレバ龜塚其他ヲ是時  
加給セラレタル者ナル可シ。

〔附記〕 淺草茶屋町移轉

茶屋町

一、町名之譯、寛永十九壬午年觀世音本堂炎失ニ付、正保四丁亥年中御造營  
被爲、在ハ砌、本堂爲火除、南ハ六拾間境内廣延ニ相成シニ付、其節今之茶屋  
町雷神門内ニ有之ハ處、並木町之内當時之場所ハ地所割込ニ相成、町人共  
所持地面縮リハ故、境内仁王門前貳間ニ四間之茶屋地、銘々地主共ハ添被  
下シ。右茶屋當時貳拾間ヲ唱ハ場所ニ御座シ。  
府内備考

寺社ノ創建若クハ轉地シタル者若干有リ。上。府内誌社書

寺社創建轉地 左ノ如シ。

一音寺 神田皆川町ニ在リ。

市街恢弘時代

附記  
淺草茶屋  
町移轉

寺社創建轉  
地

一音寺



起立之年代相分不申。正保四年迄神田皆川町邊ニ罷在。○下

——文政寺社書上

一向宗 西本願寺末  
小石川指ヶ谷町 佛以山得解院一音寺。○中

存明寺

存明寺 櫻田ニ起立ス。

東本願寺末 櫻田山存明寺

芝金杉

本寺抱地ノ内五十八坪餘。

起立之儀ハ、正保四丁亥年四月八日武州豊島郡櫻田ニ御座。其後櫻田御用地ニ相成。ニ付、芝金杉中通ニ引移申。○下

——續府内備考

正覺寺

正覺寺 金杉町ヨリ高輪村ニ移ル。

下高輪

京都知恩院末 演暢山成就院正覺寺

境内御年貧地六百七拾九坪餘。  
内百九拾八坪持添地。門前町三拾坪。

起立之儀ハ、元和五未年々正保三戌年迄二拾八年之間金杉村ニ罷在。同四亥年々下高輪村ニ引移申。元祿五申年五月八日御法事ニ付、古跡地ニ被仰付。以段同九日寺社御奉行本多紀伊守様ニ、戸田能登守様、杉浦壹岐守様御三

西光寺

人御對座ニ被仰渡。西光寺 山城國伏見ヨリ麻布今井谷町ニ移ル。

——續府内備考

築地本願寺末  
麻布今井谷町 淨土眞宗 西光寺

西念寺

西念寺 八町堀ヨリ深川富吉町ニ移ル。

西本願寺末  
深川黒江町 淨土眞宗 感益山西念寺

一、境内古跡御年貢地三百貳拾壹坪。  
一、當寺起立ハ、元和八壬戌年山城國伏見ニ御座。其後廿六年正保四丁亥年今此武州豊島郡江戸麻布今井谷町ニ引移申。○下

——文政寺社書上

一、境内惣坪數三百拾貳坪。

内、古跡除地九拾壹坪。持添御年貢地貳百貳拾壹坪。○中

一、當寺起立之儀、慶長之頃、武州品川ニ小庵を結。以門柳庵と號し罷在。處、同八卯年瀬戸物町邊ニ一字建立仕。同九辰年八町堀小家ヲ結。同十二未年又市街恢弘時代



同所ニテ移住仕其頃迄眞言宗ニ御座ハ處其後當宗ニ相改寛永二丑年八月二日本山準如上人々木佛寺號申請當寺號ニ罷成同十二年淺草寺町ニ引移同十四丑年九月又八町堀ニ引移同十五亥年八月同所之内ニ移住正保亥年五月深川富吉町ニ敷地を求寺引移其後御除地相成元祿十五年十月二月願之通り持添御年貢地黒江町ニ地面替被仰付ハ

文政寺社書上

西念寺 黒江町ニアリ。感益山ト號ス。京西本願寺ノ末ナリ。寺傳ニ開基圓及永忍ハ北條氏直ノ男ニテ北條家没落ノ後紀州高野山ニ於テ削髮受戒セシカ其頃大閤秀吉ヨリ扶助米ヲ贈リシニ永忍是ヲ厭ヒ高野山ヲ出テ畿内ノ靈場ヲ順拜シ慶長年中當國ニ來リ荏原郡品川ニ於テ草庵ヲ結ヒ居住シ同八年瀬戸物町ニ移リ同九年八町堀ニ移リ此年二世門柳庵主トナリシカ同十二年三月三日寂シ三世權及相承セリ其頃マテハ門柳庵ト號シ眞言宗ナリシカ後一向宗ニ改メ寛永二年本山準如ヨリ寺號ヲ許サル同十一年永忍寂シ同十二年淺草ニ移リ同十三年權及寂セリ同十五年八町堀ニ移リ正保四年當所富吉町ニ移リ其後元祿十五年ニ至リ許可ヲ蒙リ今ノ地ニ移轉セ

リ本尊ハ彌陀ヲ安シ惠心ノ作ト傳フ海中出現ノ像ニテ往古庵室ニテ品川ニ在リシ時ヨリノ本尊ト云フ境内三百十二坪内九十一坪ハ除地二百二十一坪ハ持添年貢地ナリ。

府内誌殘編

附記、一、熊野三社大權現

相傳ヘテ正保年中ノ建立ニ係ルト爲ス。

青山總鎮守 熊野三社大權現

武州豐島郡原宿村 亦北原宿町。

紀伊殿御祈願所

境内伊賀給地之内古跡除地表間口東西貳拾三間。奥行南北貳拾五間。坪數五百七拾五坪餘。外隱田村ニ伊賀衆々之除地御座ハ反別不知。

右當地鎮座正保年中勸請之由申傳年月相知不申ハ社地之儀老元紀伊殿御庭内又老御露路町共申傳ハ詳ニ相知不申ハ

本寺京智積院末 武州豐島郡原宿村 三光山淨性院

一、別當所起立不相知。

一、開山法印清範、明曆二丙申十二月三日寂。略。下

文政寺社書上

市街恢弘時代

三七五



中橋入堀填築

往古江戸繪圖中橋入堀西ノ方城濠ト一路ヲ隔ツルノミ。承應江戸圖大通以西ヲ埋立テ、大通西ヲ玄琳賜地、西中通西ヲ兩會所地トス。填築年月明カナラサレドモ、相傳ヘテ正保中ノ事トス。

中橋 日本橋より南

是より京橋へ四町あり。その中ゆへに名はくといへど、橋はなし。上まき町南横町の間二丁廣小路也。

貞雄○瀬云橋ハふけれと兩橋の中ふるゆへ中橋といふと書しは大なる誤り也。是いよまへのことをまらけして、推量よて書る説とミへより。古へ中橋の堀を紅葉川とて、吳服橋のち橋のつゝきて、今中橋と稱する所に□橋掛りて、是を中橋と云し也。正保の頃、此堀ハ半分埋めて、今のことくなりより。扱は上古橋ありける時、地名とハふりしことうたのひなし。橋ハふけれと名付るよハあらむ。其上寛永十三年の江戸圖よくミしくミへより。——江戸紀聞

中橋廣小路町

〔附記、二〕 正保ノ江戸

沿革 昔時本材木町ヨリ西ノ方城池ニ通スル一條ノ入堀アリ。蓋シ徳川開府ノ後ニ設クル所ナリ。其通町ニ當ル處ニ橋アリ、之ヲ中橋ト云フ。事蹟合考。府内備考○寛永圖ヲ按スルニ、入堀ハ北横町ノ西邊ニ止リ、其間一路ヲ隔テ、城池ト相通セズ。二書ノ説ト同シカラス。附記シテ參考トス。相傳フ、正保中、中橋以西ノ地今ノ北横町。ヲ填テ用達商人ニ給スト。中橋ノ廢セシモ、其頃ノ事ナルベシ。略。○下

北横町

沿革 本町ハ昔時中橋ノ入堀ナリシニ、正保中之ヲ填テ街市ヲ開ク。

——東京府誌

正保ノ江戸ヲ見ル可キ者ニ正保江戸圖○分。横六尺七寸。二有リ。内閣本帝國圖書館本東京府本、共ニ同一本ノ轉寫ニシテ、紙末ニ

此江戸大繪圖年月未詳、予考ルニ、長松君○徳川綱重。正保元年七月廿四日御誕生、越前宰相忠昌朝臣、正保二年八月朔日逝去ナレハ、正保元年申ヨリ二年七月頃迄之繪圖ニヤ。

ノ考證有リ。武藏國地誌備用典籍目錄解題ニ據レバ、西山大久保忠寄ノ案也。

市街恢弘時代



原圖恐ラクハ大久保氏藏本ニ出デタル者ナラム歟。

原圖ニ磨滅裂損有リ、缺略省除有リタリト覺シキ所尠ナカラズ、而モ圖シテ

近郊ニ及ベバ、以テ當年ノ全霸都ヲ概見スルニ足ル。戸圖參照。

代官町

ヨリ。尾張宰相殿

寄。南ヨリ。東。水戸中納言殿。紀伊大納言殿。○同。西寄。西尾丹後。倉橋内匠。

土屋長三郎。

堀端。南ヨリ。北。筒井内藏。牧野佐渡。朝倉石見。中根大隅。興津内記。

本多次左衛門。矢部七左衛門。伊澤隼人。

西。前者。東。北。隅。杉浦内藏。弓引源七。大岡權之助。北見五郎左衛門。

南ヨリ。同。中。側。玉虫八左衛門。日下部五郎八。鹽焔御藏。虫。東。明屋敷。東。側。

南ヨリ。石具谷。十三郎。石具五介。

橋外。東。樹木屋敷。南。○西。大僧正。上。南。屋敷地。

者。北。御クラ。北。○同。藏。屋敷地。東。○同。天壽院様中屋敷。

西。○北。勿。橋外。屋敷地三。南。○同。西。側。増山彈正。□光院。

東。○北。勿。橋外。酒井紀伊。御丸。英勝院。

南。○竹。橋内。長松様。天壽院様。

東。○清。水。門内。永田十太夫。本多豊前。神尾權十郎。藤枝喜内。南。○同。西。側。

森川金右。青山因幡。屋敷地。服部與十郎。側。○是。迄。東。西。兩。宮城越前。

松平孫十郎。松平喜太夫。

松平。安。門内。西。側。東。側。ハ。即。チ。齋藤佐渡。鳥井石見。○。島田刑部。○。

隣。東。側。南。屋敷地三。西。○同。秋元但馬。

西。堀。端。久世大和。

西丸下

大。○西。丸。御馬屋。

内。○櫻。田。口。外。櫻。田。保科肥後。品川新六。岡田淡路。

方。清。齊阿。福阿彌。

手。○西。丸。大。屋鋪地四。

内。○馬。場。先。門。屋敷地。

門。○馬。場。先。屋敷地六。

市街恢弘時代



○西丸大手外。北阿部對馬。稻葉美濃。大久保右京。○同北側。屋敷地。  
 廊。南側。西ヨリ。北  
 本多能登。□備後。廊。前廊北。屋敷地。西ヨリ。北側。屋敷地。松平□  
 記。

○和田。阿部豊後。  
 倉門内。

大手橋外平川門外。○缺略磨損多ク、僅  
 廊。大手橋外北。松平□。延□。南ヨリ。同東側。□内記。井上河内。

○龍口。松平筑前。南。常盤橋内。町御奉行。松平□。土屋民部。

○常盤橋内。町御奉行。松平□。土屋民部。

○常盤橋内。屋敷地。小笠原右近。原邸北。屋敷地。

○平川門外。松平伊豆。中根壹岐。澤。○餘。外西廊。門屋敷地。

大名小路邊。○缺略磨損多ク、日比谷門内。堀端。外西廊。門屋敷地。

○道三堀。町北堀端。北。山名主水。南。松平土佐。

○前廊。醫者町。東。堀端。

○前廊。南東廊。細川肥後。前田右近。戸田左門。小笠原主膳。○同上。屋敷地。加賀爪甲斐。道三。屋敷地。○同上。中。屋敷地。北。同上。中部。ス

ミヤ長三郎。ハリツケ市左衛門。東。同上。屋敷地四。

○和田倉橋外。水野。幸阿彌與兵衛。藥院。傳菴。○同上。東。酒井讚岐。堀端。北ヨリ。

松平新太郎。西側。北ヨリ。松平阿波。松平新太郎中屋敷。中側。森内記。北ヨリ。同東側。屋敷地。西。松平丹波。近藤彦左。近藤又。外。馬場先。屋敷地一廓。

○鍛冶橋内。北。有馬中務。モリ次郎兵衛。森内記中屋敷。松平阿波中屋敷。側。西ヨリ。京極山城。朽木與五郎。荒川右馬。屋敷地。○同上。南。側。西ヨリ。

介。小出對馬。北。屋敷地。南。

○日比谷門内。真田能登。松平山城。九鬼大和。南堀端。西ヨリ。

外櫻田貝塚邊。東。櫻田門外。上杉彈正。西ヨリ。同南側。土方河内。淺野内匠。北側。北ヨリ。外。松平奥州。松平長門。西ヨリ。同南側。大關□。屋敷地。鍋

島信濃。南。上杉等廊。屋敷地二。西ヨリ。同南側。金森出雲。水谷伊勢。南。北側。西側。中。戸澤右京。本多。秋田河内。

○前廊。東廊。西側。中。戸澤右京。本多。秋田河内。側。缺略。東側。北ヨリ。

市街恢弘時代

三八一



○山下屋敷地四。

○御成橋内南屋敷地。龜井能登。相良壹岐。加藤式部。寺澤兵庫。

○虎門内東松平刑部。柳生。

○櫻田口松平安藝守。○安藝邸井上太左衛門。

○前廊松平右衛門佐。○同上郎筒井左衛門。岡部三之丞。坪内五郎

左衛門東。坪内玄蕃西。

○虎門内西松平周防。小出大和允屋敷。兼松又四郎。

○虎門内西松平周防。小出大和允屋敷。兼松又四郎。

○前廊東溜高木善之丞。坪内半二。富永四郎三郎。

○前廊北西廊東井上。伴五兵。水野善六。○同第二列北ヨリ。中川左平太。神谷

傳七郎。屋敷地。○同第三列北ヨリ。加藤勘助。加藤平左衛門。成瀬源右衛

川勝越前。松平外記。○同第四列屋敷地三。

○松平安井伊掃部頭。○同上西。北橋三郎兵。建部勘六。○同上西。南新

見平六。菅沼七兵衛。彦左衛門。

○前廊南廊。酒井太郎八。岡部長四郎。渥美九郎右衛門。淺野因幡。

宗僧。村上佐右衛門。中山茂右衛門。中山七郎左衛門。中山佐兵衛

○同西側。小倉孫右衛門。新右。山中。諸家孫七。屋敷地。永田庄次

郎。田村助太郎。永田庄左衛門。永田三郎右。永田善十郎。

○前廊西。内藤豊前。城織部。設樂甚三下屋敷。丹波羽左京中屋敷。

大久保玄蕃。内藤石見。阿部攝津。佐久保宇右衛門。松平縫殿。牧

野清兵衛。井上淡路。○井屋敷地。○同松平。○同岡部美濃。○同

北。西郷彌六。○同上諏訪出雲。○同上志村喜兵衛。○同上屋敷地。

麴町番町及田安門外

○糺町口外南町。○同南裏。日根左京。林半四郎。小栗平吉。

○前廊西廊。東ヨリ。杉山兵右。鎮目藤六。○同西半。小林彌兵衛。

津部三郎兵。小川傳右衛。

○前兩廊南廊。天野。山田彦右衛門。高井作左衛門。長田清右衛。長

田八十郎。○同上西。加藤貞兵。本田九郎右。近藤六右。○中松平越

後守。○同山王社。○山王社。三好監物。大木六兵衛。屋敷地。

○前廊南廊。井上外記。○神原兵左衛門南。新阿彌。福地一郎兵衛。



三上勘兵衛。小川百助。屋敷地。石卷權右衛門北。石川傳左衛門南。高木東兵。石野八兵衛。神保市右衛門。東。三宅新右衛門。真田長兵衛。天野左衛門。高力左近。柴田七九郎。柴田。諷訪出雲中屋敷。

前。齋藤金。中山五平次。松波五郎右。駒井五左衛門。屋敷地。南。永井監物。北。永井豐前。東。荒川七兵衛。花江南。荒川七兵衛。駒井虎之助。永井。山本平六。高木喜助。久保平左衛門。朽井市郎左。玉虫助左衛門。海野東六。米倉庄左衛門。

前。米倉助右衛門。諷訪若狹。加藤左門。上野八郎右。小笠原左門。小笠原源六。ヲサキタイ。南。浦金助之助。屋敷地。相馬小平次。黒澤柰。伊東五左。上川主膳。服部平右。

齊藤。川合五兵。加藤甚二。福尾一右。川合宗右。川内源右。川内八右衛。

齊藤。竹田五郎左衛門。

山口三右衛門。川口茂兵衛。榊原平右衛門。市川清右衛門。窪田茂左衛門。鈴木石見。青山彦右衛門。内藤太郎左衛門。曲淵源三郎。

加藤彦兵衛。西。天神平河。服部太郎右衛門。服部。松平出羽。松平。服部源兵衛。猪子左太夫。

赤坂。菅沼屋敷地二。土岐。内藤勘三。内。竹越山城。竹。尾張大納言殿。

土岐。川窪越前。跡部民部。鈴木清兵衛。内藤彌三郎。戸田因幡。

前。屋敷地。四谷。屋敷地。

川筑後。武島六太夫。江原源兵衛。天津彦七。榊原市郎右衛門。松平孫左衛門。

糺。町。南。新見七左衛門。江原與右衛門。長



谷川淡路。○同。西側。安藤彌兵衛。大橋平右衛門。

○前廓北廓。間宮忠左衛門。平川太郎右。平岩金右衛。○同。西側。安藤

次右衛門。屋敷地。

○前廓北廓。八木忠三。小宮山傳九。小俣吉左。森川六左。○八木北。南側。東ヨリ。

上村庄左衛門。本田甚三郎。本田忠太夫。○忠太夫。筒井内藏。宮腰作

兵衛。小栗八十郎。川○小宮山傳九ヨリ。森松岐梶平。

○糶町口外北側。西町。○町北。東。松□加右衛門。加藤孫四郎。○町北。西。側。南ヨリ。

猪子久左衛門。岡部玄蕃。

○前廓北。東。新見彌三郎。小俣平右衛門。○同。西側。佐々木右衛門。勝

部甚五郎。

○前廓北。永ヲ尾敷。庄右衛門。雲屋。

○糶町口外北側。西町。○町北。南。加藤權右衛門。水野織部。服部三右衛

門。市谷市左衛門。○同。北側。永井彌右衛門。門奈六左衛門。門奈又

左衛門。有田九兵衛。神谷左馬。○屋敷地。○南。

○前廓北。東。峯八郎右衛門。宮崎藤右衛門。同。太左衛門。○峯市岡太

左衛門。○市。寺。○市。岡利右衛門。右衛門北。寺。○同。小澤半右

衛門。○同。イトウ傳右衛門。○北側。永井五衛門。諸高伊織。小田

切喜兵衛。桑田庄五郎。

○糶町口外北側。西町。○町北。南。服部中。水野太郎作。久米新三郎。○同

北側。東。山本與右衛門。小島孫右衛門。中島三右衛門。

○前廓北廓。大久保勘七。願正寺。島田孫左衛門。○南。小島助左衛門。○北

東ヨリ。渡邊六左衛門。本間四良左衛。石原八右衛門。藤兵衛。

○糶町口外北側。町。○町北。鈴木八兵衛。島小太郎。小出庄右衛門。松

平東三郎。屋敷地。成瀬越中。八木左右衛門。本田幸三。○本。田。高

木善七郎。○同。長。

○前廓北廓。内田甚太郎。平林甚兵衛。石原良右衛。須藤助左衛。長

田久右衛。青山。○同。中側。河内傳兵。朝比奈五兵。○同。北側。小林平

二。高木甚兵。初傳右。

○糶町口外北側。西。屋敷地。太田太郎左。屋敷地。○同。北側。心法寺。

水野大膳。三九郎。○南。久留久兵衛。○北。



○前廓東北廓。八□。近藤與兵衛。○同北側。本多丹後。屋敷地。  
 ○前廓東北廓。須藤源右。天野友右。山岡五郎作。門奈惣兵衛。○同北側。  
 鈴木市郎兵衛。屋敷地。□田權右衛門。

○前廓東北廓。青沼文右衛門。加藤金五郎。柴山九右衛門。横地彌左  
 衛。曲淵清藏。青木五左衛門。○同北側。齋藤三右。宮崎半十。石川  
 八太夫。大岡作左。高田小次郎。西山八兵衛。渡邊半兵衛。

○前廓東北廓。南喜清。宗和。道和。○同北側。田澤九左。鈴木半左衛門。  
 坂本小右衛門。鳥次左衛門。小崎甚兵衛。○小崎宅南マデ堀。川村權  
 太夫。河内彌四郎。堀。○同上北側。遠山清右。杉浦彦右。杉浦忠太  
 郎。篠田兵右。加藤久太夫。堀。○東。○同北側。服部半右。□與五左衛  
 門。都筑又兵衛。丸毛兵左衛門。太田善六。中根七左衛門。松平甚

兵衛。伏見勘七。堀。○東。○同東部。西。秋山權右衛門。松平伊之助。○東側。  
 北。三宅大兵。松波平右。梶市郎兵衛。笈三郎左。

○前廓東北廓。染味又右。佐□五兵衛。竹尾傳四郎。木村三右。  
 ○前廓東北廓。ウツノ佐左衛。松平。

○糺町口外北側。成瀬隼人。坂部三十郎與力。  
 ○前廓東北廓。三田左兵衛。小笠原太左衛門。豐島淺左衛門。○同西側。  
 春日四郎二郎。森三平。押田藤右衛。

○前廓東北廓。安藤久太。高木彌三郎。高林太郎兵。  
 南。○同西側。押田三  
 五郎。小島兵四郎。小邑清右衛。

○前廓東北廓。屋敷地。岩間勘六。近林八十五。大久保半兵衛。多田  
 傳兵。横田九兵衛。南。○同西側。屋敷地。小角右衛門。天野佐兵衛。□  
 名市郎左衛門。横山半□。

○前廓東北廓。杉浦忠左衛門。小笠原源四。飯川藤次。福井清右衛門。  
 加賀見金右衛門。西。長田傳六。○東。曾我太郎左。遠山平太夫。成瀬  
 吉平。○以下二。成瀬吉平。多門權左衛門。多田八藏。笈助□。○同

西。三浦八兵衛。屋敷地。大岡忠四郎。米倉□太夫。染宮權右衛門。  
 ○算。染宮。東。笈助□。村上彦□。内藤權十。梶川半三。  
 ○前廓東北廓。石川與二右衛門。松平新五右衛門。大岡忠左衛門。○同  
 北側。東。助之進。□左近。



○四谷口坂部市十郎與力。  
 内北廓。坂部市十郎與力。  
 ○前廓北廓。小林勝之助。山田五郎兵衛。○同西側。飯川新右。五島小十郎。興津太左衛門。山田太郎右衛門。  
 ○前廓東北廓。大久保半右衛門。伊藤權之助。篠瀬郷右衛門。○同西側。南ヨリ。遠山田郎兵。伊島與四郎。岩平平左。  
 ○前廓東北廓。屋敷地。與右衛門。次□孫四郎。安藤兵衛。山田權兵衛。東側。南ヨリ。大木喜兵次。○同西側。永井左右衛門。小田切新右。屋敷地。田澤五郎左。須田儀左衛門。深田傳右衛門。渡邊。□兵衛。金田惣八。  
 ○前廓東北廓。永田理齋。榊原四郎左衛門。黃□。高田庄右衛門。東側。南ヨリ。高木茂左衛門。稻垣善右衛門。渡邊茂兵衛。小林長五郎。○同西側。南ヨリ。大與岡兵左衛門。ヨコチ市郎右衛門。淺岡八太夫。三田小左衛門。屋敷地。彦坂平九郎。□清右衛門。小谷二郎右衛門。  
 ○前廓東北廓。小林半太夫。多田宗兵衛。笈助兵衛。○同西側。屋敷地三。東側。南ヨリ。地。寬及屋敷。松清九郎。大久保五郎八。榊原清兵。淺井八右衛門。○前廓東北廓。佐橋甚兵。佐橋源太夫。川合二郎兵衛。佐橋八郎右衛門。南側。東ヨリ。

○以上二屋敷地。○同西側。大岡金右衛門。馬場源左。伊東七。岩瀬。森川。

○市谷口内、南ヨリ。屋敷地。杉原小右衛門。小林太兵衛。御手洗四郎兵衛。第一廓。南ヨリ。松崎十右衛門。○西。市谷門内南廓。東側。南ヨリ。久富善四。山田一郎兵。難畑太郎兵。上田万五郎。小土谷伊兵衛。○同西側。大橋惡右衛門。小笠原久左衛門。駒井孫四郎。佐藤善右衛門。  
 ○前廓東北廓。川野庄太夫。加藤九郎。有賀半左衛門。飯室八兵衛。東側。南ヨリ。ハン衛門。□ヤ六之丞。向坂六郎兵衛。揖斐十右衛門。長田德二郎。小谷傳十郎。○同西側。牛負左源太。山中與五兵衛。御手洗五郎兵衛。沼津彌七郎。  
 ○前廓東北廓。小川龜之助。中根東平。中根大隅。朝比奈助右衛門。東側。南ヨリ。伊達藤兵。○同西側。屋敷地二。落合小平。小幡三郎右衛門。内藤彌。東側。南ヨリ。山角權兵衛。向井右衛門。青木興兵衛。淺岡久兵衛。○同西側。南ヨリ。小笠原八郎兵衛。堀主水。廣戸半左衛門。芦山權右衛門。天野



六郎右衛門

○前廓東北廓。平。松平監物。近藤。大塚平右衛門。○同西側。米  
東側。南ヨリ。津十郎左。松平筑後。野上源三郎。大久保新八。大久保荒之助。揖  
斐與右衛門。

○市谷口内。美濃部三右衛門。三浦万吉。本目權之助。本目權十郎。  
北廓。南ヨリ。○以下二。高原太郎右。横□左右衛。大久保三郎左。服部。屋敷地。  
列。東側。飯田次郎。森本助左。○同。河崎勘右衛門。土屋半右衛門。本間太左  
衛門。服部助右。榊原喜平次。

○前廓東北廓。河部二郎兵。三宅惣兵衛。加藤久右衛門。湯川源兵衛。  
東側。南ヨリ。駒井半三。松平丹後。南ヨリ。田中五郎右。田中市郎右衛。水野石  
見。高林河内。大久保助左衛門。

○前廓東北廓。三宅大膳。三宅半七。○同西側。倉橋庄兵衛。酒井下總。  
東側。南ヨリ。○市谷口内北廓。榊原三太夫。長垣勘太郎。飯田清右衛門。○飯。淺井  
西北廓。南ヨリ。次右衛門。田西。淺井

○前廓東北廓。向山三左衛門。ウツノ九郎左。戸田七内。内藤甚右衛。

ソカハラ次左衛門。□タ小右衛門。坂口右衛門。森川小右衛門。大  
久保八郎八。南ヨリ。御手洗彦右。本多清兵衛。本田右衛門八。松

田市兵衛。水上五兵衛。小野左馬。有田小十郎。服部新右。  
○前廓東北廓。小笠原傳四郎。五味備前。○同西側。近藤太郎右衛門。  
東側。南ヨリ。右衛門。島澤右衛門。

○柳原等。本田新八。

○前廓東北廓。大久保長二郎。山角五右衛門。山角次右衛門。○同西側。  
東側。南ヨリ。都筑市左。榊原□郎兵衛。須田久左衛門。南ヨリ。

○前廓東北廓。小野傳三郎。山田長左。菅沼新藏。○同中側。林藤九郎。  
東側。南ヨリ。松平新九。南ヨリ。長坂權七。松田六郎左衛。○東。小崎門之助。○西。

○前廓東北廓。田孫十郎。渡邊平六。榊原四郎兵衛。大久保平四郎。  
南側。東ヨリ。□根。東ヨリ。トノ八郎兵衛。○南。根岸長兵衛。北。駒木根長三郎。

向坂清左衛門。黒田源右衛門。美濃部勘三郎。横山勘左衛門。  
○前廓西。小□佐平。川上三十郎。川村奎右衛門。加藤甚之助。匹田  
長兵衛。



○牛込口 松倉九兵衛。○松倉東、南 側。西ヨリ。松平源七。大久保九郎兵衛。大久保  
又六。○同北側。飯田四郎左衛門。匹田喜右衛門。三□右衛門。  
○前廓東廓。内藤六之。大久保。鈴木久兵。三待清三。淺井清右。同○  
南側。西ヨリ。酒依權右。岡部小右衛。青山虎之助。和久權左衛。列。西ヨリ。  
水野甲斐。松平中務後家。  
○松倉等廓。坪内平九郎。平井新三郎。山下長右。南○。三□右衛門。北○。  
○前廓西ヨリ。筒井彌左衛門。三郎。稻垣藤右衛門。酒井助六。天野  
勘□。天野仁右。淡路。水野□之助。屋敷地。  
○牛込口内北。山□衛門。屋敷地。稻垣攝津。側。同中西ヨリ。万□次衛。  
山□衛門。篠田七左衛門。齋藤左源太。側。同中東ヨリ。池田勘六。大久  
保新藏。齋宮。杉浦八郎右衛門。戸塚左十郎。  
○前廓。馬場次郎左衛。東南廓。馬場次郎左衛。  
○前二廓東廓西。布施五兵衛。筒井次右衛門。西○同中側。永井惣兵衛。布  
部南側。西ヨリ。夏目藤四。永見權七。浦見五郎兵  
施與兵衛。布施半兵衛。西ヨリ。蜂口七兵衛。今村傳  
衛。石川六右衛門。南○以東二列。布施孫左衛門。今村傳

四郎。松下主馬。富永主膳。西○同北側。宮内卿。渡邊吉左衛門。鶴殿  
傳十郎。小栗又市。  
○田安口。屋敷地二。南○同上西。渡邊圖書。蜂屋半之丞。成瀬右衛門。小  
外。東南側。野三郎右衛。南ヨリ。西。大久保勘三。東○。三浦□市。西○。佐野左京。前○  
列。西。南大。三橋善兵衛。關六右衛門。  
○前廓西廓。青木作十郎。花井左京。今村傳右衛。石川八右衛門。今  
南側。東ヨリ。安兵衛。南○。内藤金右衛門。北○。永井甚九郎。木村久藏。  
村郎兵。東ヨリ。阿部新右衛門。水野備前。  
○田安口外廓。高木筑後。前田久三。  
東北廓。南ヨリ。淺羽出羽。荒川又六。東○同北側。水野主水。内藤式部。  
南側。東ヨリ。土井奎。長田平三。加藤庄右衛門。  
○前廓西。細井金十郎。林丹波。東○同北側。森川二左衛門。左田小左  
南側。東ヨリ。衛門。  
○土井奎等廓西。屋敷地。久松彦右。澤谷五郎八。北○。大草半左。南○同。  
東ヨリ。戸田久助。齋藤十兵衛。戸田兵三郎。七左衛門。吉田五郎左。吉



田五郎左衛門

○前廓西。大□平三郎。林田源三郎。林宗。六□勘兵衛。○同北側。南側。東ヨリ。

吉田權八。同勘。小草庄左。寺田與助。加藤平助。

○前廓北。小池彌右衛門。水野孫助。齋藤宗左衛門。沼戶市。

○牛込口内北廓。小野久助。石渡四郎。大□。○同。屋敷地。北。西側。南ヨリ。

○前廓北。馬場三郎左。○同西側。左衛門。安藤久五郎。東側。

○前廓北。四庄右。澤左吉。能勢久五郎。天野彦七。屋敷地。北○同。南側。東ヨリ。

屋敷地三。

○田安門外廓東。屋敷地。岡部平六。朝比奈太郎助。南堀端。西ヨリ。

○前廓東。勝屋三五郎。加藤良左衛門。永見新左衛門。稻垣若狹。御藏屋敷。

神田橋外鷹匠町邊

○神田橋外町屋。○同西側。板倉孫作。長谷川藤右衛門。丹阿彌。鈴木修理。片山源右。久兵衛。

○前廓北。高兵右。真田十。久世左門。高瀬。宗竹。小島忠兵衛。人

見元

○前廓北。長谷川。中根彦四郎。山田六兵衛。富彦太。五島淡路。松

平覺右衛門。京宗。○西。清。○東。○此等屋町。敷東側。

○神田橋外。久永傳右衛門。天方主馬。西廓。南ヨリ。

○前廓北。秋山十右衛門。渡邊與右。石川甚太郎。南ヨリ。

○前廓北。山本新五右衛門。牧野助右衛門。西尾藤兵衛。兵左衛門。南ヨリ。

宗。○東。宗久。中。宗。○西。

○前廓及長谷川。近藤織部。戸田左衛門。等廓北。西ヨリ。

○久永傳右衛門。加藤助右衛門。彦坂平六。○同。屋敷地。門等廓西。東側。

○前廓北。東。日野孫三郎。山内内藏。阿部四郎兵。小野金左衛門。中

川市右衛門。中川勘三郎。中川市助。石川土佐。○同西側。朝倉織部。南ヨリ。

神尾庄左衛門。遠山藤四郎。永喜。横田三郎兵。渡部孫四郎。石丸六

兵衛。藤川庄七郎。舟越三郎四郎。

○加藤助右。屋敷地七。○内西南隅ニ。衛門等廓西。

○前廓北。東。榊原飛驒。戸川主水。○同西側。阿部四郎兵。宗。富田庄



五郎

○前廓北。東川口久助。前田數馬。南○同西側。建部傳右衛門。倉橋庄五郎。南ヨリ。○前田。倉橋北。蒔田久太郎。西○神原飛驒等廓。屋敷地。内藤。南○同西側。桑島孫六。保々石見。星合七郎。東側。南ヨリ。堀三右衛門。青山因幡。南○同西側。屋敷地。立光院。外。東廓。屋敷地四。○前廓西北廓。中根壹岐。内藤外記。西○同北側。三井市三郎。水野庄左衛門。春日御庵。喜多見久太夫。南○前廓西北廓。池田帶刀。松平丹後。横田次郎兵衛。松平門。佐久間監物。花房五郎左衛門。西○同北側。長坂茶利。大森半七。山下彌藏。戸田淡路。清水權之助。稻葉權之助。南○前廓西北廓。佐野竹松。武藏利兵衛。西○同北側。能勢四郎右衛門。佐藤傳右衛門。柴田左源太。一○以東小菅小右衛門。屋敷地。西○前廓西北廓。水藤九。下山五郎介。日下作十郎。都筑孫左衛門。本多

丹下。近藤勘左衛門。齋藤攝津。南○同中側。稻次郎右衛門。山口出雲。島彌左衛門。南○同東側。町野長門。屋敷地。山崎權八。松瀬勘兵衛。南○島松瀬以北。中東。津田兵右衛門。德山五兵衛。佐藤助右衛門。保田甚兵衛。松掛平右衛門。大久保宮内。○大久保及南側。大河内金兵衛。○前廓西北廓。即吉祥寺。小林權平。松尾コン。細矢一之丞。設樂作左。同○東。屋敷地。○一橋外。西。屋敷地。松平右衛門大夫。小栗忠兵衛。平○西。酒井壹岐。南○前廓西北廓。大岡兵藏。久貝因幡。小笠原源四郎。榊原内記。南○中側。西○前廓西北廓。井上筑後。平貝佐吉。○甚村彦太夫。東○同東側。内匠。天野豊右。齋藤勘右衛門。○前廓西北廓。加藤喜兵衛。杉橋惣兵。稻留玄内。澤與兵衛。大草大覺。西○同北側。大草主膳。桂井孫助。桑田彌助。山方五兵衛。齋藤市郎兵衛。野々山新兵衛。○前廓西北。東。朝比奈市兵衛。伊關伊平。鈴木九藏。關喜兵衛。二○以東。南。安藤九左衛門。佐久間六左衛門。山角藤五郎。日根長五郎。上



杉熊之助。水野出雲。稻富平三郎。○同東側。南ヨリ。内田信濃。内藤仁右衛門。鵜殿新右衛門。大草八右衛門。小栗右衛門。□キ助十郎。松平修理。松平與兵衛。森次兵衛。

○加藤喜兵衛等廓。北、西廓。西側。南ヨリ。松平勘助。永井與次郎。中山主馬。屋敷地。○同東側。

南ヨリ。神尾備前。柴田三左衛門。淺野猪助。屋敷地。○前廓。西側。南ヨリ。酒井作兵衛。堀田兵部。○同東側。南ヨリ。高木三九郎。○西。日下左馬。○東。屋敷地二。

○雄子橋外北へノ通。西側。第一廓。東ヨリ。牧喜左。阿部左門。○前廓。西側。南ヨリ。石丸石見。山本平左衛門。上田兵部。○同西側。南ヨリ。岡坂清兵衛。本田彌十郎。鈴木吉左衛門。磯貝市助。○西。原彌吉。○中。堀田甚介。○東。

○前廓。西側。南ヨリ。山田庄二郎。土屋忠二郎。朝比奈源右。大澤右近。大澤右京。○同西側。南ヨリ。吉村又右衛門。羽山文右衛門。坂部左五右。土屋權十郎。竹村五郎兵衛。屋敷地。

○前廓。西側。南ヨリ。三好備前。小栗忠七。天野彦七。○同中側。東ヨリ。屋敷地。井

羽三左衛門。○同北側。東ヨリ。三好伊之助。赤井兵庫。

○石丸石見等廓。西廓。東側。南ヨリ。水上市左。本田勘左。森彌九郎。神尾長二。トミ久三郎。大久保次右。河原半兵。宇イケ吉左。○同西側。南ヨリ。クボ田藤右衛

杉山十三同心。京彌兵。本ダ伊右。神尾五助。○前廓。西側。南ヨリ。長田十内同心。○同北側。東ヨリ。上村八郎右衛。南藏院。

○前二廓。西側。南ヨリ。堀。筑セ七平。戸田半平。神谷傳右衛。神室。屋敷地二。○同西側。南ヨリ。辰巳金三。富田庄右。辰巳彦介。福地五左。屋敷地三。

○吉祥寺橋内。西廓。東側。南ヨリ。屋敷地。小林七郎左衛門。遠藤善九郎。拓植。○同西側。南ヨリ。屋敷地。諸星清左衛門。下島八兵衛。糸原甚左衛門。

○前廓。西側。南ヨリ。間室左衛門。太田新右衛門。内藤四郎左衛門。織田三五郎。坪井金太。○同西側。南ヨリ。小栗長右衛門。三浦助藏。久貝因幡。青山吉四郎。矢代越中。

○小石川内。東廓。東側。南ヨリ。屋敷地。七左。ヒル長兵衛。吉田五郎兵。小堀加兵衛。

三浦忠太。○同西側。南ヨリ。澤小三。井上次郎左。林。石川兵衛。水野平六。落合久太郎。中山彌兵。

市街恢弘時代



東○前廓南廓。山本藤右。佐々與右。加藤長左衛。飯田庄左衛門。西○同  
南ヨ三橋九三。三橋平七。宗左。西川與左。天野新六。萩原ケン兵。  
水野次郎兵衛。入江傳六。中田七郎兵衛。

○小石川口内南。渡邊五郎。坂田善太。同太郎兵。山中。屋敷地。池田。  
屋敷地。五郎右衛。南○同西側。屋敷地。カ、ヤ傳三。板倉勘七。屋敷地。

井戸太郎八。吉田清六。青□。成□。

東○前廓南廓。小栗平右。島ヤ才二郎。島ヤ組内。同一郎左。サイ合源。  
能勢助七。北○同西側。長田金十郎。神谷四郎。藤堂三左。眞雪善三。

同藤三郎。

口内西廓。松平式部。平○松。御臺所小間遣衆。

南廓。御臺所小間遣衆。

駿河臺及駿河臺下

○筋違橋内西廓。缺略。單。佐原七兵衛。山本。大澤。小川。

○後ノ昌平。屋敷地二。

部。北廓南。東。屋敷地。永井信濃。部。同西川□五兵衛。東○同南。根田九右衛

門。神保彌兵衛。松平三郎兵衛。西助右衛門。富永甚内。

南廓。東側。屋敷地。北○以西二列。美濃部。青木久四郎。青木九郎兵。和

田九助。柘植三之允。東○同南側。木□太郎兵。黒川與兵。杉浦十兵。

石川左太。中山勘兵。

北○前廓南廓。屋敷地。板□平。小島彦二郎。中根喜藏。淺田孫三郎。

東○同南側。屋敷地。小野惣左。屋敷地。角南主馬。根來出雲。

部。北廓南廓西。屋敷地。眞野勘兵衛。大久保彦十郎。東○同南側。屋敷地。

小堀遠江。東○同上。内藤志摩。部。東ヨリ。大久保主膳。津輕土佐。○津

廓。松平下總。

廓。東ヨリ。西。川權十。宮原右京。矢部助之進。

北廓。夏目甚右。

南○前廓北廓。井上二郎右衛門。松平長二郎。長崎彌右衛。東○同北側。一色

伊織。水淵ヌイ。玄徳。

南○前廓北廓。肥田主水。渡邊□介。板倉甚兵。東○同北側。池田吉左衛門。

島四郎左衛門。松田善右衛。



○前廓北廓。柳澤左太郎。須田勘七。水野金十郎。○同北側。捻次郎兵衛。原四郎右衛門。比企次左衛門。西尾與左。比企藤助。

○前廓北廓即御茶水堀端。東ヨリ。美濃部七兵衛。阿部彌三郎。原田百助。石野彌右衛門。

○前二廓西廓。瀧川久助。鈴木長左衛門。同權兵衛。同三四郎。同兵右衛門。同九太夫。山口四郎兵衛。堀田勘左衛門。杉原。宇佐美助右衛門。

石丸權六。山中八藏。山口左平太。○同南側。大久保六右。鈴木友之助。高山主水。三宅杢。服部六。西山太郎兵衛。川勝太郎兵衛。小幡勘左衛門。志村加兵衛。赤井三作。

○前廓東南隅。小倉忠兵衛。村越七郎左。堀田權右。○同南側。石川彌左衛門。フセヤ新助。カメタ。

○前二廓南廓。東條伊兵衛。村越七郎左。堀田權右。○以上三屋敷南北ヨリ。朝比奈義兵。松平但馬。○廓内南側。梶川四郎二。小泉平三郎。富永彌六。松井小兵。前田左馬。橋本太郎左衛門。松平源太郎。神尾七兵衛。大橋小三郎。酒井左京。酒井。屋敷地。新右。佐藤與兵衛。夏目杢左衛門。小栗又兵。河野權右衛門。水野小左衛門。○河野南。小幡源次。○松平源太郎神尾

七兵衛大橋小三郎北東ヨリ。松野藤兵。屋敷地。

○前廓西ヨリ。石丸庄三郎。神保左京。伊東。○以東二列北側。畠山長門。土岐左馬。土岐市正。○同南側。小林彦五郎。内藤主馬。

神田川日本橋川間。○缺略多ク、町名ハ一モ之ヲ記セズ。誓願寺前馬喰町附近、谷藏附近、濱町邊ニ、屋敷及寺院ノ一部ヲ記スノミ。

○筋違橋東ヨリ。柳原并ニ淺草橋東。御數寄屋附御坊主衆。

○誓願寺前ヨリ。馬喰町邊ニ掛ケ記名下ノ如シ。誓願寺。松平伊豆。西尾。松前肥前。一橋下總。立花左近。依田肥前。六郷伊賀。細川玄蕃。菅谷喜八。一橋三四郎。一色宮内。松前志摩。松前民部。村瀬三十郎。細川玄蕃下屋敷。植村長門。織田出雲。村瀬清藏。稻葉十左衛門。清水寺。□學寺。本泉寺。唯念寺。

○谷藏御藏敷。本願寺。宗福寺。長崎源七。

○濱町蠅松平。内藤志摩下屋敷。稻葉美濃下屋敷。水戸中納言殿藏屋敷。秋元但馬下屋敷。井上河内下屋敷。青山大膳中屋敷。土井大炊下屋敷。□藤右京中屋敷。

日本橋川新橋川間。○記名シタル者左ノ如シ。

市街恢弘時代

四〇五



○靈巖 靈巖寺。越前宰相中屋敷。

○木挽 日根織部下屋敷。京極主膳。松平美作。

芝三田方面ル○所略多ク、記名ス

○芝 松平周防。松平肥後下屋敷。奥平。陸奥守下屋敷。保科肥後守。

海岸。松平周防。松平肥後下屋敷。奥平。陸奥守下屋敷。保科肥後守。

錢座。森内記。屋敷。藤式部屋敷。

○御成橋外ヨリ 増上寺ニ至ル。秋月。古田兵部。佐久間。

一柳藏人。上村出羽。百助。八郎。土方奎之助。毛利日向。サヤマ

宇右衛門。戸田市郎右。宮□角右衛門。大澤次左衛門。花房勘右衛

門。

秋田半。有馬。天野對馬。赤井。服部久兵衛。渡部久左衛門。渡邊

内匠。□八郎左衛門。

片桐半之丞。石川壹岐。松平壹岐。

北條久太郎。小口大隅。溝口金十郎。桑山伊兵衛。平野權平。藤堂

主馬。藤堂淺五郎。

京極刑部少輔下屋敷。

堀野式部。修理。

松平陸奥守屋敷。

松平右衛門中屋敷。

○増上寺。御掃除之者。加々爪甲斐。神明。

○金松平右近。寺。寺。山村甚兵衛。森出雲下屋敷。

○増上明地。屋敷。細川三齋下屋敷。

○三松平河内。京極丹後。五島淡路。久留島□後。千日。

應林寺。妙教寺。多門寺。常林寺。仙翁寺。

長源寺。林泉寺。妙法寺。玉法寺。隨法寺。

玉法寺。南泥寺。正藏寺。活經寺。

正仙寺。長勝寺。明地。大心寺。

○虎門外ヨリ。田中。

土方。同權之助。奥田十郎兵。能勢平右衛。

遠山。下坂三十郎。遠山與三郎。小幡源太郎。

□右馬。竹中右京。牧野内匠。



小出。屋敷地。間宮庄五郎。富永正四郎。屋敷地。富永喜左衛門。  
兼松下總。小出甚三。山角二郎兵。山岡傳右衛。戸田半助。伊吹又  
三郎。

多良院。

天德寺。

宮本主膳。牧野右馬。サイライ庄之助。多賀外記。

常照寺。仙石越前下屋敷。瀧又助組。大養寺。八幡。良右衛門。田

中市郎右衛門。一色右馬。

寺。寺。正フク寺。寺。又助組。又助組。又助組。又助組。寺。寺。

溜池端。

飯倉通以赤坂口外青山通以東。六本木  
溜池東。北ヨリ。加藤彌三郎。花房志摩。

溜池南。山口但馬。山口但馬。

溜池東。小出大和。屋敷地。

北ヨリ。前廊南。金森左京。小出大隅。水野日向下屋敷。岡部丹波。岡部美

濃下屋敷。

南。山口。伊藤小右衛門。伊藤小右衛門。

東。前廊南。伊加保内膳。同内記。中六右衛門。北。同。屋敷地。

前。前廊南。秋田隼人。本田主膳。北。同。屋敷地二。

前。前廊南。木下淡路。木下南二行。長谷川五兵衛。伊丹守右衛門。西。同。

北。上前小十郎。寺。寺。北。同。西。玄蕃與力同心。石川主殿下屋敷。

西。同上。二屋敷。加藤勘助同心。山本與九郎同心。

北。前廊南。西。平野清右。北條右。

前。前廊西。今ノ飯倉。田中市郎右衛門同心。彈正下屋敷。

前。鍋島下屋敷。鍋島北。日根七右衛門。松平備前。百姓。

南。溜池端。山口。長泉寺。養永寺。寺。二。真田伊豆下屋敷。養永寺南。伊

東大和下屋敷。上。同。百姓。東。同。中部。黑田万吉。松平右衛門佐下屋

敷。屋敷地。百姓。東。同。西部。土方河内下屋敷。相良壹岐下屋敷。

方。相良土。南部山城下屋敷。



○前廊東廊。田中主殿同心。上同。屋敷地。○同廊東。寺澤兵下屋敷。明地。屋敷地。

○前廊南廊。松平越前守。山岡新八郎。戸澤右京下屋敷。○同上。三内藤西側北ヨリ。同心。明地。内藤石見與力同心。百姓。

帶刀下屋敷。○内藤邸北同心。同心。明地。内藤石見與力同心。百姓。屋敷地。○内藤同心。寺町。松雲寺。百姓。高坂源右衛門。明地。

○相良壹岐龍原寺。下屋敷西。龍原寺。百姓。高坂源右衛門。明地。

○前寺。寺。寺。

○前西。松平安藝屋敷。

○今ノ丹後町。西尾丹後下屋敷。

井上外記同心。

○田中主。田中主殿同心。上同。真田内記下屋敷。

○今ノ檜町。長門守下屋敷。上同。弓氣多源七下屋敷。

○同。西。法安寺。白圓寺。泉福寺。道源寺。寺。寺。

○同。東。西。岡部長四郎下屋敷。岡部庄左衛門下屋敷。

○同。西。尾。丹。淨土寺。上同。大納言殿。伊。下屋敷。

○同。西。尾。丹。淨土寺。上同。大納言殿。伊。下屋敷。

青山通以東麻布邊

○飯倉片町上杉彈正下屋敷。増上寺下屋敷。百姓。百姓。百姓。太田原左兵衛下屋敷。百姓。

○前。百姓。稻葉淡路下屋敷。谷大學地子屋敷。百姓。

○前。大久保加賀下屋敷。土佐地子屋敷。大島茂兵衛地子屋敷。

百姓町。

○前。東。西。北。百姓。寺。彈縁寺。正心寺。光先寺。寺。松平伊賀與力。

○同。南。部。百姓。松平縫殿與力。

○前。西。北。松平縫殿與力。東。同。百姓町。南。同。毛利甲斐守地子屋敷。西。同。上。

織田土佐地子屋敷。百姓。シク離レテ。多賀地子屋敷。レテ。同。上。ヨリ。離。

山崎甲斐地子屋敷。

○山崎地子。淺野内匠下屋敷。

○同。上。南。百姓。百姓。百姓。

○同。上。南。百姓。百姓。百姓。

○同。上。東。御藥種島。

○同。上。東。御藥種島。

○同。上。東。御藥種島。

○同。上。東。御藥種島。

○同。上。東。御藥種島。

○同。上。東。御藥種島。

○同。上。東。御藥種島。

○同。上。東。御藥種島。

○同。上。東。御藥種島。

○同。上。東。御藥種島。



北ヨリ。前廓西。川口長三郎下屋敷。興津内記下屋敷。神明。阿部豊後下屋敷。

北ヨリ。前廓南。阿部豊後。内藤下屋敷。

前廓南。百姓地。

藏。下屋敷。青山通。青山大藏下屋敷。

地ヲ隔テ。高木善次郎下屋敷。上同。渡邊圖書同心。渡邊圖書同心。

北同。上同。圖書同心。同圖書同心。上同。渡邊圖書同心。

路ヲ隔テ。高木善次郎下屋敷。上同。山口但馬下屋敷。

森地子屋敷。堀美作地子屋敷。

續。道ヲ隔テ。高木善次郎下屋敷。上同。山口備前下屋敷。

川久三郎地子屋敷。百姓。

東前廓。澁谷百姓。金森出雲地子屋敷。

益邊。北ヨリ。宮。長谷川久三郎地子屋敷。百姓地。上同。諏訪出雲守地子

屋敷。上同。藤井監物地子屋敷。百姓地。

青山通。相模道。西側。

下。赤坂口外。大納言殿。三枝能登。諏訪勘六。

北前廓。西南廓。百姓。紀伊大納言殿。北同。東南。青山。大内藏下屋敷。玉

窓寺。青山大藏屋敷。南同。青山下屋敷。北廓内。西。森川金下屋敷。大

道寺内藏同心。二ノ丸御番。安藤次右衛門下屋敷。大久保勘三郎同

心。

屋敷。青山下。青山大内藏下屋敷。

南前廓。山岡主計同心。百姓。

西前廓。主計同心。井上太左衛門同心。百姓。

西前廓。井上太左衛門同心。

西同上。大久保勘三與力。杉浦内藏與力。大久保勘右與力。

西同上。杉浦内藏。

同心。山岡主計。原宿。渡邊圖書。

南前廓。渡邊圖書同心。

南西前廓。長谷川久三郎下屋敷。

四谷通。州。南東部。











○前廓西廓。久世三四郎與力。内藤彌三郎下屋敷。久世三四郎與力。  
南部東ヨリ。内藤彌三郎下屋敷。北○同。東長寺。

西廓。内藤彌三郎下屋敷。

寺○東長。久世三四郎與力。牧野内匠同心。

廓○前廓西。牧野内匠同心。久世三四郎與力。牧野内匠同心。

北廓。牧野内匠同心。

○通筋内藤彌三郎。伊澤□屋敷。朝倉石見抱。朝倉筑後守下屋敷。北○同廓。

朝倉石見抱。

敷○朝倉筑後下屋。朝倉筑後下屋敷。北○同廓同上。

下屋敷廓西二廓。城織部下屋敷。廓○同廓北。朝倉筑後下屋敷。織部同。

市谷口外

外市谷口。東雲寺。八幡。大龍寺。宗大寺。寺。寺。法性寺。

東ヨリ。北。萬昌院。長圓寺。安藤彦四郎下屋敷。加藤彦右衛門下屋敷。

服部與十郎下屋敷。東○万昌院北。川□左京。森數馬。末高半左衛門。

新庄左近。柳原傳十郎。明地。

寺○法性。森川金右衛門同心。

北○前廓西南廓。森川金右衛門同心。板倉周防下屋敷。大御番衆。萩原

兵左同心。東ヨリ。南部。百姓。安要寺。百姓。

側○前廓北。矢部助之進同心。大御番。東ヨリ。中側。榊原八兵衛同心。神谷

與七同心。南○同。百姓。

廓○前廓西。松平大隅同心。東○同中部。神谷與七郎同心。酒井壹岐同心。

西廓北。松平大隅同心。南。酒井壹岐同心。

廓○前廓西南。酒井壹岐與力。森川金右衛門與力同心。

北廓南ヨリ。森川金右衛門與力同心。土屋三四郎下屋敷。

廓○前廓西。右衛門同心。加賀大姫君様。松平大隅與力同心。

南○前廓西廓。横田次郎兵衛下屋敷。横田甚右衛門下屋敷。本多美作下

屋敷。今村傳四郎下屋敷。北○同廓東部。百姓地。宅滿寺。法壽寺。正

水寺。長傳寺。蓮泉寺。平安寺。

東○前廓北廓。正雲寺。本正寺。善正寺。心安。西○正雲寺。長正寺。本善

寺。寺。西。本正寺。西。光德寺。



○前廓北。笥助兵衛同心。六錢寺。九王寺。常光寺。

○横田等廓西南。太田備中上屋敷。稻葉權之助抱之内。石川八左衛門下

屋敷。○同南部。筒井左馬下屋敷。百姓。松平越中上屋敷。

牛込口外○江戶  
川西南

○牛込口外南。山田北。小栗理右衛門。○余語金十郎。三浦庄右衛門。

同苗彦太郎。永井清太夫。渡邊九郎右。多門安右衛門。平田清右衛門。

○小栗南。間宮半兵衛。都筑平右衛門。久保田與右衛門。○久保田西  
路ヲ隔テ

八幡。○同上西。蒔田彌右衛門。北村金助。片岡吉右。淺井十左衛門。

○前廓南廓。戸田左内下屋敷。○戸田北側  
西北ヨリ。金田源兵衛。神田三右衛門。

天壽院様衆。布施六右衛門。瀨名八郎右。横山九兵衛。服部三郎左。

○戸田南。高林二郎兵衛。□二郎兵。都筑藤右衛門。横田一郎兵衛。○戸  
田西

○東ヨリ。都筑平七。近藤六右衛門。原田小兵衛。荒川正十郎。竹内平

右衛門。渡邊甚右衛門。

○前廓南廓堀。松平五右。松下彦右。宮木三左。土屋忠兵衛。井戸新右

衛門。松平宇右衛門。筑紫主水。屋敷地。

○前廓西。火之番衆。本多上野後家。屋敷地七。○同廓  
西南。間宮。

○火之番衆等廓。長谷川左馬。中川勘三郎。水野庄介。高田忠右衛門。

忠右衛門同心。

○前廓西北廓。御步行衆。御步行衆。南。筒井内藏同心。○同廓  
南。内藏同心。

○前廓南。御步行衆。御步行衆。南。同御番衆。南廓。矢部七兵衛同心。

○前廓西。町。北。同東側。朝倉八右衛門。岸孫兵衛。御步行衆。屋敷地。

○同廓。七兵衛同心。

○朝倉等廓西北。美濃部文右衛門。明地。法正寺。百姓。○美濃  
部西隣。三光

院。北。西側。龍光院。龍門寺。法善寺。正覺院。

○前廓西廓。正藏寺。千藏院。長田十太夫同心。圓福寺。長福寺。○西  
側

屋敷地。

○前廓西南。御殿主御番。火之番衆。酒井讚岐守下屋敷。○西北隅。東  
側。北ヨリ

小川新九同心。屋敷地。中山勘解由元與力。御旗衆。○同西側。百姓  
北ヨリ

岡部小右同心。同。○西部  
中央。齋藤佐渡同心。○西南部  
北ヨリ。法性寺。伊丹順

齋下屋敷。梶與右衛門同心。太田藤左衛門下屋敷。



○酒井。天龍寺。北同上。東。大道寺内藏與力。布施彌兵衛與力。廊同南。

大道寺内藏與力。布施彌兵衛與力。

○天龍寺。南。杉浦内藏。内藏同心。田村助太郎同心。南同廊。大道寺内藏

同心。

○同廊。大姫君様。内藏同心。

○伊丹順齋下屋。佛性院。寺。九條寺。寺。正王寺。多門院。岡部戶

右衛門同心。北同廊。百姓。西同上。松平新五左同心。百姓。西同上。同新

五左同心。南同上。松平新五左衛門下屋敷。大御番衆。

○大番衆。森川金右衛門下屋敷。隔テ西地。龍慶分。

○同。上。南。龍慶寺。齋藤佐渡下屋敷。齋藤下屋敷。水野甲斐守下屋敷。

○前廊。西。夏目太左衛門同心。同屋敷。同同心。

○前廊。久世三四郎與力同心。北同廊。屋敷地。

○夏目等廊。百姓。中根喜藏同心。中根喜藏下屋敷。上同。北。同上。

○牛込口外北。前田五左。佐原八右。山鎮五郎兵。南同。中。側。岩淵喜三。

近藤右衛。南同。西。側。廻七郎兵衛。伊田五兵。

○前廊。北。御步行目付衆。猪又半六。五島清右。赤井七郎兵。西同。

南。原田東右衛。木村彦八。曲淵十左衛門。

○前廊。北。西。皆川市正。明地。森川庄右。

○牛込口外北。廊。西。森川小兵。秋山源右。永井仁右。南同。中。側。大岡善

右衛門。向井權平。南同。西。側。松平二郎右衛門。川合大藏。

○前廊。北。廊。横山小右。加藤八左。南同。中。側。竹田又左。經小右。南同。西。側。

山田甚平。中山内右。

○前廊。東。神田孫兵衛。西同。百姓。

○前二廊。北。廊。東。屋敷地。鈴木五兵。佐久間五郎兵。列同。上。第二。美濃

部三郎左衛。大野六右。列同。第三。龍慶。小佐々佐介。列同。第四。明神。

○津久土。八幡。

○前廊。勝力。屋敷地二。

○前廊。百姓。北同。上。明地二。

○此等ノ北東即チ江戸川沿岸ニ數個ノ市街廊有リ。

○牛込口外西。第三。水戸惣八。酒井江藏。東同。南。側。小野内藏。森川久



左衛門。○同廓行願寺。

○前廓北廓。岩間勘兵衛。布施藤七。森川助右衛門。寺。寺。北○同廓

酒井下總守下屋敷。

○前々廓西廓。藥師寺。寺。○同。法前寺。南○同西側。正源寺。酒井壹岐

屋敷。○正源屋敷地。

東○前廓北廓。寺。天蘇寺。南○南側。○赤城。明神。屋敷地。

南○前廓。水野備後同心。西○同上。同上。渡部彌之助同心。西廓。同上。

百姓。○水野備後。永見新右同心。南○同上。同上。西廓。同上。渡邊彌之助同

心。○永見新右。永見新右同心。北○同上。百姓。西○同上。永見新右同心。同

上西。渡邊彌之助同心。百姓。

○前廓西南。小川新九郎同心。百姓。百姓。

北○前廓西南廓。○高田。天神。別當。百姓。小川新九郎同心。東○同廓。小川新九

郎同心。西○同廓。龍慶。

小石川大塚方面

川○小石。水戸中納言殿。戸○水。酒井日向守。東○酒井水戸。山口勘兵衛。本

多淡路。本多大膳。堀越中。稻葉一五郎。阿部市正。戸○水。小關櫻

井與力。倉橋庄兵衛與力。戸○水。新鷹匠町。

町○新鷹匠。新鷹匠町。町○同上。南廓。南。又三郎。町○新鷹匠。龍慶町。町。中根

大隅元組。

○水戸殿廓北。本田内記。小笠原信濃。稻富喜太夫。北○同廓。小笠原右近

下屋敷。

南○前廓西廓。稻富喜太夫同心。田中一郎右。東○同北側。小關六兵衛。櫻

井又七。廓○同廓西。櫻井八右衛門。

東○前廓西廓。豐田平兵衛與力。松平豐前下屋敷。織田九助與力。西○同廓

傳通院。院○傳通。小野久助同心。

廓○傳通院廓南廓ニ、内東。美作。西光寺。水野備後下屋敷。西廓。同上。戸田

久助與力。廓○同上。大泉寺。屋敷地。廓○同上。戸田久助同心。北○同上。廓

リ。御鷹師。戸田久助。百姓。長坂血鏡

北○前諸廓西廓。百姓。長坂血鏡同心。百姓。河野權右衛門同心。大○同南

リ。金剛寺。本多飛驒。多○本。金界寺。百姓。



○前廊北廊。百姓。長坂血鏝九同心。河野權右衛門同心。東○北側。百姓。南側。東ヨリ。御鷹匠衆南。加藤平助與力北。土屋民部下屋敷。加藤助左同心。藤○同加

心。西加藤助左同心。西廊。同上。同上。

北○前廊。間宮左衛門與力。加藤助左衛門同心。廊。同廊北。間宮左衛門與力。

御鷹匠衆。東○同北側。百姓。寺。百姓。廊。同廊。善仁寺。

○金剛寺等廊。河野四郎兵衛與力同心。側。同。上。西。南。明地。正明寺。根來

出雲。日輪寺。○河野與力。秋山十右衛門下屋敷。屋敷地。部。廊。内。中。西

明地。井上筑後下屋敷。百姓。大河内善兵衛同心。百姓。南○同廊北。部。東。ヨリ。

阿部四郎兵衛同心。河野權右衛門同心。金剛寺。側。同。北。部。中。本。多。飛。驒。

比企次右衛與力。東○同北側。河野權右衛。屋敷地。

○前廊。西屋敷地。矢部新右衛門。南○同西側。百姓。長谷川庄右衛。小遣

百姓。屋敷地。

南○前廊。東北廊。屋敷地。百姓。小林權平。吉田太郎左。小林又七。久林。

東○同北側。神田孫兵同心。戸田平六。百姓。

南○前廊。東北廊。阿部權右衛。逸見四郎左衛門與力。東○同北側。加藤平助

與力。御鷹匠。小栗長右衛門。伊藤彦右。

廊。東。南。隅。間宮左衛門與力。中。同。百。姓。南。隅。西。御鷹匠衆。衆。御鷹匠。小濱

六兵同心。櫻井茂左衛門。南○廊。匠。衆。遠藤角左衛門。

寺。日輪。根來出雲與力。西○同。上。百。姓。北○同。上。西。百。姓。西。南。廊。久根

七左衛。同仁左衛。百姓。北○同。上。鈴木喜右衛。竹谷四郎右衛。

廊。東。隅。西。ヨリ。百姓。中田甚右衛門。神谷又助。東○常光院。西○百姓。

上○同。御鷹匠。上。西。百姓。部。北。安藤右京下屋敷。南○安藤。内藤外記下屋敷。

○前廊。東。中央。入。石川三右衛門。中川百助下屋敷。同市郎右衛門下屋

敷。後藤助右衛門下屋敷。

東○安藤。郎。北。小林權平。百姓。阿部茂兵衛。齋藤三左衛門。落合源右

衛門。水野孫七野屋敷。野間市野屋敷。阿部四郎兵衛下屋敷。久貝

因幡下屋敷。三橋但馬野屋敷。田○廊。内。北。部。富。士。

廊。内。西。大岡源右衛門下屋敷。

○内藤外記下屋敷。南。田。地。百。姓。國。寺。前。方。同。上。南。太田新右衛門下屋敷。

百姓。



○前廓 御藥種畑。○今ノ護

○西北廓 神尾宮内下屋敷。○北西山清右衛門。大岡源左衛門組。○西

○前廓西 藥園。○妙法寺。○南西。○妙法寺。離司ケ谷

百姓地。○妙法寺。安藤右京下屋敷。○以上。小

○小石川北廓。淨光院地。○同上北。淨光院。○同。百姓。○淨光院。松平右

衛門大夫下屋敷。○淨光院。百姓。蓮花寺。

○前二廓西 百姓地。喜多見久太夫下屋敷。○同上。百姓。○以上二廓。後

○同二廓ノ西二廓。南 百姓地。○同上。廓 小石川百姓地。○更ニ西方。板橋。

○蓮花寺 土井大炊下屋敷。○同上。山口出雲地子屋敷。石丸庄三郎地

子屋敷。神保左京地子屋敷。

湯島本郷駒込方面。

○吉祥寺。○同上東。大岡源右衛門。大岡源右衛門。○吉祥寺。小笠原

壹岐下屋敷。○同上北。山田佐左衛門與力。

○前廓西。南廓。無量院。阿部四郎五郎。○同上。阿部四郎五郎同心。○同廓

○今ノ春日町。春日下屋敷。○同上北。井戸新右衛門同心。井戸新右衛門同心。○同廓

郎左衛門同心。○廓内北。左衛門。阿部四郎五郎與力。明正寺。寺。

○前廓北東。二 布施彌兵衛同心。屋敷地。○同上西。井戸新右衛門同心。

○前廓西。井戸新右衛門同心。○西。井戸新右衛門同心。同上。

○前廓北。井戸新右衛門同心。○西。井戸新右衛門同心。同上。

○前廓南。井戸新右衛門同心。○西。井戸新右衛門同心。同上。

○小笠原右。天壽院様衆。○同上西北廓。神谷又五郎。大泉寺。屋敷地二。

○同西側。御臺御所衆。正福寺。

○吉祥寺等廓。屋敷地。○同上。大岡源右衛門與力。同上。

○前廓東。北三 小笠原小右衛門與力。○小笠原。小笠原小右衛門與力。○同上

○西二。牧野金助與力。○一。以東以北。略唯。下。與力。八左衛門。

○小笠原小右衛門。小笠原小右衛門同心二。圓通寺。牧野金助與力。○以上各

光高。林寺。小草小右衛門同心三。柰同心二。○同廓。牧野。○同廓。木

原柰同心。

○光林寺等廓。東。木原柰同心。壽。永林。林齋。喜庵。小右衛門。大岡。

三村。○同北側。寺權。喜兵衛。又左衛門。山本九郎。山田五兵。







西○前廊北。山藤北右衛門同心。南○同東側。大久保主膳下屋敷。百姓。

北○前廊屋敷地。堀千助上り屋敷。北○同廊屋敷地。

○以上四廊。西○即岩。山藤北右衛門同心。上○同。鳥田幽也下屋敷。屋敷北。二

海藏寺。上○同。百姓。添○西部中山道。土井大炊下屋敷。西北○同。内藤仁兵衛下

屋敷。上○同。苗木畑。西○。大久保藤太郎下屋敷。東○。

西○前廊。駒込百姓地。東○同。上。平塚御殿。

下谷上野谷中方面

平橋外。東廊。西○。昌寺。寺。本法寺。正心寺。寺。○以東

西○前廊北廊。屋敷地。菅民部。渡邊左衛門。千本又七。福原淡路。岡

本宮内。南○同。東側。屋敷地。鳥田幽也。七郎五郎。

東○前廊門跡。願寺。東本。橋外等。省略。

橋外。左右。和泉町。三廊。西○。京極飛驒。越前下屋敷。三廊。西○。屋敷地。

京極刑部。出羽。中根壹岐下屋敷。三廊。東。屋敷地。四廊。東。南側。

西○藤堂大學下屋敷。宗對馬。北○同。御步行。行。北廊。御步行。東○同。御步行衆。

第四廊。西側。南○。屋敷地。池田内藏助。立花龍齋。東○同。御步行衆。

五○同上。東。御步行衆。御步行衆。東廊。上。生駒壹岐守屋敷。廊。北廊。皆川

山城與力。南○生駒廊東。瀧川長門下屋敷。御步行横目付衆。北廊。南○。

屋敷地。御錢藏番。

第五廊。南側。西○。石川主殿。屋敷地。西○。平介又右衛門。井戸忠

右衛門。井庄三郎。屋敷地。廊。西○。御步行衆。○中央。側。東。御步

行衆。東廊。屋敷地。

廊。北廊。西○。隨院。東。南。屋敷地。部。西○。屋敷地。大僧正町。

東廊。上。大僧正町。廊。○。東。廊。共。御步行衆。廊。東。南。廊。牧野内藏與

力同心。北○。上。野。三。枚。橋。屋敷地。御步行衆。廊。東。廊。上。廊。屋敷地。

西○。同。北。部。御步行衆。酒井紀伊與力同心。廊。東。廊。上。廊。立花龍齋。

○。三。枚。橋。東。側。北。屋敷地。御步行衆。廊。東。廊。上。廊。屋敷地。

○。三。枚。橋。西。側。北。屋敷地。御步行。北。寺。南。廊。東。廊。上。廊。御步行

衆。東。廊。上。廊。御步行衆。西。同。火之番。東。同。池田帶刀與力同心。廊。東。廊。上

廊。即。立。花。邸。北。稻垣若狹與力同心。火之番。北。塚越右衛門。南。廊。東。廊。上。火



之番衆。塚越右衛門。○稻垣等御步行衆。御步行衆。○同上廊東御步行衆。火之番衆。

○三枚橋東側北。大僧正町。屋敷地。○同上廊東廊。御步行衆。御步行衆。○第四廊西ヨリ。大僧正町。屋敷地。南側西ヨリ。御步行衆。御步行衆。

○同。近藤登之助與力。○同上廊東。内藤外記與力。光德寺。大宗寺。○北側。田。○北。

○三枚橋東側。大僧正町。高與力。○同上。寺。田。○同上廊東。近藤縫殿

下屋敷。宗真寺。○同上。寺。田。○同上廊東。近藤縫殿

○三枚橋東側北。依田力藏。依田肥前。金田宗八郎同心。○同上。金田

第六廊西側南ヨリ。依田力藏。依田肥前。金田宗八郎同心。○同上。金田

惣。○同上廊。百姓。外山。○中。田。○東。牛窪權右衛門組。○同上廊北

久松彦左衛門。牛窪權右衛門。○同上。二牛窪權右衛門組。○同上廊北

○三枚橋東側北。大僧正。勝之助五平次同心。○同上。大僧正。○同上

第七廊西ヨリ。大僧正。美濃部内記同心。○同上。大龍寺。○同上

敷。○水谷北。日。ドウケン塚。○美濃部内記。金杉町。○同上。坂本百姓地。

○東叡山東照社五重。大僧正町。○同上。坂本百姓地。○同上。坂本百姓地。

塔ヲ圖シ、東西山下ニ、大僧正町。○同上。坂本百姓地。○同上。坂本百姓地。

北。同。永井信濃下屋敷。感應寺。○同上。坂本百姓地。○同上。坂本百姓地。

○東叡山。西石丸掃部。○同上。松平□屋敷。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

○前廊西。善光寺。玉林寺。百姓地。三浦龜之助。○同上。法恩寺。

淺草方面

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。

○淺草橋外。町。○同。東米津内藏助下屋敷。本多内記下屋敷。



伴九郎右衛門同心二。

南側。東ヨリ。○前廓北廓。曉國寺。木僧寺。初學寺。西光寺。西安寺。□正寺。□

正寺。宗源寺。寺北。宗源法雲寺。上北。西蓮寺。東北。廓内三十三間堂。

○淺草米。廩北。河岸。御馬屋。

東部。北ヨリ。○前廓西廓。本田丈千。□壽院。○中堀田加賀下屋敷。部。南ヨリ。法念

寺。東谷寺。屋敷地。寺。寺。東。南ヨリ。寺。金龍山。桃辨寺。

東北。前廓。觀音<sup>マ</sup>協堂。○同上。廓西廓。不<sup>□</sup>。伊元<sup>□</sup>。

○淺草。淺草寺。延命院。廓<sup>○寺東三</sup>。○此他

西廓。南ヨリ。内。卜齋。石川主殿。廓<sup>○同上</sup>。内。前。高力左京。稻垣若狹。市橋

三四郎。前廓。東。南。小出對馬。北廓。南ヨリ。市橋三四郎。市橋下總。此

等。北。日本堤。○千住通

以テ當年ニ於ケル邸宅寺社ノ布置地域ノ安配都市計畫ノ方針等ヲ推ス可カラズヤ。

五年戊子安元正保〇〇二月二十五日改元。慶閏正月廿日丙戌正〇丙戌。三世子家綱德

牛込遊樂所營造

川ノ遊樂所ヲ牛込市内ニ營造ス。三月十三日戊寅〇〇三慶安元年。紀元二

覽。成り、奉行八木守直十〇勘牧野成常部。織以下賞賜セラル。〇日記。

牛込遊樂所營造事蹟

牛込遊樂所營造 傳フル所左ノ如シ。

閏正月廿日〇正保

一、大納言様御慰所トシテ於牛込酒井下總守元下屋敷之地也。新造之御殿被仰付之。御奉行八木勘十郎直。〇守牧野織部常。〇成被仰付之旨、老中傳之。

閏正月廿九日〇正保

一、大納言様御下屋敷爲見分、酒井讚岐守勝。〇忠松平伊豆守綱。〇信阿部豊後守秋。〇忠阿部對馬守次。〇重相越云々、右之所ヲ筑〇下。

慶安錄

三月十三日〇慶安

一、牛込新御殿出來ニ付、自大納言様八木勘十郎牧野織部部金貳枚時服等被下之、次木原奎允鈴木修理亮部銀十枚ツ、被下之、且又御大工三人部銀五枚ツ、被下之。

日記

二十日〇慶安元大納言殿〇德川御遊樂所ヲ牛込築土明神邊部ニ設らる。この

市街恢弘時代

四三七



地はもと酒井下總守忠正か別業なりとぞ。その營造の奉行を八木勘十郎守直、牧野織部成常に仰付らる。

廿九日○慶安元年閏正月。大納言殿御離館の地を、酒井讚岐守忠勝、松平伊豆守信綱、阿部豊後守忠秋、阿部對馬守重次巡察す。

十二日○慶安元年三月○中略。牛込の離館成功せしかば、大納言殿より作事奉行八木勘

十郎守直使番、牧野織部成常へ金時服たまはり、大工頭はじめ、工人へも銀を下さる。  
——大猷院殿御實紀

上文寛永十六年條記ス所ノ牛込殿即チ此ノ離館ニ非サル歟。

〔參考〕世子牛込離館遊樂

二月廿六日。○慶安元年。

一、大納言○德川家綱様御下屋敷に明日御成ニ付、於彼地、從公方○德川家光様御振舞有之。松平伊豆守○信綱御馳走之役被仰付云々。

二月廿八日。○慶安元年。

一、午后刻新御殿に大納言様御成。

廿八日○慶安元年二月。大納言殿はじめて牛込離館にわたらせ給ふ。松平和泉守

——慶安錄

乘壽酒井豊後守忠能、増山彈正忠正利をはじめ、御方附の人々皆供奉し、酒井讚岐守忠勝、酒井河内守忠清、堀田加賀守正盛、阿部豊後守忠秋、松平式部大輔忠次等、御跡よりまいり、井伊掃部頭直孝もまかる。松平伊豆守信綱、今日御饗の事つかふまつり、時服六給はり、御所○德川家光より屏風臺子等進らせられ、徳松○德川綱吉、鶴松○德川綱吉、長松君○德川綱重、尾紀水三卿○德川義直、徳川頼宣、徳川頼房、並に供奉の老臣迄もみなもの奉る。よて諸大名登營し賀し奉る。

——大猷院殿御實紀

附記

〔附記〕 賜宅

閏正月廿八日。○慶安元年。

一、御具足師岩井與左衛門、於通町長谷川勘左衛門上屋敷被下之旨。

——日記

増山正利屋

二月十二日丁未○正保五年(紀元二三〇八年)○丁未三正綜覽。西丸奏者番増山正利○彈正代官

町春日局元屋鋪○市内三軒區ヲ賜フ。○日記。慶安錄。寛政呈請。

僧山正利屋

増山正利屋鋪 増山正利ハ、世子家綱○徳ノ生母増山氏也樂ノ方○寶樹院ノ弟也。

市街恢弘時代

四三九



二月十二日元〇慶安

一、春日之局代官町之元屋敷増山彈正利〇正ニ被下之。

二月十二日元〇慶安

一、春日之局代官町元屋敷増山彈正利〇正被下之旨、對馬守〇阿部傳之。

——慶安錄

利澄〇從五位下。朝散大夫。彈正少弼。初名五郎八。後辨之助。

寬永二十年癸未八月三日初、御目見。其節酒井讚岐守忠勝、松平右衛門大

夫〇正取持。以上意増山辨之助ト改。因藤原姓代々襲用之。右以前成瀬隼

人正舊宅寶樹院殿〇増山氏御用屋敷被下置住居〇中慶安元年戊子春日局舊

宅被下置。

——寛政呈譜

道路下水補修

慶安元年戊子三〇紀元二〇八年二月廿一日丙辰正〇丙辰三江戸町奉行市民ニ

令シテ道路下水ヲ補修セシム。〇正寶事錄。撰要永久錄。大成令。

道路下水補修事蹟

道路下水補修 左ノ如ク傳フ、

御請負申事

一、町中海道惡敷所へ、淺草砂ニ海砂交、壹町之内高低なき程ニ中高ニ築き可申事。並ニこみどろよて海道築申間敷事。

一、下水並ニ表のみぞ、滯ふき様ニ所々よるごみをさふ以上可申。下水へこみあくた少も入申間敷。若芥あくた入ハ、可爲曲事。

右之趣相心得申。間、少も違背申間敷。爲後日仍如件。

正保五年子二月廿一日

月行事持判形

御奉行所

——正寶事錄〇撰要永久錄。大成令。同。

〔參考〕撰要永久錄ニ、

覺

一、當二月十五日五〇正保慶安元年ニ改元ニハ、間、右之通町中可被相觸ハ已上。

子〇慶安元。二月廿六日

〔附記〕風俗ニ關スル禁令

御請負申事

一、町人長刀並大脇差を指、奉公人之眞似を仕、かふきたる體をいたし、かさ

市街恢弘時代

四四一

附記  
風俗ニ關  
スル禁令



竹成義不作法成者有之ニ付ては、御目付衆御廻り、見合次第御捕、曲事に可  
被仰付し間、向後奉公人之まねを仕、刀を指申間敷し由、相心得申、以來万事  
慮外不作法成義不仕様に、其心得可仕事。

右之表此以前、被仰付し間、町中連判差上申し、彌店借借屋之者召仕之者ニ  
被仰聞し趣、町中入念可申付し、爲後日仍如件。

正保五年子二月

町中連判

御奉行所

撰要永久錄

廿八日癸亥

○慶安元年(紀元二三八)年二月○癸亥、三正綜覽。

江戸市中取締令ヲ布ク。

○正寶事錄。撰要永久錄。

市中取締令  
事蹟

市中取締令

正寶事錄

○撰要永久錄同。

覺

- 一、相撲取の下帶、絹布ニ有仕間敷し、屋敷方へ被呼し、共、布木綿之下帶可仕事。
- 一、勸進相撲とせ申間敷事。
- 一、辻ニ有鞠けさせ申間敷事。
- 一、方々辻と橋際ニ有、かけ寶引仕間敷事。
- 一、前々より被仰付し博奕寶引多ん祝んし、あるた何ニ有も諸勝負仕間敷事。

- 一、町中之平棚、早と取可申事。
- 一、町中河岸端とよて的いさせ申間敷事。
- 一、河岸端作置し小屋雪隠、早々こわし取可申事。残置し者有之者、代物壹貫文可爲過料事。

附、孫庇之分、取可申事。

- 一、河岸端積置し薪、壹間より高積申間敷し。壹間より高積申しハ、壹貫文可爲過料事。

- 一、馬方馬立置し事、海道を明片付し、立可申し。
- 附、駄賃馬裝束、色々之物を付さし、結構ニ仕間敷し事。
- 一、吉原町之外、けいせいで抱女之類抱置申間敷し。勿論一時之宿も仕間敷事。
- 一、町中ニ有いた女、壺人も置申間敷事。
- 一、橋々之上、諸商人乞食置申間敷事。
- 一、諸商人奉公人へ對し、商之儀ニ有慮外仕間敷事。
- 並、商物下直ニ付しとて惡口申間敷事。
- 一、振賣札なし之者、跡々申付しこと、當人を三日晒、其上三十日之籠舍もい



たし、町之者可仕事。

附、家主老三貫文之過料、五人組老壹人ニ付壹貫文之可爲過料事。

一、諸色を伴し金物之類、并ニ胡散なる道具買申間敷。橋詰辻々へ罷出買。事、堅停止之事。

一、町人祝言其外振廻之時、乞食共更ニ何角申。ハ、打擲致し、其の上御番所へ可申上事。

一、盃之臺ニ糸ニる作花硝子粉色結構ニ仕儀、諸侍衆より被誂。共仕間敷。并ニ折ニ金銀之箔置申間敷事。

一、町人蒔繪之乗鞍、并ニ糸鞆を懸乘。事、可爲無用事。

一、町中ニ居。牢人吟味致、むさと仕。る牢人ニ宿かし申間敷事。

一、籤之事、天井ふし捧を突さしに致、如何に。衆相ニ可仕事。

一、町中に。をさう。請取渡仕間敷事。

一、町中水打。時、往還之者ニ水を懸申間敷事。子元慶安二月。

右ハ、二月廿八日。元慶安御觸。町中連判。

〔附記〕

賜宅

附宅記

三月朔日。元慶安

一、向井右衛門太郎。月十一日。正保四年。上屋敷、牧野内匠頭。信成。被下之。

一、大草主膳。盛。高。上屋敷、中根二郎左衛門。寄。正。拜領之。慶安錄

一、朔日。元慶安

今日、牧野内匠頭。信成。屋布被召上、江戸橋近所向井將監屋敷ヲ被下。

一、廿八日。元慶安

一、今日、牧野内匠頭八町堀ノ屋敷へ移ル。天享吾妻鑑

内、向井邸ハ、往古、江戸繪圖今ノ海運橋外ニ、向井將監。忠。ト有ル者ヲ云フ。閣

本、江戸繪圖、牧野佐渡。親。ト記ス。佐渡守親成ハ、内匠頭信成ノ子、信成慶安三

年四月十一日ヲ以テ卒ス。

三月二日丁卯。元慶安元年。紀元二三〇。山形。羽。國。城主松平直基。和。守。大。野

前。守。越。城主松平直良。馬。守。但。寄合酒井忠正。總。守。下。屋鋪ヲ賜フ。天。享。吾。妻。鑑。寬。

政。呈

松平直基等賜邸 左ノ如シ。

市街恢弘時代

松平直基等

賜邸事蹟



三月二日○慶安元年

一、寺澤兵庫頭○堅高。正保四年十月十八日自殺。上屋敷

松平大和守○直基。

一、松平大和守○直基。元屋敷

松平但馬守○直良。

一、倉橋庄兵衛上屋敷

酒井下總守○忠正。

右之通、屋敷被下之。

——日記○慶安同。

一、二日○慶安元年三月。寺澤志摩高○廣屋鋪ヲ松平但馬守○直良。ニ、但馬守屋鋪ヲ松平大

——天享吾妻鑑

和守○直基。ニ被下。

直基○松平。從四位下。侍從。大和守。

同保○正五戊子年二月日限不詳。於江府御成橋御門内、屋鋪被下置ハ。

——寛政呈譜

寺澤堅高邸ハ御成橋内ニ、寺澤兵庫下有ル者是也。承應江戸圖、松平大和○直下記ス。天享吾妻鑑之ヲ松平直良ニ賜フト爲ス。今從ハズ。

〔附記〕 宅地給與

三月十一日○慶安元年。

一、長坂丹波守○信次。正保三年九月殺サル。元屋敷安倍左衛門二郎○政繼。綾部太左衛門元

附記  
宅地給與

屋敷天野左兵衛○康勝。井上外記○正繼。正保三年九月殺サル。元屋敷遠山十右衛門○景被下之。十右衛門元屋敷三宅傳左衛門○重正。拜領之。

右之趣於御右筆部屋縁頰、阿部豊後守○忠秋。傳之。——慶安錄

一、九日○慶安元年三月。屋敷被下面々、

井上外記屋布ヲ 遠山十右衛門へ。

遠山十右衛門屋布ヲ 三宅傳右衛門へ。

長坂丹波守○初ハ、茶利。屋布ヲ 阿部左衛門次郎へ。

服部新左衛門屋敷 天野左兵衛へ。

——天享吾妻鑑

十九日甲甲○慶安元年紀元二三年三月。○甲申、三正綜覽。府内ニ令シテ、下水ヲ通疏セシム。

永○撰久○要錄。

下水通疏 左ノ町觸有リ。

覺

一、度々被仰付ハ表浦之下水、當月廿五日を切、水無滯さらへ可ハ申ハ。但其町之

市街恢弘時代

下水通疏  
蹟



下角下水にくい打ちりよめ致、一ヶ月に十日廿日晦日三度つゝ、かたかわの町人之者人足を出し、角のちりためさらへ可申し。角屋敷之者も、右之日限町中の人を廻しさらへさせ可申し。たゞいに致油斷さらへ不申しは、可被申來し。

廿五日ハ兩御奉行所より御同心衆御出しし間、油斷有間敷し。  
——撰要永久錄

廿四日己丑○慶安元年(紀元二三〇八年)三月〇己丑、三、正綜覽。老中阿部忠秋○豐後守大目付宮城和甫

○越中守。及目付、江戸府内ヲ巡察ス。○日記。

老中府内巡察  
老中府内巡察事蹟

三月廿四日○慶安元年。

一、江戸惣廻り爲見分、阿部豊後守○忠秋、宮城越中守○和甫、御目付中相越之。

——日記

廿四日三月○慶安元年中略。此日阿部豊後守忠秋、大目付宮城越前守和甫并に目付の輩府内を巡視す。  
——大猷院殿御實紀

留守警備及市人心得

四月十三日戊申○慶安元年(紀元二三〇八年)三月〇戊申、三、正綜覽。將軍家光○徳川日光○野國下參詣ノ途

ニ上ル○殿御實紀。是ヨリ先九日甲辰○慶安元年(紀元二三〇八年)四月〇甲辰、三、正綜覽。十日乙巳○慶安元年(紀元二三〇八年)四月〇乙巳、三、正綜覽。

大赦

廿六日辛酉○慶安元年(紀元二三〇八年)四月〇辛酉、三、正綜覽。大赦ス。○殿御實紀。

留守警備及市人心得事蹟

留守警備及市人心得 慶安元年四月十七日ハ、徳川家康ノ三十三回忌也。將軍家日光東照社ニ詣スル爲メ、四月九日十日留守ノ警備ヲ定メ、兼テ市人ノ心得ヲ令ス。

四月九日○慶安元年。

一、今度日光御參詣御留守中御用被仰付面々、伊豆守○松平信綱、豊後守○阿部傳上意之趣。所謂、

松平万千代。上杉喜平次。松平下總守○弘。酒井攝津守○嵩。

右四人ハ、江戸中火事等之節、若人數入以節之、豊後守差圖次第、火消之人可出之旨也。

金森出雲守○重頼。加藤内藏助○明友。片桐石見守○貞昌。

市街恢弘時代

四四九



右三人之増上寺近所火事等有之時之、三人共見廻彼御寺、可申由也。

松平淡路守利次。前田 遠藤備前守友。常

右兩人之、上野近邊火事等之節之、可致順見之旨也。

菅谷喜八郎重。範 一色宮内氏直

右兩人之、日光御門跡毗沙門堂門跡日光登山之間、彼寺ニ番之者差置、夜々之  
兩人之内替々致勤番、萬事用心以下可申付之旨也。

酒井下總守正。忠

右之、大納言様牛込御慰所御番也。

堀田權右衛門純。一

右之、王子御殿御番也。

横山 内記清。知

右之、品川御殿御番也。

内藤外記重。正 高木筑後守次。正 伊丹順齋勝。康

右三人之、天樹院御方青苔院御方千代姫君御方之近所火事等出來時之、可見  
廻之旨也。

四月十日元慶安

一、今度日光御參詣御留守中、外曲輪御門番其外御番等被仰付面々之、奉書并  
役積、以書付被相觸之。所謂、

御成橋御門番

馬上四人替共  
徒侍六人同斷  
足輕十人同斷  
鎧五本

織田源十郎一。秀

窪町口御門

同斷

黒田官兵衛勝。之

筋違橋御門番

同斷

佐久間權佐豐。勝

淺草口御門番

同斷

細川豊前守隆。興

山下町御門番

同斷

平岡石見守資。頼

赤坂口御門番

馬上二人替共  
徒侍六人同斷  
足輕六人同斷  
鎧五本

井上 頼母尾。庸

尾張殿前土橋御番

同斷

三枝内匠頭全。守

四屋口御門番

同斷

戸田藤五郎種。重

市谷口御門番

同斷

水野半左衛門政。守

牛込口御門番

同斷

神保 左京明。茂

小石川御門番

同斷

蒔田久太郎行。定

和泉橋

同斷

遠山半九郎次。伊



吉祥寺前之橋

京橋通三ヶ所

馬<sup>上</sup>四人充替共  
徒<sup>侍</sup>六人充同斷  
足<sup>輕</sup>十人充同斷  
鑓<sup>五</sup>本充

四五二

渡邊久左衛門善<sup>〇</sup>  
古田兵部少<sup>〇</sup>重<sup>經</sup>

四月十一日<sup>〇慶安元年</sup>

一、今度日光御留守中所々御番被<sup>レ</sup>仰付面々各御前に被<sup>レ</sup>召出之所謂、

松平式部大輔<sup>紀年録、本城御留守</sup> 同、江戸御留守勤阿部豊後守 小笠原右近大夫 同、大手 水野美作守 同、大手 戸田

左門 同、下乘 水野出羽守 戸田主膳正 松平太郎八 三宅大膳 松平遠江守

本多淡路守 松平美作守 井上河内守 小笠原主膳 鳥居主膳 阿部

市正 酒井日向守 松平豊前守 齋藤頼母 牧野内膳 立花民部 大

關右衛門 前田右近 九鬼大和守 毛利市三郎 堀大學 佐久間權佐

黒田官兵衛 井上頼母 三枝内匠 戸田藤五郎 水野半左衛門 神保

左京 蒔田久太郎 細川豊前守 平岡石見守 青山半九郎 渡邊久右

衛門 堀田權左衛門 一色宮内 菅谷喜八郎 酒井下總守 横山内記

内藤外記 高木筑後 水野甲斐守 高木甚左衛門 山口勘兵衛 向井

兵部 小笠原安藝守 小濱半左衛門 小濱彌十郎 間宮虎之助 土屋

忠兵衛 天野弦左衛門 細井金兵衛 松平淡路守 遠藤備前守 金森

出雲 加藤内藏助 片桐石見守 土屋民部 森川半彌 年、西丸 松平丹波守

松平周防守 西尾丹後守 西郷孫六郎 松平下總守 酒井攝津守 保

科肥後守

火消之役人

仙石越前守 加藤出羽守 溝口出雲守 土方河内守 相馬大膳 淺野

内匠 稻葉能登守 一柳監物 九鬼式部少

日記<sup>〇慶安</sup>  
録<sup>同</sup>

一、今度就御參宮ニ御上下之間、直目安差上申儀、堅無用可仕<sup>レ</sup>。自然御訴訟仕族有之<sup>レ</sup>、還御以後、於<sup>レ</sup>江戸御評定所へ罷出、御訴訟可<sup>レ</sup>申<sup>レ</sup>事。

一、火之用心の事、無<sup>レ</sup>油斷可<sup>レ</sup>仕<sup>レ</sup>。若<sup>レ</sup>火事致<sup>レ</sup>出來<sup>レ</sup>ハ、曲事可<sup>レ</sup>申<sup>レ</sup>付<sup>レ</sup>。

附、其町々人足拾人宛、火消之爲<sup>レ</sup>支度仕、晝夜置可<sup>レ</sup>申<sup>レ</sup>事。但、横町老其所々之

數ニ應<sup>レ</sup>じ人足置可<sup>レ</sup>申<sup>レ</sup>事。自然火事出來仕<sup>レ</sup>ハ、早々な<sup>レ</sup>を立、家持之儀<sup>レ</sup>

不及<sup>レ</sup>申、借屋店借之者迄、不<sup>レ</sup>殘、駈集<sup>レ</sup>り、成<sup>レ</sup>丈情を出し、火を消可<sup>レ</sup>申<sup>レ</sup>事。

一、今度御留守中老、家之前手桶<sup>レ</sup>水を入置、銘々家の内に火之番之者壹人宛

晝夜共ニ付置、成程火之用心可<sup>レ</sup>仕<sup>レ</sup>。火事致<sup>レ</sup>出來<sup>レ</sup>ハ、其番之者公儀へ差上



可申者也。

一、御城近邊に火事あり、其町之者火消人足支度仕置、御觸次第ニ九つより六迄之間迄、月行事自身罷出、時替之番、店借借屋の者迄、急度念を入可申事。晝を慥成手代月行事より出、町々番所ニ附置可申事。

一、町之内番行燈之事、門脇に貳つ宛、中ニ行燈二つ、以上六つ置可申事。

一、町中之門、日暮四ツ迄、大門を開、往行之者通可申。四時過あり、大門を打、通ひ者之先を改、町送ニ仕、通可申。夜更に、往來之者留置申間敷事。

附、不審ふる者通ひあり、其所に留置、早々御番所へ可申上事。

一、町中火附之者、盗人有之あり、町所之者出入召捕、御番所へ可申上事。

一、不審成者に、宿貸申間敷事。

一、此頃贖同心有之者、急度捕、御番所へ召連可參旨相觸。今度日光御留守中、晝御同心衆を町廻りに御出の間、御同心ニ學ひ、似せ者通可申。左様之者見出次第、捕、御番所へ召連可參、御請申し、若見通しあり、曲事可被仰付事。

子元慶安卯月

右は四月十日元慶安御觸、町中連判。

一、今度御留守中、入川入堀舟ニある不審成者通ひあり、改、早々御番所へ可申上事。

子元慶安卯月

右は四月十日元慶安御觸、町中連判。

正實事錄久撰要永録同。

斯クテ家光ハ、四月十三日日光へ發途ス。大猷院殿御實紀云フ、

十三日元慶安御首途あり。大納言殿家綱徳川家綱奥にて饗膳進らせ給ふ。よて供奉

する堀田加賀守正盛、松平伊豆守信綱、朽木民部少輔、植綱、牧野佐渡守親成、齋

藤、攝津守三友、内田信濃守正信、秋元隼人正忠、朝岡出羽守國孝、小出越中守

尹貞、岡田淡路守重治、中根壹岐守正盛、山本平九郎正直、目下部作十郎正定、并

物頭目付使番等も饗膳をたまふ。次に御座所にて吸物酒を奉り、加賀守正盛、

伊豆守信綱、豊後守忠秋めして、御盃下され、次に黒木書院に出たまひ、松平式

部大輔忠次、松平和泉守乘壽めして、留守の事面命し給ふ。廊下には近習衆、大

廣間には普第衆、門番の輩は、其所に見送り奉る。保科肥後守正之、酒井河内

守忠清御先を導き、加賀守正盛、伊豆守信綱御後を押して出たせ給ふ。其行列

は御先肥後守正之、河内守忠清、次に玉藥箱十、矢箱十、長持一、騎馬三騎、左に玉



箱一、銃五十挺、玉箱一、又一荷。右に銃五十挺、玉箱一、又一荷。次に先手頭坂部三十郎廣和、與力六騎、矢箱一荷、弓五十挺。小栗又一政、信從屬上に同じ。次に阿部左衛門次郎政繼、與力二十騎。次に騎馬五騎。左に玉箱一荷、銃五十挺。右持筒頭朝比奈勘右衛門良明、玉箱一荷、弓五十挺。左に持弓頭兼松又四郎正尾。次に騎馬二騎。左虎皮拋鞘鎗五十騎。假の鎗奉行富永忠右衛門重師。右同じ。安藤治右衛門正珍。右に牽馬三疋、副輿、挾箱十二、蓑箱二、弓立二、突穂二、傘二、豎笠二、曲袋二、長刀二、腰物箱二、乘輿、鑓七柄、旗竿長持一、長持二。左玉箱一荷、銃五十挺。右矢箱一荷、弓五十挺、騎馬五十騎。攝津守三友。○齋藤。騎馬三騎。小姓衆三騎。加賀守正盛。○堀内。騎馬二騎。又者騎馬五騎なり。○中略。

廿三日○慶安元年四月。午後、江戸の城に著御なり。普第の大名小名みな大手前に迎拜し、門番の輩は各其所々にて拜し奉る。大納言殿○徳川家綱。黒木書院にてむかへ給ひ、饗膳奉り給ふ。この日雨もよひなりしが、御輿御著の後に降出る。人皆歡呼せりとぞ。

大赦

四月廿六日○慶安元年。

大赦事蹟

一、伊豆守○松平信綱。豊後守○阿部忠秋。對馬守○阿部重次。被召出、江戸京大坂伏見堺奈良右之所々籠舎輕罪之輩、可致赦免旨、被仰出之。是今度權現様○徳川家康。三十三回之依御追善也。

四月廿七日○慶安元年。

一、今年東照大權現三十三回忌付、輕罪之族御赦免。依之於國々所々守此旨可赦免之由、上意之趣、今日京大坂堺奈良伏見長崎島原駿府へ、以次飛脚被申遣。一萬石已上之面々、并在國之輩へも被相觸之。

六月三日○慶安元年。

一、今年大權現様三十三回忌付、累年御勤氣之面々、交名注之、毘沙門堂門跡献上。依之御赦免之旨、被仰出之旨、於御白書院毘門酒井讚岐守○忠勝。松平伊豆守○信綱。阿部豊後守○秋秋。阿部對馬守○重次。傳上意之趣、猶又御心靜御吟味之上、重御宥免之輩、可被仰出之旨也。所謂

酒井因幡守。松平甚三郎。徳永下總守。別所軍平。黒川八左衛門。本目權兵衛。水野庄介。長谷川猪兵衛。戸田九郎兵衛。向井五郎八。伊丹理右衛門。小林十郎左衛門。休庵○休庵子銀座。六藏。平野平左衛門。



一、御國御免、久能左門、中根權兵衛、同弟二人。  
一、島御免、小澤二郎右衛門。

一、柳原屋敷、此已前曲事有之、屋敷被召上之族御免、如元被仰付之。

一、當正月台徳院様○徳川秀忠御十七回付、御勘氣之面々、交名注之、從増上寺方

丈、献上之。依之御面之輩、以右四人被仰出之。越方丈於白書院傳之。是又彌

御吟味之上、重御宥免之輩、可被仰出之旨也。所謂、

福原淡路守、大久保權右衛門、河野權右衛門、初鹿野傳右衛門、岩瀬權三郎、保

々兵九郎、折原左京、一色内膳、一色主馬、津河武左衛門、神谷又五郎、青木小右

衛門、小右衛門子木村甚右衛門、味岡傳左衛門、大野十左衛門。慶安錄

廿六日○慶安元年四月○中略この日神祖三十三回の御忌にて、大赦の事仰出さる。

三日○慶安元年六月今年神祖三十三回の御忌により、御勘氣蒙りたる酒井因幡守

忠知、徳永下總守、昌勝、松平甚三郎、行隆、別所軍平守治、黒川八左衛門、盛至、本目

權兵衛、直信、水野庄助、勝安、長谷川猪兵衛、宣重、戸田九郎兵衛、某、向井五郎、八正

俊、伊丹理左衛門、之康、小林十郎左衛門、時春、休庵、某、その子六藏、某、銀座、平野平

左衛門、をゆるさる。また久野左門宗辰、中根權兵衛、某、其弟二人は、國免許、小澤

増上寺崇源院石塔等修

次郎右衛門重長は、島免許、其外柳原の宅地收公せられたるをも、もとのごとくかへし下さる。○此外台徳院十七年ノ法會ニ依リ勘氣ヲ宥サレシ者有リ。大猷院殿御實紀

五月十四日戊寅○慶安元年紀元二三〇年小姓組仙石久邦○右近書院番石

尾治昌○七兵衛ヲ奉行トシテ、増上寺○市内芝區崇源院石塔等ヲ修理セシ

ム。九月廿三乙酉○慶安元年紀元二三〇年成ル。○日記。寛政重修諸家譜。

増上寺崇源院石塔等修理 傳フ、

五月十四日○慶安元年

一、崇源院殿御石塔可建直之旨、去比被仰出之、仍る仙石右近○久邦。○小姓組。石尾七

兵衛○治昌。○書院番。奉行可仕旨、伊豆守○松平信綱。傳之。

九月廿三日○慶安元年

一、今度万部御執行ニ付、増上寺所々御修復御普請奉行相勤ニ付、時服黄金被下之。

石尾七兵衛

仙石 右近

十一月八日○慶安元年

市街恢弘時代

増上寺崇源院石塔等修理事蹟



一、狩野法眼○守ニ銀百枚被下之。是去頃於増上寺繪被仰付ニ付る也。  
——日記

廿三日○慶安元年九月。○中略。御法會により、増上寺修理の奉行せる書院番石尾七兵衛治昌、仙石右近久俊に、時服金賜ふ。

八日○慶安元年十一月。○中略。畫員狩野探幽守信、増上寺障壁の畫つかふまつりたりとて、銀百枚給ふ。  
——大猷院殿御實紀

久邦○右近。因幡守。從五位下。今の呈譜久俊に作る。

十二年○永。○寬御小姓組の番士とふり、○中略。慶安元年九月二十三日増上寺所々の普請を奉行せしにより、時服三領黄金二枚をたまふ。  
——寛政重修諸家譜

廿四日戊子○慶安元年五月。○紀元二二〇八。○八旗下ノ士屋鋪ヲ賜ヒタル者若干有リ。○慶安元年五月。○戊子。○三正綜覽。旗○慶安元年八月。○癸卯。○三正綜覽。ニハ、屋鋪替有リ。○慶安錄。

屋鋪給與及交換 慶安錄ニ、

五月廿四日。○慶安元年。

屋鋪給與及交換事蹟

屋鋪給與及交換

一、久世大和守○廣元屋敷。久世三四郎當。廣被下之旨。民部少○朽木傳之。

一、駒込島田幽也○利上屋敷之内。榊原飛驒守○職直。○先手鐵炮頭。與力拾貳人徒同心

五十人御屋敷被下之。

一、西之窪有馬中務○忠下屋敷北之方。石谷十藏○貞清。○先手鐵炮頭。與力十騎徒同心

心五十人御屋敷被下之。右通民部少渡之。

六月十日○慶安元年。

一、天方主馬○天野彌五左衛門重。○長屋敷替之義。相對次第可仕之旨。上意。松平

丹波守老中傳之。

一、水野美作守○俊。○下屋敷。○花房彌之助昌。○幸屋敷替仕度之旨。速ニ依申上可

爲相對次第之旨、被仰出之。

六月十一日甲辰○慶安元年八月。○甲辰。○三正綜覽。代官伊奈忠治○半野村爲重○太彦

ニ命シテ、江戸廻百姓地代屋敷借ヲ穿鑿セシム。○日記。大猷院殿御實紀。

江戸廻百姓地代屋敷借穿鑿 左ノ如シ。

六月十一日○慶安元年。

市街恢弘時代

江戸廻百姓地代屋敷借穿鑿事蹟

江戸廻百姓地代屋敷借穿鑿



一、江戸廻百姓地代屋敷借以義堅御停止之旨先年被仰出之處所々々于今借以之由被及聞召不届思召以可遂穿鑿之旨被仰出則伊奈半十郎治○忠野村彦太夫重○爲招營中酒井紀伊守杉浦内藏允曾根源左衛門申渡之。

日記○慶安

十一日○慶安元年六月○中略。代官伊奈半十郎忠治野村彦太夫爲重には近郊農民の宅地検査奉行仰付らる。これは農民の地を他に借あたふる事先年禁せられしが今に猶ひそかに借るものあるよし聞ゆるがゆへなり。

大猷院殿御實紀

附記 六郷橋損破

七月十四日○慶安元年

一、昨日○慶安元年七月十三日。風雨ニ付六郷橋柱三本押流往還之輩滯有之由伊奈半十郎治○忠注進之。

慶安錄

寛政重修諸家譜左ノ如ク記スハ是時ノ修理ナル可シ。

貞寄猪兵衛丹後守下總守從五位下致仕

略上六月十六日○寛永御書院番に列し慶安元年またかの橋郷橋○六修造のこと

淨光院領改賜

七月十七日庚辰○慶安元年紀元二三八○庚辰三正綜覽。小石川淨光院○市内小石川區祥雲寺。本郷○市

内本郷區ノ寺領ヲ改メテ小日向村○市内小石川區。二賜フ。○小石川志料。

淨光院領改賜 小石川志料ニ據ル。

武藏國豊島郡小石川村淨光院領本郷之内五石雖爲舊領改之同郡小日向村之内五石事寄進之訖全可收納并寺中山林竹木諸役等免除永不可有相違者也。

慶安元年七月十七日 朱印

廿日癸未○慶安元年紀元二三八○庚辰三正綜覽。王子殿○武藏國豊島郡。高田殿○市内小石川區。ヲ修理

ス。○日記。慶安錄。寛政重修諸家譜。

王子殿高田殿修理 七月十三日ノ暴風雨ニ損破シタルカ爲メ也。

七月廿日○慶安元年

一、今度風雨ニ付る王子并高田御殿破損修復之奉行王子老渡邊源藏○高田老本郷庄三郎勝○泰被仰付之。

日記

王子殿高田殿修理事蹟

王子殿高田殿修理

淨光院領改賜事蹟



七月廿日○慶安元年。

一、今度風雨付る、王子并高田御殿破損修復之奉行、王子を渡邊源藏、高田を本郷庄三郎被仰付之、朽木民部少傳之。

隆初幸綱源藏。

略。○上十五年○寛永御書院番に列し、○中慶安元年七月二十日王子御殿の普

請を奉行し、○下

泰勝○勝三郎。○今の呈譜長泰に作る。

略。○上のち御書院番に列し、慶安元年七月二十日仰をうけて高田御殿修理の○下ことを奉行し、○下——寛政重修諸家譜

七月十三日○慶安元年。風雨ハ慶安録左ノ如ク記ス者是也。

七月十三日○慶安元年。

紀伊亞相○徳川頼宣。

水戸黃門○徳川頼房。

一、上使、是今日雨風ニ付る之、爲御禮、即刻登城

一、殿中祇候之面々、御酒給之。

七月十四日○慶安元年。

日光御門跡○守澄法親王。

一、昨日風雨ニ付る、爲上使御菓子被遣之。

一、從日光次飛御到來、昨日雖爲風雨儀、御山相替義無之由、注進之。

八月十七日己酉○慶安元年(紀元二三八)年。○己酉(三正綜覽)。谷中感應寺○市内下谷區。ニ寺領ノ印

書ヲ給ス。○文政寺社書上。此前後谷中玉林寺○市内下谷區。同所善光尼寺○市内下谷區。亦

寺領ヲ附セラル。○文政寺社書上。

感應寺領 文政寺社書上ニ左ノ如ク見ユ。

武州豊島郡谷中

東叡山末 長耀山尊重院感應寺○中

一、慶安元年戊子八月十七日寺領并寺中門前山林竹木永代安堵之御朱印頂

戴之。

玉林寺領 傳フ、

一、御朱印拜領地表間口百拾貳間。裏行九拾五間。坪數壹萬千百坪。

一、曹洞宗駒込吉祥寺末、谷中

市街恢弘時代

感應寺領

玉林寺領

善光尼寺領

感應寺領事

玉林寺領事



望湖山玉林寺略。中

一、御朱印拜領御三代様慶安元戊子年七月十七日高貳拾壹石八斗餘  
但、當時境内ニ罷成也。

武藏國豊島郡谷中村玉林寺領同村之内二十一石八斗餘、任先規寄附之訖、  
全可收納、并寺中門前山林竹木諸役等免除、如有來永不可有相違者也。

——文政寺社書上

慶安元年七月十七日

善光尼寺領 傳フ、

一、御朱印拜領高五石。

右ニ慶安元年九月十七日從大猷院様被下置也。

御文言寫

武藏國豊島郡谷中善光尼寺領同村内ニをひて五石餘事、先規ニ漏ラセ寄  
附之畢、全收納すへし、并寺中門前山林竹木諸役等免許、有來ことく、永相  
違ハルるゑらさる者也。

慶安元年九月十七日

——文政寺社書上

九月廿三日乙酉

○慶安元年(紀元二三〇八年)乙酉(西曆一六四三年)正綜覽。

關宿

○下國。城主牧野信成○内頭。舊

善光尼寺領  
事蹟

德川長松賜  
邸事蹟

邸ノ地ヲ公子長松

○松平綱重。ニ與フ。○日記。天享吾妻鑑。

德川長松賜邸 傳へ云フ、

九月廿三日

○慶安元年。

一、牧野内匠頭○信成。元屋鋪長松殿○德川綱重。ニ被進之。

十二月十日

○慶安元年。

長松君御作事奉行被仰付之。

弓削多源七郎○昌勝。

山田清太夫○重棟。

——日記

一十一日

○慶安元年十二月。

一、長松様御屋敷御普請奉行ニ、

山田清太夫

弓削多源七

右御屋布ハ、牧野内匠頭本屋布ノ由也。

——天享吾妻鑑

廿三日○慶安元年九月。○中略。この日牧野内匠頭信成舊邸の地を長松君にたまふ。

——大猷院殿御實紀

昌勝○主水。源七郎。忠右衛門。

市街恢弘時代



九年○寛永御書院番に轉じ、○中略慶安元年十二月十日清揚院○德川綱重の御館をつくらるゝのとき、其事を奉行す。

重棟○市郎兵衛。三十郎。清太夫。

元和七年正月御小性組の番士となり、○中略慶安元年十二月十日長松君の御殿作るの奉行をつとむ。

德川長松第ハ、府本寛永九年江戸圖竹橋内「牧野」ト記シ、正保江戸圖閣本江戸繪圖「長松様」ト記ス者是也。

〔附記、一〕 北小路道芳宅地

九月廿五日○慶安元年

一、北小路宮内○道芳於鷹師町宅地被下之。其上西丸ニる毀ハ御殿、并爲引料金三百兩被下之。

日記

太郎兵衛嫡男  
本庄宮内少輔道芳

初北小路宮内大輔

○上略同年○慶安元年七月被召出、御藏米ニる千俵被下置、德松様○德川綱吉桂昌院様○母本莊氏御後見被仰付ハ、其砌鷹師町ニる屋鋪被下置、西丸古御殿拜領仕

寛政呈譜

承應江戸圖駿河臺西南松平下總邸ノ西南ニ當リ、稻葉權之助ノ西隣、本庄宮内ト有ル者是也。

〔附記、二〕 小石川村高

慶安元子十月廿一日子歳小石川村年貢定納帳本帳之寫

小石川村

新高五百三十九石五斗三升四合

三ッ四分三厘上納

此取石百八十四石九斗五升四合

右之通、穿鑿之上、定納相究申ハ、以上

慶安元年子十月廿一日

伊奈半十郎内  
永田半兵衛

石川  
傳通院内

納所

代官  
勘兵衛

小石川志料

四六九



駒込海藏寺  
領給與

十月廿四日乙卯○慶安元年(紀元二三〇八年)○乙卯(三正綜覽)。駒込海藏寺○市内。本郷區。ニ寺領ヲ給ス。○文政寺社書上。

駒込海藏寺  
領給與事蹟

駒込海藏寺領給與 八、

大猷院様御朱印

武藏國豊島郡駒込村海藏寺

武藏國豊島郡駒込村海藏寺領同村之内八石餘事。任先規寄附之訖。全可收納。并境内山林竹木諸役等免除。如有來。永不可有相違者也。

慶安元年十月廿四日 御朱印

但、先規頂戴之書面。相分不申。申傳等も無之。

——文政寺社書上

寺社起立轉  
移事蹟

十一月廿一日壬午○慶安元年(紀元二三〇八年)○壬午(三正綜覽)。神田北寺町邊○市内。神田區。ノ寺院ヲ撤シテ、之ヲ谷中○市内。下谷區。及駒込○市内。本郷區。ニ移ス。○文政寺社書上。府内誌。殘編。續府内備考。此外是年○慶安元年(紀元二三〇八年)ヲ以テ起立若クハ轉移シタル寺社若干有リ。

寺社起立轉  
移事蹟

○文政寺社書上。江戸紀開。新編武藏風土記稿。武江年表。江戸名所圖會。

寺社起立轉移

總構内ノ寺院地區中、谷藏谷寺町區ノ寺院ハ、正保中之ヲ淺草

ニ移シタルコト。上記ノ如シ。是ニ至テ神田北寺町ヲ撤ス。

金嶺寺

金嶺寺 神田北寺町ヨリ谷中村ニ移ル。

東叡山末谷中 天台宗 信增山寶城院金嶺寺

一、境内拜領地表間口廿五間、裏行四十八間、坪數千貳百坪。

東照權現様御代慶長十六辛亥年二月十五日神田北寺町ニ御奉行米津勘兵衛殿、島田治兵衛殿。其後慶安元戊子年從神田北寺町爲御代地。十一月廿一日谷中村ニ御奉領仕。寺社御奉行安藤右京進殿、松平出雲守殿。地割御奉行永井彌右衛門殿、城半左衛門殿當戊年迄二百拾六年程相成申。

——文政寺社書上

長久院

長久院 神田北寺町ヨリ谷中村ニ移ル。

一、拙寺境内拜領地ニ御座。表通三拾間、裏行三拾間。慶長十六亥年二月開山看意。神田北寺町ニ御座。寺地九百坪被下置。其後慶安元戊子年右地御用地

市街恢弘時代



相成、同年十一月廿一日豊島郡谷中今所代地拜領仕し。

一、宗旨之義ハ、新義眞言宗。本寺本所彌勒寺末。

一、瑠璃光山藥師寺長久院。

一、開闢相分不<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>し。

——文政寺社書上

長久院 西寺町ニアリ。瑠璃光山藥師寺ト號ス。本所彌勒寺ノ末ナリ。慶長十六年神田北寺町ニ於テ寺地ヲ拜賜シテ創建セシカ、慶安元年御用地トナリ、同年十一月今ノ地ヲ代地ニ賜フト云フ。開山看意ハ寛永四年正月三日寂ス。本尊金剛界大日ヲ安セリ。又不動愛染藥師ヲモ安置ス。境内九百坪、拜領地ナリ。

稻荷社

——府内誌殘編

西光寺

西光寺 神田北寺町ヨリ谷中村ニ移ル。

一、當寺之濫觴、慶長八卯開山宥義於神田北寺町ニ、南北四拾九間、東西四拾七間、惣坪貳千貳百九拾壹坪寺地拜領仕、堂舎佐竹右京大夫義宣公建立。慶安元子年十一月右寺地御用地ニ付、於當所<sub>○</sub>谷中村。舊地之通第四世宥鏡代拜領仕、慶安二丑年佐竹修理大夫義隆公堂舎再建。

一、上野中堂領持添地壹反壹畝拾丁。

一、宗旨新義眞言宗。本寺本所彌勒寺。

一、佛到山無量壽院西光寺

——文政寺社書上

西光寺 谷中町ニアリ。佛到山無量壽院ト號ス。本所彌勒寺ノ末ナリ。慶長八年開山宥義<sub>妙音院ト號ス。佐竹大膳大。次子ナリト云フ。</sub>神田北寺町ニ於テ寺地ヲ拜賜ス。時ニ佐竹右京大夫義宣開基檀越トナリテ、梵宇ヲ創建セシト云フ。宥義ハ元和四年七月十七日寂シ、義宣ハ寛永十年正月廿五日卒ス。斯テ慶安元年十一月彼地御用地トナリ、今ノ地ヲ代地ニ賜フ。是現住宥鏡カ時ナリト。翌ル二年佐竹修理大夫義隆堂舎ヲ再建ス。依テ義隆ヲ中興開基ト稱ス。本尊不動及ヒ二童子四大明王十一面觀音等ヲ安ス。境内二千二百九十一坪、拜領地ナリ。外ニ東叡山中堂領年貢地一段一畝十歩ヲ持添地トセリ。門前商家アリ。

——府内誌殘編

法藏院

法藏院 神田北寺町ヨリ谷中村ニ移ル。

淺草新堀東光院末

谷中 光雲山元尊寺法藏院

天台宗

市街恢弘時代

四七三



一、境内拜領地表口貳拾間。裏行貳拾間。坪數四百坪。

東照權現様御代慶長十七壬子年二月十五日神田北寺町ニ有拜領仕ハ。御奉行米津勘兵衛殿。島田治兵衛殿。其後慶安元戊子年從神田北寺町十一月廿一日爲御替地當所ニ有拜領仕ハ。寺社御奉行安藤右京進殿。松平出雲守殿。地割御奉行永井彌右衛門殿。城半左衛門殿。當戊年迄二百十五年程ニ相成申ハ。

——文政寺社書上

大泉寺

大泉寺 神田北寺町ヨリ谷中村ニ移ル。

淺草新堀東光院末  
谷中  
天台宗 清林山和光院大泉寺

一、境内拜領地表口貳拾間、裏行三拾間、坪數六百坪。

東照權現様御代拜領仕、慶長十六辛亥年二月十五日、御奉行米津勘兵衛殿、島田治兵衛殿。慶安元戊子年神田北寺町ヲ當谷中ニ替地、十一月廿一日當所ニ有拜領仕ハ。寺社御奉行安藤右京進殿、松平出雲守殿。地割御奉行朝奈源六殿、永井彌右衛門殿。城半左衛門殿。當戊年迄二百十六年程ニ相成申ハ。

——文政寺社書上

天龍院

大泉寺 西寺町ニアリ。清林山知光院ト號ス。淺草新堀東光院ノ末ナリ。慶長十六年ノ起立ニシテ、神田北寺町ニアリシカ、御用地トナリ、慶安元年今ノ地ヲ替地ニ賜ヒテ移轉スト云フ。開山宣高ハ慶安二年十月七日寂シ、中興自空ハ寶永二年七月二十九日寂スト云フ。本尊三尊ノ彌陀ヲ安ス。又不動ヲモ安セリ。境内拜領地六百坪アリ。

——府内誌殘編

天龍院 神田寺町ヨリ東叡山清水門ニ移ル。

谷中 天龍院

一、當寺境内拜領地表北之方拾五間餘、西之方貳拾八間餘、南之方八間三尺餘、東之方三十三間餘、惣坪數三百四拾坪餘、但シ拜領年代然ト相知レ不申、古記録等燒失仕ハ。

一、過坪貳十三坪九合有之ハ處、御預ケ地ニ罷成ハ。右預リハ年代老安永四年未年、松平伊賀守殿御内山本宇太夫殿石野藤兵衛殿ト申ハ役人ニ御座ハ。一、當寺起立寛永庚午年ハ御年貢地ニ有壹万坪餘先住所持罷在ハ處、慶安元子歲神田寺町ヲ東叡山清水御門ニ引越申ハ時分、宗林寺正運寺其外道等之御用地ニ被召上ハ時分、地割御奉行衆ヨリ安藤右京之進殿、松平出雲守殿ニ



被仰達、割餘り之地ニ其儘被指置罷在、然處其節之地面ニ表廿貳間裏行拾八間ニ御座シ。翌丑年ノ御年禮申上、梅花五葉松水仙花根ハ献上仕、從大猷院様嚴有院様御代今年ニ至迄、無懈怠相勤來り申シ。此の花の儀ハ、先年より爲御加例子、今献上仕シ。尤由緒之義、往古大猷院様御鷹匠之砌、御立寄被有ハ節、梅花献上可致ハ様被仰聞ハ事ト古來ハ申傳ニ御座ハ間、于今毎年正月六日ニ献上仕シ。

- 一、梅花五葉之松水仙根ハ献上之儀ハ、慶安二年丑之年ノ御年禮申上シ。
- 一、禪臨濟宗淺草海禪寺末。
- 一、山號海雲山。

一、三崎町へ引越、當時起立仕ハ年代ハ古記録等燒失仕ハ間、然ト相知れ不申シ。

——文政寺社書上

天龍院 三崎町ニアリ、海雲山ト號ス。淺草海禪寺ノ末ナリ。寛永七年ノ起立ニシテ、元ハ神田寺町ニアリシカ、慶安元年今ノ東叡山清水門處在ノ地御用地トナリシ割餘ノ地ニ移サレシト云フ。今ノ地ニ轉セシ年代ハ、記録燒失シテ詳ナラス。開山梅岩ハ承應二年五月十四日寂セリ。本尊釋迦ヲ安ス。慶安二

年寺僧拜年ノ賀儀ニ始テ梅花五葉松水仙花ヲ献セシヨリ、今ニ例トシテ毎歲献スト云フ。コハ大猷院殿御放鷹ノトキ當寺ニ御立寄アリテ台命アリシヨリ献シ奉リシ由云傳フ。境内三百四十坪餘拜領地ナリ。外ニ二十八坪餘ノ御預リ地アリ、コハ安永四年ヨリ預ケラレシト云フ。

——府内誌殘編

稻荷社

歡福寺 神田北寺町ヨリ谷中ニ移ル。

起立之覺

- 一、境内拜領地、表間口三拾貳間、裏行三拾壹間、坪數九百九拾貳坪。
- 一、權現様御代慶長十六辛亥年二月十五日開山辨圓法印代於神田北寺町ニ拜領仕シ。
- 一、大猷院様御代慶安元戊子年中、右之寺地御用地ニ付被召上、谷中代地拜領仕シ。

一、宗旨新義真言宗本寺本所彌勒寺末。

一、山號天瑞山。院號明王院。寺號歡福寺。

——文政寺社書上

泰然寺 神田北町ヨリ谷中村ニ移ル。

市街恢弘時代



指上申手形之事

天明三年迄二百七十二年ニ成ル。

一、寺起立慶長十七年壬子ノ今年迄五十七年ニ御座シ。

一、寺地拜領地ニ御座シ事。

一、寺間間數表裏六百坪御座シ事。

右之趣相違無御座シ事。

寛文八申年四月廿九日

淺草東光院末  
天臺宗 泰然寺

岡部庄左衛門様

中野傳右衛門様

如斯手形認御公儀ニ上申シ。

一、權現様御代慶長十七年壬子二月十五日神田北寺町拜領仕、御奉行米津勘兵衛殿、島田治兵衛殿、慶安元戊子年從神田北寺町爲御替、同霜月廿一日谷中村ニ拜領仕シ。

寺社御奉行安藤右京進殿、松平出雲守殿、地割御奉行永井彌右衛門殿、城半左衛門殿。

右拜領仕シ從壬子年當年迄五十七年罷成シ。

寛文八申ノ二月廿六日

泰然寺印判

東叡山御役院圓覺院住心院兩院様ニ、如斯認メ上リ申シ。

——文政寺社書上

泰然寺 西寺町ニアリ。鶴林山實相院ト號ス。淺草東光院ノ末ナリ。慶長十七年二月神田北寺町ニ寺地ヲ拜賜シテ創建セシカ、慶安年十一月今ノ地ニ移サレシト云フ。開山ヲ慶賢ト稱ス。寛永十六年二月十四日寂ス。本尊彌陀及ヒ辨天不動尊ヲ安ス。境内六百坪拜領地ナリ。

——府内誌殘編

自性院 神田北寺町ヨリ谷中村ニ移ル。

境内取調箇條

谷中  
自性院

一、拙寺境内古跡拜領地御座シ。神田北寺町ニ在ル東西三十六間、南北貳拾四間惣坪數九百三拾六坪、慶長十六亥年二月十五日拜領仕シ所、其後慶安元子年御用地ニ奉差上、於當所代地拜領仕シ。

一、宗旨之義新義眞言宗、本寺本所彌勒寺末。

一、本覺山寶光寺自性院略○中

市街恢弘時代



一、門前町屋之義之、南方拾六間、西之方貳拾間、明地之所、元文三年、大岡越前守様に奉願上し、所願之通り、中十ヶ年御免に相濟來り申し。

——文政寺社書上

自性院 谷中町ニアリ。本覺山寶光寺ト號ス。本所彌勒寺ノ末ナリ。慶長十六年二月、神田北寺町ニ創立セシカ、慶安元年御用地トナリ、今ノ地ニ移サル。開山ヲ道意ト云フ。寂年詳ナラス。本尊金胎兩部ノ大日ヲ安ス。境内九百三十六坪、拜領地ナリ。門前商塵アリ。

——府内誌殘編

多寶院

多寶院 神田北寺町ヨリ谷中村ニ移ル。

一、境内拜領地坪數九百七拾坪餘。

但シ、慶長十六辛亥年二月十五日於神田北寺町ニ拜領。慶安元戊子年御用地ニ付、被召上、當時之地坪拜領仕し。

一、湯島根生院末。

一、新義真言宗 寶塔山龍門寺多寶院。

——文政寺社書上

多寶院 谷中町ニアリ。寶塔山ト號ス。湯島根生院ノ末ナリ。慶長十六年二月

惣持院

神田北寺町ニ於テ寺地ヲ拜賜シテ創建セシカ、慶安元年御用地トナリ、今ノ地ニ移サレシト云フ。開山首純ハ寛永五年八月五日寂ス。本尊多寶如來ヲ安ス。行基作ト云フ。境内九百七十七坪餘拜領地ナリ。

聖天堂

稻荷社

——府内誌殘編

惣持院 神田北寺町ヨリ谷中ニ移ル。

天台宗 淺草新堀東光院末 谷中 廣隆山最勝寺惣持院

右慶長十六年辛亥二月十五日、神田寺町之地ニ寺地拜領仕し。町御奉行米津勘兵衛殿、島田治兵衛殿。然處慶安元甲子年當地に替地被仰付し。寺社御奉行安藤右京進殿、松平出雲守殿。地割方朝比奈源六、永井彌右衛門、城半左衛門、拜領地面四百坪。東西貳拾間、南北貳拾間。

——文政寺社書上

總持院 谷中町ニアリ。廣隆山最勝寺ト號ス。淺草東光院ノ末ナリ。慶長十六年二月、神田寺町ニ創立セシカ、慶安元年今ノ地ニ移サレシト云フ。開山ヲ榮松ト稱ス。寛永十六年三月十四日寂セリ。本尊彌陀ヲ安ス。又元祿十五年大久

市街恢弘時代



保加賀守カ家ヨリ納メシトテ信康君及ヒ御母堂築山御方ノ尊牌如意輪觀音等ヲ安置セリ。境内四百坪拜領地ナリ。門前商家アリ。護摩堂 本尊不動ヲ安ス。良辨ノ作ニテ、大山不動ト同木ノ由云傳フ。

——府内誌殘編

觀智院

觀智院 神田北寺町ヨリ谷中ニ移ル。

起立之覺

- 一、境内古跡拜領地 表間口三拾間、裏行貳拾貳間半、坪數六百六拾九坪餘。
- 一、權現様御代慶長十六辛亥年二月十五日當寺開山照譽法印代於神田北寺町ニ寺地拜領仕い。
- 一、大猷院様御代慶安元戊子年中神田北寺町御用地ニ付被召上、谷中ニ多代地拜領仕い。

一、宗旨新義真言宗、本寺本所彌勒寺末。

一、山號醫王山、院號觀智院、寺號東漸寺。

——文政寺社書上

觀智院 谷中町ニアリ。醫王山東漸寺ト號ス。本所彌勒寺ノ末ナリ。開山ヲ照譽ト云フ。寂年詳ナラス。當寺モ慶長十六年二月神田北寺町ニテ寺地ヲ拜賜

加納院

加納院 神田北寺町ヨリ谷中ニ移ル。

稻荷社

——府内誌殘編

シテ起立セシカ、慶安元年御用地トナリ、今ノ地ニ移轉スト云フ。中興宥朝ハ享保六年五月廿二日寂ス。本尊弘法ノ像ヲ安ス。境内六百六十九坪餘拜領地ナリ。門前ニ商家アリ。不動堂 不動ハ興教ノ作ト云フ。

一、境内拜領地 坪數六百坪餘。間口拾六間、奥行三拾間。

一、替地 慶長十六年辛亥權現様御代神田北寺町ニる寺地表貳拾五間裏行貳拾間拜領仕い處、慶安元年戊子大猷院様御代神田北寺町御用ニ付、谷中清水坂ニる替地拜領仕い。○中略。

一、宗旨 新義真言宗。

一、本寺 本所彌勒寺。

一、山號 長谷山。

一、院號 加納院。

一、寺號 元興寺。

——文政寺社書上



加納院 感應寺門前町ノ横街ニアリ。長谷山元興寺ト號ス。本所彌勒寺ノ末ナリ。慶長十六年神田北寺町ニ起立シ、慶安元年御用地トナリ、一旦當所清水坂ニ移サレシカ、延寶八年再ヒ御用地トナリ、今ノ地ニ移轉セシト云フ。開山ヲ尊慶ト云フ。寛永十三年四月六日寂ス。本尊彌陀觀音勢至ヲ安ス。境内六百坪餘拜領地ナリ。  
聖天堂 歡喜天及ヒ本地觀音ヲ安シ、稻荷辨天彌陀千手觀音等ヲ相殿トス。

府内誌殘編

觀音寺

觀音寺 神田北寺町ヨリ谷中清水坂ニ移ル。

谷中觀音寺

一、境内拜領地 表間口三拾七間四尺五寸餘、裏行四拾五間餘、千六百八拾坪餘。

權現様御代神田北寺町拜領仕ハ。御奉行米津勘兵衛様、島田治兵衛様御役中ニ御座シ。

一、大猷院様御代御用地ニ相成被シ召上代地谷中清水坂ニ御座シ。右之坪數程拜領仕ハ。御奉行安藤右京様、松平出雲守様被シ仰渡シ。○中略。

善立寺

善立寺 神田ヨリ谷中ニ移ル。

甲斐國巨摩郡身延山久遠寺末  
大光山善立寺

下谷 不顯小名

文政寺社書上

境内古跡拜領地五千六百九拾四坪。  
由緒左之通、

○上關東御入國之時分、住持日得○三河國岡崎善立寺。御供相願ハ所、早々可參旨御上意ニ御供仕、本多佐渡守殿を以御屋鋪拜領仕度段言上仕ハ處、御供仕ハ儀被シ爲在御感望次第可被下置旨、本多佐渡守殿より被仰出シ得共、文匣壹ツニ御罷下シ故、屋鋪過分ニ拜領仕ハ淺無詮故、少分拜領仕ハ此時何方ニ御座シ。則參州岡崎之寺山號其ニ引移ハ、今以岡崎ニ善立寺之舊地相續致。乘輿獨禮御代御禮申上、時服拜領等格式置被仰付シ儀、全以權現様御影ヲ難有奉存シ。其後屋鋪替之時、石川八左衛門殿内藤金左衛門殿ハ神田ニ御座シ屋鋪申請シ。今之三河町其頃老日得不如意故、建前之外、明地を貸地ニ致罷在ハ處、權現様薨御後、駿府之諸侍衆當地ヲ被召寄シ付シ付シ、御改被成シ節、善立寺之貸屋鋪之儀、差當り不用シハ、御奉公ニ相成ハ間、差上可被申、重ク屋敷替ハ被仰付シハ、何



時淺替地を望次第可被仰付酒井雅樂頭殿土井大炊頭殿安藤對馬守殿御申被成以間差上申以。其後御當地追日御繁昌ニ有屋鋪地所御入用ニ付慶安元申子年此時者當寺二代目善立寺儀を餘寺と違御譜代同様之由緒寺ニ以間屋鋪地所諸土方之住所ニ御奉公之為差上度代地之儀を淺草新寺町近邊之ぶけ之所有之地形惡鋪以得共寺町近邊故右之場所拜領仕度旨願上以得を御聞濟ニ有八千坪寺地ニ被下置以。其後猶又屋鋪地御入用之刻貳千三百坪餘差上以故當時五千六百九拾四坪之拜領地ニ有罷在中略。

塔頭十軒

眞如院

開祖林松院日仙卒年月不知。

法性院

開祖法泉院日如天正十九年岡崎方罷來以。寛永四丁卯十一月九日卒。

善行坊

開祖壽仙院日得。

本壽坊

開祖守玄院日締三州に歸と云々。

惠林坊

開祖圓明院日讚三州に歸と云々。

東陽坊

開祖法輪院日正延寶五丁巳正月二日卒。

圓修坊

法輪坊 圓通坊 十行坊

右此内四軒當時疊置。

續府内備考

成就院 神田北寺町ヨリ下谷田中ニ移ル。

本所彌勒寺末摩尼山寶光寺成就院

下谷田中

境内拜領地千貳百四拾五坪餘内門前町屋アリ。

拙寺起立之儀を相知不申以へ共往古慶長十六辛亥年神田北寺町三拾七年住居慶安元戊子年中只今之地面拜領仕引移申以。續府内備考

清林寺 神田柳原ヨリ駒込四軒寺町ニ移ル。

一、境内千三百三拾貳坪内拜領地千八拾坪持添年貢地二百五拾貳坪。  
 一、當時起立年來睨と不相知凡永正年中頃豊島郡神田四軒町東西三拾六間

市街恢弘時代

四八七

成就院

清林寺



南北三拾間千八拾坪拜領仕<sub>レ</sub>。開山長蓮社觀譽龍脫和尚<sub>ニ</sub>申<sub>レ</sub>。其節依御撰  
<sub>ニ</sub>鎌倉光明寺<sub>ニ</sub>移轉被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>。永正六子年十一月八日於光明寺命終仕<sub>レ</sub>。其  
後清林寺類燒仕<sub>レ</sub>。年久敷無住<sub>ニ</sub>付。中興光譽天曆再建仕<sub>レ</sub>。慶長年中神田  
柳原北<sub>ニ</sub>替地被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>。其後慶安元子年當駒込四軒寺町<sub>ニ</sub>替地被<sub>レ</sub>仰付<sub>レ</sub>。然  
ル處添地貳百五拾貳坪御公儀<sub>ニ</sub>御年貢相納來申<sub>レ</sub>處。文政九戌年迄凡百七  
拾年餘綿々相續仕罷在<sub>レ</sub>。○中略。

一、淨土宗

一、下谷幡隨院末。

一、東梅山陽花院清林寺

光源寺 神田四軒町ヨリ駒込ニ移ル。

——文政寺社書上

光源寺

深川本誓寺末  
武州豐島郡駒込四軒寺町  
淨土宗 天昌山松翁院光源寺 ○中略。

一、開基圓覺院殿前越州大守寶譽道樹大居士、慶長十九年寅五月六日仙石權  
兵衛、後ニ號越前守。

一、當寺之儀、天正十七己丑年神田四軒町ふちゐて起立、慶安元年駒込ニ轉

地被仰付引移申<sub>レ</sub>。松翁院殿謙譽道休大居士、延寶二寅年七月廿四日、仙石家  
三代目ニテ、當寺中興ナラント云。圓覺院松翁院共ニ廟無之、位牌計。其外代々  
無之。

一、當寺境内千七百五拾五坪不殘拜領地。

一、觀音堂 十一面觀音本尊大和國初瀬寺之寫、木像、丈貳丈ふして元祿九年大  
坂町丸屋宗閑俗名吉衛と申もの建立仕<sub>レ</sub>。佛師安阿彌傳兵衛と申者之作由申傳へ<sub>レ</sub>。  
其外西國秩父坂東百番之觀音、木像ニる丈壹尺六寸、小木像八千體在<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>。何  
人之作ニハ哉相知不申<sub>レ</sub>。

——文政寺社書上

榮松院

榮松院 神田ヨリ駒込ニ移ル。

惣境内坪數千貳百拾九坪餘。内千八拾坪古跡拜領地。百三拾九坪餘、持添御年  
貢地。

一、古跡拜領地間口貳拾七間壹尺、裏行三拾八間貳尺五寸。

一、持添御年貢地、間口廿七間五尺、裏行五間。

一、淨土宗本山京都知恩院。

一、駒込千年山榮松院清安寺。

市街恢弘時代



瑞泰寺

一、開山教蓮社順譽上人聰含大和尚、元和五乙未三月十五日卒。  
 一、當寺起立、天正十七丑年ヨリ神田之内ニ有之、御用地ニ被召上、慶安元子年爲代地、當地面拜領被仰付し。  
 文政寺社書上

一、淨土宗

京都知恩院末寺  
 桂芳山護念院瑞泰寺略。中

一、拜領地、間口三拾五間、奥行三拾七間、千貳百九拾五坪。  
 一、持添御年貢地、貳百五拾坪。但シ御年貢地、北境ニ有之、東西貳拾間、南北九間。略。中  
 一、起立、天正十七丑年神田明神下ニ草創仕、桂芳院ト號。其後四世教譽岩茂代、本地就公用被召上、代地於駒込拜領仕、慶安元子年移寺仕し。  
 文政寺社書上

外ニ是年慶安元年ヲ以テ轉移若クハ起立シタル寺社ハ、

太田姫稻荷社

太田姫稻荷社 傳フ。

太田姫稻荷社駿河臺土手十五坪。別當松龍山安重院。

尊像ハ小野篁の作なりと云傳ふ。太田道灌入道長祿二年戊寅江戸城に安置

し給ふ。その後御入國の時、此處に遷座あり。慶安の頃、若林兼次といへる人の母、常にこの社を信じ、孫の疱瘡をいのり、靈夢を蒙り、その難をすくへり。ある奇特のありしうへ、慶安元年九月當社を若林家より建立ありしふり。當社縁起にのち。  
 江戸紀聞

九月慶安元年太田姫稻荷社建立。若林兼次と云ふ人寄付也。  
 武江年表

光桂寺

光桂寺 神田ニ起立ス。

淨土眞宗

東本願寺末  
 淺草新寺町  
 祥雲山光桂寺

一、本尊阿彌陀如來立形木像、長壹尺八寸。  
 一、開基宗覺法師 延寶七己未年十月七日寂。  
 一、中興開基了專 文化八辛未年四月四日寂。  
 慶安元子年神田ニ起立。略。下  
 文政寺社書上

入樂寺

入樂寺 日本橋平松町ニ起立ス。

淨土眞宗

東本願寺末  
 淺草新寺町  
 平松山入樂寺

市街恢弘時代



一、本尊阿彌陀如來 運慶作ト申傳。長貳尺。但金さし。

一、開基順誓法師 延寶七己未年九月廿一日寂。

正保五子年日本橋平松町ニ起立仕、其後年代不知淺草元三十三間堂前遍立寺境内ニ罷在○下。

順了寺 西久保赤羽根町裏通山際ヨリニ移ル。

——文政寺社書上

淨土宗 台徳院様芝御山内御別當惠眼院下寺 飯倉山觀世音院順了寺

一、境内拜領地 表間口貳拾壹間餘。奥行三拾間餘。

右ニ寛永十二亥年八月廿三日西ノ久保赤羽根町裏通り山際ニ三拾間四方、惠眼院開山門譽下屋鋪ニ拜領、其後御用地ニ被召上、慶安元子年五月廿九日唯今之地所ニ家居有之ニ處を替地ニ被仰付○。然ル處何頃ノ歟、表間口廿壹間ニ奥行三拾間ニ相成○。舊記類焼ニ有、委細相分り不○申。當時間數の坪數六百三拾坪ニ御座○。

——文政寺社書上

大乘寺

大乘寺 西久保ヨリ久保三田ニ移ル。

武州荏原郡久保三田 東叡山末 廣布山 大乘寺

明源寺

一、古跡拜領地境内惣坪數三千七百壹坪。○中

一、當寺起立之年譜ハ、元和四戊午年也。是迄西ノ久保ニ在寺之所、慶安元戊子年久保三田ニ寺地移。

——文政寺社書上

明源寺 芝田町ヨリ下高輪ニ移ル。

古跡御年貢地

淨土眞宗 京都東六條本願寺末 芝下高輪 光輪山 明源寺

一、當寺草創之儀、寛永三寅年芝田町ニ起立仕、寅年ノ子年迄右田町ニ罷在ニ處、御用地ニ被相成○。哉、慶安元子年當時之場所ニ引移申。其以前大和國下野郡疋田村ト申處ニ罷在○。申夏ニ有御座○。當所ニ引移○。年月等相知レ不○申。

但、境内之儀、下高輪村百姓八右衛門居屋敷之内六拾坪、萬治三子年九月廿一日買受○。申夏ニ御座○。慶安元年ノ萬治三子年迄、全ク借地ト相見申。度々類焼ニ有、舊記等焼失仕、委敷相知レ不○申。元祿五申年五月八日御法事ニ付古跡ニ被仰付○。段、同月九日寺社御奉行本多紀伊守様於御

市街恢弘時代

四九三



宅被仰渡之。門前町屋古來無御座。

文政寺社書上

善長寺

善長寺 西久保赤羽町裏通山際ヨリ

ニ移ル。

淨土宗

台徳院様芝御山内御別當寶松院下寺  
飯倉山辨天院善長寺

右境内拜領地面六百三拾坪。

右赤寛永十二戊歟乙亥年八月西久保赤羽根町裏通山際ニ多、三拾間四方、芝

御山内本寺寶松院開山信譽上人ニ爲隱居所拜領仕、其後慶安元戊子年五月

御用地ニ被召上、只今之地家居有之所ニ替地拜領仕。然ル處何之頃々歟、表間

口廿一間奥行三十間ニ相成。哉、舊記類焼仕、委細相分り不申。尤善長寺寺

號之儀老、信譽上人目黒善長寺ニ申を相移、則善長寺ニ稱し申。

文政寺社書上

蓮乗寺

蓮乗寺 芝赤羽ニ起立ス。

本山下總國葛飾郡八幡庄栗原領中山村正中山法華經寺末派

谷中妙法寺配下、武州荏原郡三田村

日蓮宗

光秀山蓮乗寺

一、抑當寺開闢起立之儀老、慶長十九甲寅年淨蓮ニ申傳、元來叡山之學徒也、同

年關東ニ下下之總州正中山法華經寺法宣院之附弟子ニ成、御府内芝金杉

濱邊ニ草堂を營三寶祖師子育鬼子母神等奉安置、日夜法華經讀誦無懈怠法

味備居。其頃將軍様濱邊ニ御成之砌、無勿體後草堂之前ニ床机を被爲御立、

御側衆も御休息被成。由、其後御用地ニ相成、芝赤羽根ニ地所被仰付、慶安元

戊子年淨蓮義一寺建立之願を立、改る光秀山蓮乗寺ニ號。淨蓮事日喜と改、

慶安之頃、品川筋ニ御成之頃、御輿入等有、此所景色宜敷地面ニ付、御前御好故

奉差上。替地ハ何モ成共望次第可遣。御意被爲在、早速御側衆迄、日喜難有

御禮奉申上。且方共寺をたゞ、替地被下置。迄、三田寺町法性院ニ申へ住

居致。然ル處日喜慶安三年十二月三日病死仕、弟子京都ニ有之、早々迎を遣

し、翌年御上様御他界被爲遊、其成ニ延引及申。其後右之段奉願上。處、御

奉行所々無相違事ニ段御聞届ケ被爲在、乍去赤羽根近所御靈屋御差支、外

取立。處も無之。先暫時之内芝三田三町目ニ地所被仰付、其後も御奉行所

ニ奉願上。得老又折も可有之、御上御取込中ニ有之。故以折を取計ハ可有

之旨被仰聞。ニ付、夫成ニ年月を送り申。當地寺地ニ相成。上々墓地等取

申。得老、別るせ。難澁仕。故、其後高輪御年貢地之内百八拾三坪買請申

。右地所卵塔場奉願置。



慶安四卯年赤羽根之代地上高輪御年貢地之内被下置<sub>レ</sub>、地所坪數三百四拾貳坪之内二百拾坪分<sub>テ</sub>上高輪分、同百三拾貳坪分三田村之分、御年貢地ニ御座<sub>レ</sub>。都合買添共五百貳拾五坪也。右間數地割之儀<sub>ニ</sub>、別紙繪圖面<sub>ニ</sub>、有<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>。

——文政寺社書上

正覺院

飯倉赤羽ヨリ狸穴へ、又三田臺町へ移ル。

京花園妙心寺末  
三田寺町平等山

禪宗

正覺院

一、境内拜領地東北長サ三拾三間二尺二寸、南より東に二十八間五尺四寸、北より西に四間、西に北に折廻三拾壹間三尺、南より東に十八間二尺四寸、惣坪數七百四拾八坪、并建坪百三拾四坪半。

一、開闢起立<sub>ニ</sub>、寛永元子年<sub>ニ</sub>慶安元年迄飯倉赤羽ニ罷有<sub>レ</sub>處、台徳院様御靈屋御普請之節、寺地御地形之土取場ニ罷成、此代地同處まみ穴へ被下置<sub>レ</sub>。然ル處同年此處<sub>ニ</sub>御用地ニ被召上<sub>レ</sub>、石谷十藏殿預り之組屋敷ニ相渡、住持快翁三田臺寺町へ引移<sub>レ</sub>。其後寶永五年子ノ四月廿三日夜、自火之節舊記焼失、此外事跡不相知。又其後四代目住持大量只今之處右坪數之通無相違拜領仕<sub>レ</sub>。

——文政寺社書上

光臺院

其節之御奉行本多彈正少弼様ニ御座<sub>レ</sub>。

光臺院 西久保ニ起立ス。

京都智恩院末  
芝三田 淨土宗 月秀山榮照寺光臺院<sub>○</sub>中略。

一、當寺開基起立之譯<sub>ニ</sub>、當今内藤山城守殿ニ御座<sub>レ</sub>、同家開祖内藤兵部少輔殿、法號光臺院殿<sub>ニ</sub>申<sub>レ</sub>。右爲菩提母堂長壽院殿慶安元戊子年於西久保貳千貳百坪四方古寺地求<sub>メ</sub>、當寺建立、開山本蓮社誓譽上人山笛和尚歸依之出家故、被成住寺<sub>ニ</sub>。

——文政寺社書上

了眞寺

了眞寺 品川臺町ニ起立ス。

長州豐浦郡府中勅賜金山長福功山護國禪寺末  
品川臺町 曹洞宗 正徳山了眞寺

一、境内古跡御年貢地間數表通三拾七間半餘、裏口幅三拾貳間、北裏行三拾貳間、南裏行三拾七間、坪數千百八拾四坪。

右慶安元子年開闢<sub>ニ</sub>替<sub>レ</sub>地引地等不仕<sub>レ</sub>。

一、開闢起立之譯、



右往古老庵室ニる智證大師作之庚申尊安置有之ハ處慶安元子年赤松左衛門殿之先祖頂松院峯岩道雪居士俗名不知之室長安院月窓了真大師存生之内頂松院殿爲追福右庵室を一寺ニ造立被致シ由申傳ハ尤記錄等無之委細相知申兼ハ得共只今以赤松家代々擅家ニ御座ハ。○中略

一、庚申塔自然石碑長四尺幅貳尺八寸餘。

右銘文等無御座但し鎮守堂之脇ニ在之梵字拾三字年月日等相知リ分左ニ寫し取申ハ尤四百八十年前文和中之塔ニる文字磨滅之分□印仕置ハ。○圖略

——文政寺社書上

正法寺

正法寺 牛込榎町ヨリ早稻田ニ移ル。

日蓮宗

京都二條妙滿寺末  
牛込早稻田町  
長遠山正法寺

一、境内七百八拾八坪。間口三拾五間。裏行貳拾五間。

但、内六百八拾坪持添年貢地。古跡地年貢地。

但、御料所ニる御年貢名主五三郎方ニ差出申ハ。

右慶安元子年榎町ハ當所ニ引移。○下略

——文政寺社書上

光圓寺

光圓寺 慶安元年傳通院曉譽ノ寄附狀ヲ傳フ。姑ク此ニ附載ス。

淨土宗

芝増上寺末  
小石川區久保町  
中臺山醫王院光圓寺

境内三千坪。内二反二畝廿九步傳通院領年貢地。

起立之儀、睨ミ相知レ不申ハ得共、元祿六酉年二月書上ハ寫ニ、天平十三年行

基菩薩起立之由、其後眞言宗之由ニも申傳ハ處、傳通院開山了譽上人中興當

寺開山ニる淨土宗ニ相成申ハ。○中略

一、銀杏樹 廻り三丈七寸。行基之植付。

此木ニちハと申てハぬ有之、其かニちハの出ぬ人トせんし用ハ得セ、ちハ出る、皆人よくハれタ。

一、志き樹 高サ三間餘。廻り貳尺。

右志きみ木ト、天平年中ハ有之由申傳也。此木のかニ諸人鳥目の藥ニ致シハ、

依之木ト成木なき由ニ相見ハ申ハ。當住持文政五正月十八日増上寺山内ニ

參リハ處、晝八ツ時後右之手急ニ痛申ハ間歸寺ハ得テ、夜中も殊之外ハもみ、

翌十九日朝圓中ニ申僧申ハ、ニ老、昨晝後門番左兵衛墓所の志きみの枝取、參

市街恢弘時代



詣之人ニ遣し由、此節を去きみも船間にて無之よし承り、右之とかたじもやと心附、門番左兵衛に申付、水をかむらせ、薬師にまひのさねんい得と、同日夕刻に痛もさる、其後を大切ニ致置申し。

一、傳通院曉譽上人の寄附狀寫、左之通。

武州豊島郡小石川村光圓寺屋敷、堅參拾間、横貳拾五間之所、當地御繩打之節、當院高石之外、御繩打衆に申斷、傳通院殿爲御菩提所、令免許地子也。永代被備香花燈明、代々當寺に不可有疎意者也。

慶安元戊子年八月九日

傳通院中興五世

譽花押

光圓寺

一、古碑



青石ニおる、竪三尺五寸、横一尺三寸、厚サ五分。

文政寺社書上

佛心寺

佛心寺 淺草ヨリ移テ谷中玉林寺ヲ借地ス。

谷中 佛心寺

一、境内禪宗玉林寺借地坪數表間口拾六間、裏行拾六間都合貳百五拾六坪之處、寶曆七丑年四拾坪借添致し由、都合貳百九拾六坪。  
一、寺起立之儀ハ寛永六己巳年ニ御座し。當文政九戌年迄百九十八年ニ罷成申し。

右寛永六年ハ正保四年亥歲迄十九年之間、淺草ニ罷在、慶安元戊子年當所玉林寺境内借地ニ引越し由、但シ舊地名所相知レ不申し。

右慶安元年當所エ引越シ由、當文政九年迄年數百七十九年ニ罷成申し。  
一、本山泉州堺廣普山妙國寺。  
——文政寺社書上

延命院 新編武藏風土記稿ハ七面社ヲ承應元年ノ起立トシ、江戸名所圖會ハ萬治三年ノ起立ト爲ス、今何カ是ナルヲ知ラズ。姑ク此ニ附載スト云フ。

寶珠院延命院

法華妙顯寺末

同所。(○日暮里) 谷中七面。

開山日長上人 慶安元戊子年起立。

七面社

市街恢弘時代



社傳ニ云、慶安二年三澤の局甲州七面山へ千日籠り、七面明神の感得にて、鱗一枚を得て歸府。後當社建立ありしと也。今に其鱗あり。延命院の號も嚴命にて名付く。たゞ祈禱を修するのみにて滅さぬハなし。水戸家より百石の寄附あり。

江戸紀聞

慶安元年戊子正月閏二月十五日改元。

谷中延命院七面宮勸請。開山日朝上人也。三澤の局身延七面宮へ千日の間參籠し、夢中に鱗一枚を感得し當社を創すと云。

武江年表

新堀村武藏國豐島郡中略。

七面社 當社ハ嚴有院殿ニ仕へ奉リシ老女三澤局承應元年甲州身延山七面ヲ勸請スト云。神體ハ身延山貫主三十代寂遠院日通與フル所ナリ。例祭九月十八九日ノ兩日ナリ。別當延命院法華宗京都妙顯寺末寶珠山下號ス。開山日長貞享二年十一月二十九日寂。開基ハ則三澤局ナリ。法名淨心院妙秀日求ト號ス。

新編武藏風土記稿

七面大明神社 同所幕里。延命院といへる日蓮宗の寺に安置す。開山日長上人萬治三年庚子正月十六日夢中ニ靈告を得て後勸請すといへり。或人云、慶安元年三

澤の局、甲斐の七面山へ千日の間參籠し、夢中に鱗一枚を感得す。依て當社を建立し、嚴命に依て延命院と號るとぞ。

江戸名所圖會

誓願寺

誓願寺 開山慶安元年ヲ以テ寂ス。

淨土宗 淺草新寺町 京知恩院末 瑞龜山弘願院誓願寺

當寺起立之儀相知レ不申シ。由緒書舊キ書物等、一切無御座シ。

一、境内古跡拜領地表間口貳拾壹間、裏行三拾壹間、惣坪數六百五拾壹坪之。

一、開山善蓮社貞譽上人淨求閑悅和尚。

右遷化年慶安元子年六月十日。

文政寺社書上

仰願寺 武州埼玉郡新鳥越ニ移ル。

淨土宗 京都黑谷光明寺末 淺草新鳥越町 來迎院轉法院仰願寺

仰願寺

御年貢地 一、境内東西間口拾五間。南北奥行四拾間。坪數六百坪。略。中

一、當寺起立老、元和九癸亥歲武藏國埼玉郡八條領之内新村ニ草創、二十六年在住之所、正保五戊子年新鳥越引移罷在シ。

文政寺社書上

市街恢弘時代



賜附宅記

〔附記〕 賜宅

十二月四日元慶安

一、大岡美濃守吉忠御暇於當地江屋敷被下之并金五枚時服御羽折被下之。

日記

一、是年元慶安於東叡山左麓移前田肥前之宅并町屋二町餘於他所賜其跡於親王之御家來數輩云云。

守澄親王御年譜

十二月十日庚子元慶安元年紀元二三〇庚子三正綜覽

傳奏館及鷹司館ヲ構造ス。大日

大猷院實紀

傳奏館鷹司館構造事蹟

傳奏館鷹司館構造事蹟

傳奏館鷹司館構造 相傳フ。

十二月十日元慶安元

傳奏屋敷御作事奉行被仰付之。

加藤平内泰直書院番。

小坂助六郎雄忠書院番。

鷹司殿御作事奉行被仰付之。

揖斐與右衛門政綱小姓組。

今村九郎兵衛吉重書院番。

日記

十日元慶安元年十書院番加藤平内泰直小坂助六郎雄忠傳奏公卿旅館の構造奉行命せられ小姓組揖斐與右衛門政綱書院番今村九郎兵衛吉重鷹司家旅館構造の奉行仰付らる。

大猷院殿御實紀

光定平内今の呈譜泰直に作る。

上このとし寛永御書院番に列し、中慶安元年十二月十日また傳奏屋敷普請の奉行を勤む。

雄忠八郎兵衛助六郎小坂。

上後御小性組に列し、中其後も傳奏屋敷作事の奉行をつとむ。

政綱半十郎彦右衛門與右衛門致仕號純適今の呈譜政近に作る。

十三年寛永八月九日御小性組に列す。中慶安元年十二月十日仰をうけ

たまはり京師におもむき鷹司家の作事を奉行す。大猷院殿御實紀鷹司家旅館トス。果シテ然ラバ京

寛政重修諸家譜

廿一日辛亥元慶安元年紀元二三〇辛亥三正綜覽

警火令ヲ布ク。正寶

警火令 正寶事録ニ據ル。

市街恢弘時代

警火令

警火令事蹟